茶　茶の栽培を眞劍に實行して居る耕主は尠くない。或耕主の如きは自ら錫蘭島に赴き直接種々の事情を研究した結果其植付反別を增加し、茶質を著しく改良することが出來た。

今や良質の茶が市場にボツ〳〵出る樣になり、それに伴れて地方的需要も增大するであらうから、玆數年間は國產茶の全部は地方的に容易に消化せられるであらう。

第五章　交　通

第一節　鐵　道

ケニヤ、ウガンダの鐵道は從來總督府の經營に屬して居るが、貧弱な同政府の財政では到底線路の延長又は架設が出來ない次第であつたが、曩に英國議會でコロニアル・ストック・アクトを制定し、殖民地で鐵道及港灣の工事の爲起債する場合には本國政府より保證を受ける事が出來る樣になつたので、總督府では財政上大に便利を得ることゝなつた。尙殖民地にはモムバサより西方の奥地ヴィクトリア湖畔のキスム港との間にある幹線と、是れに連絡する幾多の支線があつて、孰れも軌間一「メートル」で列車には寢臺の設備があるが寢具がないから、旅客は之を携帶する必要がある。今其線路及哩數を示せば左の通りである。

イ　ウガンダ鐵道本線　　延長　五八七哩

本線はモムバサ港とヴィクトリア湖畔のキスム港とを連絡する幹線でヴオイ、マガヂ、ナイロビ、ナクルで夫々支線に接續する。客車、郵便列車はモムバサ、ナイロビ間は一週四回交互に發車し、ナイロビ行上り二十時間、モムバサ行下り十七時間を要する。

又、モムバサ、キスム間は一週二回交互に發車しキスム行上りは四十二時間、（ナイロビ停車四時間）モムバサ行下り四十二時間（ナイロビ停車六時間）を要する。

ロ　ヴオイ支線　　延長　九二哩

本線はウガンダ鐵道のヴオイ驛より西方タンガニカ領に入り、キリマンヂヤロ山の南麓カヘに至るもので、夫より北方モシより南方タンガニカ領内のタンガ港に通ずるタンガ鐵道に接續する。

直通列車はヴオイ、モシ兩端驛より一週一回交互の發車で往復何れも八時間半を要する。

ハ　マガヂ線　　延長　九一哩

本線はウガンダ本線のマガヂ驛より西に向ひマガヂ湖に至るもので、マガヂ曹達會社が其產品輸送用として建設したものである。本線はカヂアドで乘替へるものでモムバサ、カヂアド間十九時間カヂアド、マガヂ間四時間を要し、マガヂ、カヂアド間六時間カヂアド、モムバサ間十七時間を要する。但しカヂアド、マガヂ間の列車は一週一回の運轉である。

ニ　シカ支線　　延長　三二哩

ウガンダ本線のナイロビより北方シカに至るもので、更に五十八哩北方のタナ河迄延長工事中である。

ホ　ウアシン・ギシュー支線　　延長　三二六哩半

從來ウガンダ本線のナクルより北西方ツルボ迄一四二哩の鐵道であつたのをウガンダ領内に延長し、一九二八年一月一八日通する樣になつたもので、今迄湖上汽船でキスムに送られたウガンダ東部州の棉花は、今後本鐵道に依つてナクル交叉點を經由し直接モムバサに送られることゝなつたので、ウガンダは之に依つて始めて印度洋沿岸と直通鐵路を得るに至つた。

（ケニヤ、ウガンダ兩鐵道の直通參照）

ヘ　ムベール、ソライ間支線　　九八哩半

右はウアシン・ギシユー支線のロンガイよりソライ盆地に至るもので、一九二七年二月起工遠からず落成の筈である。

ト　ギルギル・トムソンフオール間支線　四六哩半

右は一九二八年一月起工遠からず落成の筈。

チ　キタレ支線　四一哩

右はウアシン・ギシユー支線ソイ・ロード驛より北方キタレに達するもので目下工事中である。

A　ケニヤ、ウガンダ兩鐵道の直通

ケニヤ鐵道の本線ナクルより分岐し西北走して、土地肥沃、氣候温和を以て知られて居る歐洲人の移住地ウアシン・ギツシユー高原を貫通するウアシン・ギツシユー支線を延長し、次でウガンダ國境のトロロに至らしめ、次でウガンダ鐵道のジンジヤ・ナマサガリ間のムプラムチに結び、ケニヤ、ウガンダ鐵道を直通する工事案は、一九二四年英國政府の承認するところとなり、一九二五年になつてウアシン・ギツシユー支線の終點ツルボと、前記ムプラムチの兩地點より起工し、一九二八年の棉花出廻期までには完成の筈であつたが、大體豫定の如くに進行し、同年一月十日ケニヤ、ウガンダ兩總督臨席の下に開通式が擧げられることゝなつた。

本線の開通によりケニヤ、ウガンダ鐵道の最初の連絡は成つたわけで、從つて從來湖上汽船によつてキスムに送られて居たウガンダ東部州（同州は棉花の最主要産地）棉花の大部分は、本線によつて直接モムバサに出ることになるから、棉花逐年の增産とともに、その出廻期にキスムに現出した滯荷狀態は大に緩和されることになる。又本線の完成によつてウガンダは直接印度洋に通ずる交通路を得たのでもあるし、之によつてケニヤ、ウガンダ兩國の連絡も一層密接にせられた次第でもあるから、東阿英領地聯合制度の問題となつてゐる折柄、政治的にも甚だ意義の深い鐵道が實現したのである。因にツルボ・ムプラムチ間新線の距離は一八四哩半で、敷設に要した費用は百二十萬磅に上る由であるが、これは一九二四年に成立した三百五十萬磅の借款中より支辨された筈である。又本線によりジンジヤ・ナイロビ間は三十三時間で達する由である。

尙將來の延長工事は確聞しないが、ジンジヤ・カムパラ間の連絡は早晩實現すべく、其後に至つてはカンパラより東部コンゴーに進出し、一方ケニヤ、ウガンダ兩國の國境トロロより北進し、ナイル河の方向に伸長し、スーダンに通ずることも可能であらう。

B　カンパラへの鐵道開通

東アフリカのウガンダの中心地たるカンパラへの鐵道延長は、ジンジヤに於けるナイル河上の鐵橋と共に一九三一年一月十四日開通し、之に依りカンパラはケニヤ、ウガンダ鐵道に依つて東部海岸へ直接交通が可能となつた。從前同地方と東海岸地方との連絡は直南のヴイクトリア湖横斷の汽船に依るか、又はナイル横斷艀便の極めて不完全な道路に依る外なかつたが今後は通信及貨物の積換を要せず直通の便益を得ることゝなり、從て右は西部ウガンダ開發の重要な道程となるであらう。

從前ウガンダの農業は鐵道に接近して居るケニヤとの境界に接續した地方の棉業に限られ、西部高原は牧畜に最適なるにも拘らず西は白耳義領コンゴーの最も不便な地方と相接續して孤立狀態であつたのである。同西部地方は棉花、珈琲、牛革等の産業に適し、更に西部地方への鐵道延長も計畫中である。現下の世界市場の狀況は農業の開拓には適當でないが、交通の便は經濟關係以外の點で種々の利便を齎すに相違ない。

第二節　水　運

同領内には舟運に便ずべき河川に乏しいが、ヴイクトリア湖はウガンダ及タンガニカとの交通路として極めて重要である。

イ　横斷線

毎週一回ウガンダ鐵道直通旅客及郵便列車と連絡し、キスムを起點として對岸のエンテベ、ポートベル及ジンジヤに至りキスムに歸航する。此航程は四日である。但し使用船はクレメント・ヒルと云ひ、排水量一千噸で設備は優秀である。船賃は對岸迄片道二十志で食事は別である。

ロ　北廻線

二週一回キスム發ムジヤンジ、ジンジヤ、ポートベル、エンテベ、ブカカタ、サンゴ、ブコバ、ムワンザ、ムソマ、カルンガを經てキスムに歸航する。此日數は九日で、船は前者より大きいが設備は及ばない。且定期であるが信頼し難い。

ハ　南廻線

二週一回キスムを發しロ線と同一港を逆に巡廻するもので日數は九日を要する。

ニ　ゼツシ島線

二週一回エンテベを發し、前二線と稍々異なる諸港を巡航する。此日數は十日である。

第三節　道路

道路の延長數は約二千四百哩であるが、多くは粗造で雨期には泥濘となつて車輛の交通は極めて困難である。但し乾燥期には自動車の使用は自由である。

第四節　海運

世界の主要商船國は總て東阿沿岸に航路を有つて居り、同國稅關の報告に依れば一九二七年中モムバサ港の入港船舶數は五九三隻、噸數一、七〇三、八九六噸で前年に比し隻數で七二隻　噸數で二五九、五七六噸を增加した。之を國籍別に見れば左の通りである。

國籍	汽船隻數	登簿噸數	日本	三八	一三七、三八一
英國	三四〇	七七九、一七五	獨逸	三三	一四一、四四五
伊太利	六三	二〇一、七六三	白耳義	一四	四五、一四九
佛蘭西	五二	二一五、九五二	其他	七	一六、一四四
和蘭	四六	一六八、八八七	合計	五九三	一、七〇三、八九六

第六章　ケニヤ殖民地防穀令公布

一九二九年初頭北方スーダン地方よりケニヤ殖民地に侵入した蝗は、勢猖獗を極め間もなく同殖民地全般に漫延し、タンガニカ委任統治地をも襲つたと云ふことである。

ケニヤ殖民地中最も蝗害の激しい地方はキケニ州の一部、メル及エムブ兩土民區、(Reserve) タナ河流域及海岸地方、ウアムバ、テイタ及エルゲヨの各土民區で、同地方の農產物は蝗害の爲に事實上一物も殘さず消滅してしまつた。

そこでケニヤ殖民地政府では、土民區地方が饑饉狀態に陷るべきことを惧れ、對策を講ずる爲、行政部內に特別委員會を任命した。特別委員會は The Convention of Association, ナイロビ商業會議所、モムバサ商業會議所、ケニヤ農主協會、珈琲耕主聯盟、ダルヂテイ商會 (Dalgety & Co.) 等ケニヤ殖民地の農業、商業を代表する團體の代表者と會議を催し、其結果(一)免許なくして或種類の食物を輸出することを禁止する法律を公布すること。(二)食料を管理する爲速に緊急立法の手續を爲すべきことの二項を政府に建言することに決した。政府は直に此建言を採用し第一項に關しては二月五日左の總督令を公布した。

ケニヤ殖民地總督代理は一九二六年關稅取扱規則（The Customs Management Ordinance 1926.）第三章に依て與へられたる權力を行使し、一九二二年二月十二日以降、農務長官の免許ある場合を除き、ケニヤ殖民地より玉蜀黍、同生產品、小麥、同生產品、馬鈴薯、豆の輸出を禁止した。

第二項の食物管理に關しては食糧管理局（Board of Food Control）を設置する爲、其法律案及之に要する經費の要求を臨時議會に提出した。右食糧管理局は食糧の購入分配に關し、廣大な權限を有するもので、或は食物の返還を要求し、或は一定の價格を以つて徵發を爲し、或は饑饉地に於ける食糧の分配を命令し得るのである。此目的を實行せしめる爲臨時議會は同局の爲に二十萬磅の支出を可決した。目下（二月下旬）食糧のない土民は十三萬に上り益々增加の形勢にあるといふ。右食物の管理は五箇月間繼續せらるゝ豫定である。

第七章　關稅

ケニヤ、ウガンダは一九一七年以來關稅同盟を組織し、モムバサに本部を置いて其事務を統一して居る。尙タンガニカは該同盟には加盟して居ないが、同一の關稅率を使用して事實上同盟關係を維持して居り、又一九二三年一月以來三國相互に內國產貨物の無稅輸入を承認し、更に一九二七年八月一日から此主義を輸入品の再輸出に及ぼし、玆に三國相互間に自由貿易主義を實行することゝなつた。

目下の關稅率は一九二四年に制定し、翌年之に小修正を加へた儘爾來引續き實施して居るもので、其主要な規定は左の通りである。

第一類　從量稅

此類に屬するものは箇數、容積又は重量に依つて課稅率を定めるもので、之を適用する重要品及其稅率は左の通りである。

	單位	稅率
セメント	四百封度に付	二志
綿布の內粗布（包裝の儘）	一封度に付	四十仙

「備考」本邦より輸出の粗布はターポリン、角木、帶鐵を使用して荷造が堅固過ぎる爲過重の稅を負擔せしめられる不利益があるが、米國品は荷造手輕な爲、通關に際して有利なるのみならず鐵道を離れた奧地への輸送に際し、人夫の運搬に適する樣包裝替へするのに便利だと云ふことである。

	單位	稅率
魚（鹽、乾竝漬物）	百封度に付	四志
燐寸		
イ　木製マッチ		
（一）箱又は包入り（マッチ百箇以內のもの）	箱又は一「グロス」に付	三志
（二）同　上（マッチ百乃至二百箇入のもの）	同	六志
（三）同　上（マッチ百箇を加ふる毎に）	百箇を單位とし一「グロス」に付	三志
ロ　其他の燐寸		
（一）箱又は包入り（マッチ五十箇以內入）	箱又は包一「グロス」に付	三志
（二）同　上（マッチ五十乃至百箇入）	同	六志
（三）同　上（右に對し五十箇を加ふる毎に）	五十箇を單位とし一「グロス」に付	三志

	單位	稅率
針金		
鐵	百封度に付	一〇志
眞鍮	〃	二四志
銅	〃	三志
アルミニユーム	〃	一八志
石鹼	〃	五志
砂糖	〃	一三志
茶	一封度に付	四五仙
未製煙草	〃	五〇仙

第二類　従價三割を課稅するもの
本類に屬するものは幻燈、活動フイルム、古衣服、金銀細工物、寶石及同模造品、其他の裝飾品、時計、秘藥、香水、香油其他の化粧品等である。
「備考」原價は積出地の値段に運賃、陸揚費等の諸費用を加へ之に口錢一割を加へたものである。
第三類　従價一割を課稅するもの
本類に屬するものは原料品、繪畫、小物金屬、アスベスト、消火器、便器、玩具、印刷用インキ、印刷紙、包紙等である。
第四類　従價二割を課稅するもの
本類に屬するものは他の何れにも屬さない物品である。
「備考」加工綿布は本類に屬して居る。
第五類　無稅品
本類に屬するものは敎育用品、旅客の旅行用品、敎會用品、石炭、石油、藥品、治療及衛生用品、機械其他工業用品、商品でない見本等種類は極めて多い。

ニタンガニカ

第一章　一般事情概況

國際的地位—**位置**—**地勢**—**氣候**—**人口**—**土人宗敎**—**主要都市**
鐵道—**通貨**—**銀行**—**稅關所在地**—**外國領事**

（一）國際的地位　世界大戰前はドイツの殖民地であつたが、平和條約の結果英本國の統治に委任されて今日に及んで居る。所謂コンゴー盆地條約の規定に依つて國際聯盟加入國の國民、商品及船舶は本地域内で商業上完全な均等待遇を享有する譯である。
（二）位置　北はケニヤ及ウガンダに、西はベルギー領土、北ローデシア及ニアサランドに、南はポルトガル領東アフリカに接し、東はインド洋に臨むで居る。
（三）面積　三十七萬四千平方哩、內二萬平方哩は湖水の面積である。
（四）地勢　國土の中部は平均海拔四千呎の高原で、其東方海岸に沿ひ幅十乃至四十哩の低地帶がある。高原の西部は急傾斜をしてタンガニカ湖及ニアサ湖となつて居る。東北部に在る最高峯のキリマンヂヤロ山及メル山は有名である。前者は高さ一萬九千七百二十呎の休火山で四時雪を戴き、後者は一萬四千九百六十呎である。
（五）氣候　海岸地帶は熱帶的で濕氣に富み温度が高く平均年温度七十八度で、海岸と奥地高原との中間に在る地帶（海拔三千乃至四千呎）は可成り暑いが濕氣少く温度も稍々低く晝夜又は季節に係る變化が大きい。中央高原地帶（海拔二千乃至四千呎）は可成り暑く空氣が乾燥して居る爲め耐え難い程ではなく夜は常に冷凉、晝夜又は季節に依る氣温の變化は甚だ大きい。キリマンヂヤロ及メル山麓、ウサムバラ高地、ウフイア高原及南西部の山岳地域（海拔五千乃至一萬呎）には準温帶地があつて、結霜を見夜は寒冷である。氣候のみの點から見れば歐洲人の居住は神經過勞を來すと稱せられる。
雨季に長雨と短雨とがあり、長雨は二月又は三月に初り二、三箇月繼續し短雨は十月より十一月に及ぶ。降雨は熱帶地としては割合に少く旱魃に襲はれることは稀でない。
（六）人口　左の通りである。

土人（註一）　四、七四〇、七六八人
歐洲人（註二）　五、七八〃
其他（註三）
英系インド人　九、四二〃
ボルトガル系インド人　七八〃
アラビア人　四〇四二〃
其他　七四一〃

（註一）一九二八年四月調査、（註二）一九二九年初調査、（註三）一九二一年調査、此數字は現在では著しく增加し、英系インド人の如きは一萬八千以上を數へると謂はれる。

（七）土人宗教　土人の大部分は無宗教又は祖先崇拜であるが、回教に敎化されるものが漸增しつゝあつて其數三、四十萬に上ると稱せられる。

（八）主要都市　ダレサラムは人口二萬五千、インド洋に面する灣內に在る。タンガニカ首府の所在地でタンガニカ第一の海港。中央鐵道を以て西方タンガニカ湖東岸とキゴマに又タボラより分岐する支線に依りヴイクトリア湖南岸ムワンザに通じ、物資集散の中心地である。

タンガはダレサラムの北三十六哩モムバサの南八十哩に在つてインド洋に臨み、ペムバ島と相對しタンガ鐵道を以てモシ、アルシア地方と通じて居る。ダレサラムに次ぐ要港で人口一萬二、三千である。

リンデイはボルトガル領東アフリカ國境の北八十哩に在つてインド洋に臨むLuknkedi河口に位し、リンデイ輕便鐵道に依つてマサシに通じて居る。タンガニカ南部地方の物資の集散地である。

タボラはダレサラムの西方、鐵路五百三十哩の處に在る重要な奥地都市で人口二萬五千。中央鐵道ムワンザ支線の分岐點である。

モシはキリマンヂヤロ山麓の海拔二千六百呎の處に在る珈琲產地の中心で、鐵路タンガ港へ二百十九哩、モムバサ港へ百九十五哩。領內第一の健康地と稱せられる。

アルシアはモシの西方約五十哩、タンガ港より鐵路二百七十一哩のメル山麓に在る。健康地であるから歐洲人の住居するものが多くサイザル產地の中心である。

ムワンザはヴイクトリア湖の南岸にある農產物、皮革等の集散地で、ウガンダ鐵道の湖上汽船は定期に寄港する。

ブコバはヴイクトリア湖の西岸にある土人珈琲の輸出港で、又西方奥地ルアンダに對する物資の集散地である。ウガンダ鐵道の湖上汽船は定期に寄港する。

キゴマはタンガニカ湖東岸に在つて、ダレサラムを距る鐵路七百七十三哩、中央鐵道の終點にある。湖上汽船を以て對岸ベルギー領コンゴーのアルバートヴイルと交通がある。ベルギー領コンゴー物資の一部は此處を經由してダレサラムに運ばれる。

（九）鐵道　中央鐵道　ダレサラム——キゴマ七百七十二哩。タボラ・ムワンザ線　二百三十五哩。

タンガ鐵道　北方鐵道とも云ふ。タンガ港——アルシア、二百七十一哩。

リンデイ輕便鐵道　リンデイ港の附近ミンゴヨより西方奥地ヌダンダに至る延長五十七哩。一定季節にのみ運轉する。

（十）通貨　100 Cent — 1 Shilling, 20 Shilling — 1 Pound.　一「ポンド」は英貨一磅と同樣である。

（十一）銀行　Dar-es-Salaam, National Bank of India, Ltd, Standard Bank of South Africa, Ltd, Barclays Bank, (D.C.& C.),
Bank, (D.C.&C)., Banque du Congo Belge.,
Tanga, National Bank of India, Ltd., Standard Bank of South Africa, Ltd, Barclays
Tabora, Standard Bank of South Africa, Ltd.
Lindi, 〃 〃 〃

Mwanza, Standard Bank of South Africa Ltd, Barclays Bank (D.C. & C.).
Bukoba, Standard Bank of South Africa, Ltd., Barclays Bank (D.C. & C.).
Moshi, Standard Bank of South Africa, Ltd., Barclays Bank, (D.C. & C.).
Arusha, Standard Bank of South Africa, Ltd., Barclays Bank (D.C. & C.).
Kigoma, Banque du Congo Belge.
Dringa, Barclays Bank (D.C. & C.).

(十二)税關所在地　海岸(北より南へ) Tanga, Paugani, Bagamoyo, Dar-es-Salaam, Firene Bay (Mafia), Kilwa, Lindi, Mikindani.
ヴイクトリア湖岸　Mwanza, Bukoba Musoma,
タンガニカ湖岸　Kigoma.
ケニヤ・ウガンダ陸境　Moshi, Longido.
ローデシア陸境　Mbeya.

(十三)外國領事の駐在地は左の通りである。
ベルギー　總領事(ナイロビ駐在)、領事(ダレサラム駐在)、副領事(キゴマ駐在)
フランス　コンシユラー・エーヂエント(ダレサラム駐在)
ドイツ　領事(ダレサラム駐在)
ギリシヤ　名譽領事(ダレサラム駐在)
イタリー　總領事(ナイロビ駐在)
オランダ　領事、モムバサ駐在)、副領事(ダレサラム駐在)
ノルウエー　領事(ダレサラム駐在)
ポルトガル　總領事、ナイロビ駐在)、領事、ザンヂバル駐在)、副領事(ダレサラム駐在)、副領事代理(タンガ駐在)

第二章　タンガニカ委任統治地經濟狀況

タンガニカ委任統治地の總督サー・ドノールド・カメロンは、過般同領の立法會議議員に對し、領の財政並經濟狀況に關する說明を試みたが、今其中より本邦人に興味ある部分を摘出し、多少之を布衍し、同領最近(一九二六―二七年)の經濟狀況を窺て見たい。

イ　通過貨物の激增、鐵道及通信收入の增加。

一九二六年の同領通過貿易額は百四十萬磅を超へるに至つたが、之を一九二四年當時の七十萬磅豪に比すると著しい發達であつて、三年間に實に二倍になつたのである。一九二三―二四年(自四月至三月會計年度)に於ける領內鐵道の經營費は三十三萬磅であつた處、一九二六―二七年には之が三十九萬八千磅に膨脹した。然るに是等二期間に鐵道の哩數は大に增加したにも拘らず、經營費は右の如く二割方の增加となつたに過ぎない。他方鐵道の收入を見ると、一九二三―二四年には二十四萬一千磅、一九二六―二七年には四十七萬五千磅の收入があり、三年間に九割六分の增加を示した。斯の如く哩數が增した割には經營費が膨脹せず、而も收入が大に殖えたのは、其原因を一般貨物の輸送が增加したことに歸せねばならないが、特に前に述べた通過貨物が激增したのが最も有力な原因と見られるのである。而して右に云ふ通過貨物とは、白領コンゴーとダレサラム間に移動する貨物を指すのであるが、斯の如く近年頓に通過貨物が殖えたのは、同領の鐵道當局者が白領コンゴーに對しては素よりだが、其本國たる白耳義に對しても大に運動を試みた結果に外ならぬのである。

同領の經濟狀態が年々好步調で進展しつゝあることは、通信收入の增加によつても窺知することが出來る。通信關係の一

九二三―二四年の經費は六萬一千磅であつて、之が一九二六―二七年には一割四分九厘を增加し、七萬磅になつた。然るに此間に收入の方は二萬九千磅より五萬七千磅に上り、九割二分の增加を示した。而も一九二五年中に郵便料金は二割五分引下げられ電信料金にも低減が行はれたのである。是等の事實は一として同領に於ける貿易の膨脹を示してゐないものはない

ロ　鐵道工事の現狀

ムワンザ・タボラ間の鐵道工事は、困難な自然の障害と鬪ひつゝも着々進行中で、一九二八年四月末頃には開通すべく豫定せられて居る。本線の完成によつてダレサラム港の重要性が增すことは疑を容れぬ。又モシよりアルシアに至る線も同樣に進捗して居り、一九二九年三月中には兩地點の連絡が實現の豫想である。

ハ　南西高地の開發

タンガニカの南西高地は地味肥え氣候溫和で、歐洲人の移住に適するが、交通が未發達のため、一部分を除ては人口稀薄で、殆ど無人境の如き狀態にあるが、而し將來タンガニカ幹線より鐵道が敷設されゝば、歐洲人も、歐洲人ならざるものも、共に高原地方に增殖し得る可能性があると見られて居る。此南西高地にある土地は旣に開放されて居て、時々競賣に附せられてゐるのだが、最近にもイリンガ郡の未開墾地十二萬五千英反を歐洲人移住者の間に分割した。尙近い將來には同じく南高原地であるムフアンヂ及ムボシの兩地方で五萬英反の土地を開放し、之を二千英反づゝに區切て競賣する計畫がある。領政府の斯の如き政策に對しては、少からざる反對が各方面より起つた。しかし領政府としては統治地を開拓するのが義務であると考へ、此方面にあらゆる努力を試みて居るのである。例へばキリマンヂヤロ及メル地方の低地方に、土人所有の土地で捨てゝ顧みられなかつたものが四萬五千英反程あつたのを、土人以外の人種に借地を許し、玉蜀黍の栽培を行はしめた如きは、右に云ふ努力の一端を示すものである。

南西高原地の開發に至大の關係ある計畫は、前述のタンガニカ幹線より此地方を貫通する鐵道を敷設する事業であるが、豫定線としては、移住者側の要望して居るものと、一九二四年東阿委員會の建議したものとの二線がある。即ち獨逸人所有の土地が競賣に附せられた當時、ツクユ附近に廣大な土地を買占め、政治的地步を同領に築いた人々を網羅するところの東阿移住者會議は、累次の決議を以てタンガニカ幹線のドゞマと、南西高原地の一部で、北ローデシア國境にあるフアイフを連絡する鐵道を建設すべしと慫慂して居るのであるが、往年の東阿委員會は技術上並經費上の見地及東部ニアサランド開發の必要によりして、タンガニカ幹線のンジエレ・ンジエレとニアサ湖の北東岸 アメリカ灣に臨むウキーダフエンを連結する線を提議して居るのである。

右のやうな事情であるから、總督も頗る愼重な態度を取つて居る樣子で、決定的報告を控へて居るが、總督の言によれば移住者側の要求に基くドゞマ・フアイフ線の工事は頗る大事業で、尠くとも五百五十萬磅の工費を要する見込である。而し之とても最終的の測量報告ではない。而も未だ此地方の經濟上並農業上の踏査の報告を受理してゐない故、如何なる地點に鐵道を敷設するのが歐洲人の移住に最も適切なりやは決定できない。右の如き次第であるから、南西高原地開發の使命を帶びる鐵道の豫定線は決定してゐないけれども、過般總督は議會の議員に對して、本線建設の最も急務なる所以を力說したのである。

ニ　資本の誘引

領政府は過去三年間領內に資本を誘引することゝ、企業の行はれることに大に努力して來た。總督が昨一九二七年夏英本國に滯在中各方面の人士と會見し、意見を交換した經驗によつても、委任統治地と云ふ點で資本家が二の足を踏んで居るとは云ふ例は一坑もなかつた。今領內に最近著手された企業の例二、三を擧げて見るならば、第一にウビンザ鹽坑の開發を擧げたい。本鹽坑はキゴマとタボラの中間に所在して居るが、之が開發のために資本を誘引したのである。本企業に對する領政府の持株は一萬五千磅であるが、明一九二九年は六千二百五十磅の配當を豫期し得る程の成績を示してゐる。又水力電氣事

業に經驗あるものが領内に水力電氣を起す計畫を以て調査中であるが、先づタンガ市及其附近にあるサイザル栽培地に電力を供給する爲、パンガニ瀑布を利用する目論見を立てた。此計畫が領政府の納れるところとなれば、會社企業を以て之に當らしめることになるであらう。

次に領政府は、領内に好適の地を撰び棉花栽培と米作を大規模に行ふ計畫がある。その爲めに大に資本投下を慫慂する積りであるが、其等の栽培組織は各スーダンで成功を見た方法と、白耳義人がタンガニカ湖の北岸で實行しやふとする方法に倣はんとするものである。右の計畫にも既に有利な反響がある。

斯の如く資本の誘引を計ることを以て領政府は政策としてゐるが、同時に領内土人の產業を奬勵し、原料及食糧の生產額を增し、或は品種を改良する等のことに對しても大に意を用ひて居る。南部地方で收穫した米は、二年前までは土人が頭に載せてキロサに運搬したのであるが、今年(一九二八年)は總て之を自動車で搬出し、從來米の運送に從事した土人は、米作に全力を注ぎつゝあるが如きは、如何に土人の產業が經濟化されつゝあるかを示すのである。

第三章　外國貿易

第一節　一九二七年度

イ　總說

一九二七年(以下本年)の輸出入貿易は、其前年と等しく同領に取つては可なり滿足な結果であつて、先づ健實な發展を告げつゝありと云ふてよかろう。今過去四年間の輸出入額を對照すると。(單位磅)

年別	輸入	輸出	通過貨物	總計
一九二四年	二、〇六二、六四六	二、六九五、二八四	六九三、〇九二	五、四五一、〇二二
一九二五年	二、八六三、九一九	三、〇〇七、八七九	一、三五五、六〇二	七、二二七、三九八
一九二六年	三、五九七、九二四	三、〇二五、九七八	一、四二三、〇四五	八、〇四六、九四七
一九二七年	三、七六四、七八七	三、二九五、四六一	一、四九三、〇一〇	八、五五三、二五八

であつて、逐年其總額が增加しつゝあることを見ることが出來る。而して右の內通過貨物は主として同領經由隣接國たる白領コンゴーへ輸送されたものである。又最近二年間の輸入超過の原因は、政府購入品、主として鐵道材料が輸入に合算されて居る爲であつて、此政府購入品の額は一九二六年五五八、七一六磅、一九二七年五七〇、八七九磅に上つて居る。

ロ　輸出貿易

本年の輸出貿易總額は三、二九五、四六一磅であつて、其前年に比し約八分五厘の增加を示して居る。今其主な國產品を品別表示すると左の通りである。

最近二年間重要輸出品々別表　(單位磅)

品目	一九二六年	一九二七年
豆	九四一	四、一五四
玉蜀黍	三、五六六	七、七七四
黍	二四、〇九四	二九、一六四
米	五七、五六四	七二、二五三
其他の穀類	六、二〇〇	六、八六八
オイル・シード・ケーキ	一、三七五	二、〇四七
羊及山羊	二、六九七	二、〇四六
海鼠	四、三一二	二、一六五
珈琲	四九五、一九九	四六三、四二〇
乾及鹽漬魚	八、六九七	七、一三六
牛酪油(Ghee)	三二、五七七	三〇、〇一五
鹽	一三、三五六	一〇、二四六
未製煙草	三、八二七	三、五七二
雲母	二六、五九二	一六、九九四
金剛石	三六、〇二六	一〇二、七五四
錫鑛	七、八七〇	六、〇七一
シダー材	一、五五二	三、八九二
マングローブ材	五、二四六	四、二七七
其他の木材	一六、〇五一	五、七九〇
棉花	四二七、四三七	三六一、九一六

サイザル麻		九二一、二九三	一、一六〇、七三五	羊	皮	二六、九六六	三〇、三五六
棉	實	三二、一八五	一八、四四〇	その他の獸皮		二、一一八	四、〇九一
胡	麻	六八、五八五	七四、〇一七	護	謨	一四、九一七	一〇、九一五
コプラ		一五二、三一八	一四三、〇二四	ワツツル・バーク		二四、三六一	三〇、五二八
落花生		二五四、九〇三	二三八、〇八一	象	牙	六六、一七〇	五四、六八〇
アイボリー・ナット		八五八	五、九三六	木	綿	二、八五五	六、六二三
亞剌比亞護謨		三、八九一	七、三四四	犀	角	一、二四九	二、九一七
コパル		一四四、四九八	一三、二六五	貝	殼	一、四五四	三、〇六七
蜜	蠟	四八、一七九	八〇、八六三	野	獸	九、四九二	一、一八六
牛	皮	一三七、四六九	二〇六、三五六	金	塊	三一、二九〇	三六、二〇三

右表で示す通り、本年の輸出品は總じて前年に比し其額では餘り劣つて居ない。而して輸出品中の大宗たるサイザル麻は頗る好結果を見せたが、其代り棉花は海外市價暴落の影響を蒙つて著しく減額して居る。尙左に其主な國産のみに就き過去四年間の輸出量額を掲げて參考とする。

品目	單位	一九二四年		一九二五年		一九二六年		一九二七年	
		數量	價額(磅)	數量	價額(磅)	數量	價額(磅)	數量	價額(磅)
サイザル麻	噸	一八、四二八	一、一六〇、七三五	一八、二七六	一、一六四、八三七	二五、〇三三	一、七六四、九六六	三五、〇三六	二、四七三、三五六
落花生	〃	一八、六八四	一八、四四〇	九、〇五五	九、〇五五	一四、一四七	二、一一八	四、〇九一	四〇九、一〇五
珈琲	斤	一〇五、二三三	七四、〇一七	一三〇、七九三	一二〇、一八六	一三一、八九九	一四三、〇二四	一三、五二八	一、〇八五、一四〇
棉花	〃	三五六、九七七	一四三、〇二四	一〇九、四五〇	一〇〇、八四八	八八、二七二	二三、八八一	三四、六八〇	三、八九一、四〇〇
「センタル」	噸	八、一三五	二三八、〇五一	七、三四八	七、六二三	七、三六七	一、四五五、〇八八	六、六二三	一、八五九、四四〇
コプラ	〃	三五〇、九四八	三四、九八五	四一、九〇七	三三、一三五	五五、四六七	四、九四九、二一	二、九一七	二、四〇一、一四〇
牛羊皮	斤	二六九、六六七	一四三、〇二四	一五四、四四一	一四七、八四一	一〇二、〇四六	一四、一四七	一四、一四七	一四、一四七、〇〇〇
皺類	〃	三、九〇九	八、一四七	三、五六三	三、五九六	三、七三三	三、五六三	二、一六九	二、一六九、〇〇〇
胡麻	噸	八、四九七	一、一六四、八三七	五、八五八	五、八五八	六、一四七	六、一四七		
蜜蠟	噸								

其外見逃すことの出來ないものは鑛物であつて、其採掘は最近の發達に係り、將來非常に有望視されて居る。而して最近二年間の輸出額を表示せば左の通りである。

品種	單位	一九二六年		一九二七年	
		數量	價額(磅)	數量	價額(磅)
黃金	「オンズ」	八、〇四九	三二、九〇	九、五四八	三六、二〇三
雲母	噸	五三	二六、五九二	三五	一六、九九四
チリー(唐辛子實)	〃	一八、一九八	二、四七四	一三八	二、四七四
牛酪油	〃	七、四二八	七、六五八	七、九二三	四六五
金剛石「カラット」		六、〇五六	三六、〇二六	一八、〇九五	一〇二、七五四
錫鑛	噸	四五	七、八五〇	三四	六、〇七一
合計		—	一〇一、七七八	—	一六二、〇二三

更に輸出總額を國別表示すれば左の通りである。

最近二年間輸出額國別表　(單位磅)

國別		一九二六年	一九二七年
英	國	四八一、三四九	五五二、四四九
ザンヂバル島		一九六、八〇七	一七六、七〇一
ケニヤ及ウガンダ		一、〇八五、五七一	八八八、八八九
印	度	八六、七二六	六三、六七五
南阿聯邦		五四、二九七	一三二、五〇五
其他の英領諸國		一〇、七八一	五、九九六
米	國	九八、九五五	六〇、五二九
佛	國	一四八、六〇三	二三〇、〇四七
獨	逸	二三三、四四〇	三六九、一六五
白耳義		四三九、七七七	六二六、二六六
和	蘭	一二三、六二七	一二一、三九七
伊太利		二九、五八八	二三、六四〇
日	本	九、五四八	二六、九〇八
白領諸國		一六、九〇六	一五、九八六
葡領諸國		二、八九六	三、八九四
その他の諸外國		七、二五四	七、八四
合	計	三、〇三五、九七八	三、二五五、四六一

八　輸入貿易

本年の純輸入貿易も亦多少の增加を示し、其總額三、七六四、七八七磅で、前年に比し約四分五厘を增した。先づ重要輸入

品の品別統計を左に掲げよう。

最近二年間重要品別輸入額統計（單位磅）

品目	一九二六年	一九二七年
小麥	五、五三六	六、七〇八
玉蜀黍	五、二三四	二、一六七
米	四三、〇九九	三六、四三七
其他の穀類	二三、七四二	二三、〇八二
小麥粉	三九、六七三	四四、七九五
玉蜀黍粉	三〇、八四七	三三、一〇五
ハム及ベーコン	四、四〇六	五、〇二三
肉類罐詰	一、四七九	一、八八六
麥酒及サイダー	一八、七〇三	二三、九六〇
飲料及シラップ	三、二〇三	三、〇五一
ビスケット	七、八七三	九、三六一
バター	九、三六六	一〇、九六九
チーズ	三、〇八八	三、五二八
珈琲	二、七五一	一、五四一
菓子類	六、九四六	七、一九八
乾及鹽濟魚	七、三〇七	七、八〇九
魚類罐詰	三、五九一	三、五五七
罐及瓶詰果實	二、八七五	一、八六五
牛酪油	三、一四一	四、一九六
ジヤム及ジエリー	二、〇〇六	一、九四〇
煉乳	一五、七八七	一六、七二一
生食料品	九、四二七	一二、二七九
其他の食料品	四〇、五八一	四三、八六二
鹽	八、二三四	六、五三三
香料	九、一三八	八、八二六
飲料用酒精	三七、八八〇	四四、六八四
砂糖	三一、一一〇	六一、七五〇
茶	一八、〇二二	三三、一三四
葡萄酒	一一、四三三	一三、八五一
鹽草類	六六、〇九四	七九、〇一七
石炭	一〇、三六	四、八三五
木材	二七、八九一	五六、四三八
骸炭	一、五三一	一、五六七
陶器及磁器	一三、八五五	一六、一六三
煉瓦	二、七八一	三、一八八
硝子製瓶及壺	一、四八六	二、二七
硝子器	二、四九九	三、一七三
硝子製ランプ用品	一、四二九	一、四八一
其他の硝子製品	二、六〇三	二、六八一
石綿製品	一、八二四	二、四九七
セメント	四三、七〇一	一〇二、八五八
其他の坑產品	四、一四三	七、一六五

亞鉛鐵板	四二、三五八
鋼類	二、八七四
琺瑯鐵器	二三、八八一
鐵道用軌條	一四九、四六八
其他の鐵及鋼鐵製品	一五四、七二三
アルミニユーム製品	六、六五八
眞鍮製品	六、七二〇
銅製品	二二、八四四
錫製品	二、二九九
其他の金屬製品	三、八〇五
農具	四、八〇六
大工道具	八、四四九
斧類	五、五二四
時計	二、六四二
食卓用金屬製品	四、二六五
醫療用具	七、二九一
金物類	一四、一七一
其他の諸道具及其部分品	一一、三〇六
ナイフ	三、四〇一
寫眞機及其用品	一、四六六
銀類	一〇、〇九五
電線及電氣用品	一三、八八六
電話分電信用材	六、九六二
農業用機械	六、一六五
クレーン及其他の昇降機	一、四一五
各種の機關	二六、二六五
諸機械の部分品	五九、一〇四
印刷用機械	二、八二
ポンプ	三、一五
裁縫用機械	六、七三五
タイプライター	五、七五〇
秤量機械	一、二八七
其他の機械類	四九、八〇〇
家具	九、七〇九
建築用材料	五、三五三
未晒木綿反物	三三、八七九
晒木綿反物	五〇、四〇二
更紗木綿反物	三〇、一一四
色木綿反物	一八六、一三三
縞木綿反物	一二八、〇二八
綿製ブランケット	五二、五四八
綿製撚糸	二一、三〇五
綿製單糸	一、六二四
其他の綿製品	二六、四三〇
毛製品	六、三六三
絹反物	二、七一四
其他の絹製品	七、九六七
カンバス及テント類	二、五八一
	七二、二六四
	四、八五三
	二一、九八八
	一六三、六七八
	一四八、六七九
	七、二〇七
	九、一四四
	一五、八九七
	四九、八〇六
	一、八八〇
	七、〇五七
	八、六〇一
	七、六六三
	八、四〇一
	七、四八四
	一、九八〇
	三、五五四
	八、〇六一
	二一、三六七
	三五、九五五
	七、四九八
	二、九八〇
	三、二一七
	八、六五六
	五、八〇〇
	三、二九〇
	五三、九八七
	二三、九五〇
	八、六二
	二九九、九七三
	七二、八四四
	一六〇、七二九
	二三一、五七四
	一八〇、七五五
	六一、〇〇五
	二三、八一〇
	一、三三四
	二九、五〇三
	八、二〇九
	一、四八〇
	二三、九二一
	二三、九二三

繩及綱類	五、〇五六	五、八五七
ガンニー・バッグ	五七、〇八二	五一、五五九
黄麻製織物	一〇、九七八	一一、二二一
衣類	一九、五二〇	三三、一一六
靴	一三、五六六	一八、一二八
裝身用品	五、六九二	七、九七七
帽子	一六、三〇七	二一、三〇二一
綿又は毛製莫大小下着	二一、三八八	三五、二七
綿又は毛製靴下	二、八九二	五、一〇一
化學製品	八、八三六	一〇、〇六七
防腐及除虫劑	三、一二三	四、三五三
藥品	二〇、八一六	三一、九四五
染料及鞣皮材料	一一、二八一	一一、二五
規那鹽	二、四九三	二、五七三
ペンキ原料	八、八七九	九、四六九
燃料用油	三、五二六	五、四六九
機械用油	一八、一九四	一九、三五三
自動車用ガソリン	五九、〇八一	九五、三〇四
石油	一八、五三八	七三、九四六
石鹸	二、八三七	三〇、八〇二
其他の油類	八、一〇六	四、四七七
皮革製品	四、五〇七	二、三二一
印刷用紙	四、〇四七	二、二一〇
其他の紙類		二、八五五
文房具	二、六二一	二四、四二九
其他の紙製品	五、五五一	六、〇八六
車輛	二、三六一	四、六九五
自轉車	一三、八三二	二二、四四三
自動車及其部分品	一四五、九六七	一八六、九〇一
其他の車類及其部分品	七三、二一六	四八、五四四
鐵道用品及材料	五八、七二八	七二、五二七
舟及端艇	四一、九〇二	六二、二三
護謨製品	二一、八二四	三二、四三四
彈藥	六、四一三	五、六五五
珠數玉	一三、六七四	二三、八二七
靴墨及磨粉	一、八五〇	二、六九三
書籍及印刷物	六、四六九	七、四六一
箒及刷毛	二、一〇三	二、〇三六
爆發藥及其用品	四、三二六	六、〇五五
銃器	七、一四四	九、三六〇
寶石及金銀細工	二、七三四	五、二七
ランプ及提燈	二一、四一九	二三、九〇六
燐寸	一〇、七五〇	五、九八〇
樂器	七、三三七	二、四九四
香水及化粧品	三、四六六	四、三〇〇
洗濯用品	一、七六〇	一、五四五
玩具及運動用具	四、三八九	五、一三〇
蝙蝠傘	四、三九五	一〇、四七九

右の內就中多額に上るものは綿製反物であつて、本一九二七年の輸入額は九四四、九一五磅に達し、輸入總額に對する比例は二割五分七厘となり、其前年の割合二割五分九厘に比し二厘を減じた。而して此等の綿製反物の中で未晒木綿反物は三割一分八厘、晒木綿反物は七分六厘、更紗木綿反物は一割七分、色木綿反物は二割四分五厘及縞木綿反物は一割九分一厘となつて居る。

又本年中未晒木綿反物のみの輸入額は二九九、九七三磅であつて、前年に比し三二、九〇六磅を減少したが、之に反し其數量は一四、八三六、四四四碼で、前年の一九二六年に比し九二〇、四六五碼を增加し、即ち其消費量は逐年增加しつゝあることを見ることが出來る。而して其價額の減少した譯は印度產棉花の相場下落に原因して居ると云ふことである。

其他の綿製反物の本年の輸入額合計は六四四、九四二磅で、前年に比し一六〇、二四五磅、即ち三割三分を增加したが、夫は强ち消費額の增加したものではなくて、年末に迫つて多額の輸入を見、在荷嵩み、一九二八年に持ち越しとなつたものである。蓋し最近諸國商社の長期信用貸をすることゝなつた結果だと云ふ。

次に輸入總額の國別及百分比例の表を左に揭げる。

最近二年間輸入額國別表　（單位磅）

國別	一九二六年		一九二七年	
英國	一、七一〇、六九三	三三、七三	一、四八五、五二〇	三七、六二三
ザンヂバル島	九、三〇四	二九五、四四五	七、六九六	四〇八、七九三
ケニヤ及ウガンダ	一三四、七七二	一九、〇八七	一七八、五五二	四一、二三三
印度	四六三、一〇八六	二四、三五〇	四八五、六八〇	三三八、八七七
南阿聯邦	一九、二四五	二四、〇五〇	二三、九〇二	二八、〇六〇
其他の英領諸國	六三、〇七三	二八、八三三	六五、六二	二三三、一三一
米國	一八四、〇〇四	九、七八	二六三、四一〇	一、三三八
佛國	三三、七二三	三七、六二三		
獨逸	二九五、四四五	四〇八、七九三		
白耳義	一九、〇八七	四一、二三三		
和蘭	二七二、二九五	三三八、八七七		
伊太利	二四、三五〇	二八、〇六〇		
日本	二三八、八三三	二三三、一三一		
葡萄牙	九、七八	一、三三八		
白個諸國	四、九五六	五、二五六		

伊領諸國	三三	一三四
葡領諸國	一、三〇七	七九

一九二七年輸入額國別百分比率

國別	百分比率
英國	三八・〇
印度	二三・二
ケニヤ及ウガンダ	四・九
其他の英領諸國	二・三
獨逸	二・一
和蘭	八・九
其他の諸外國	三六、八〇二
合計	三、三九七、九二四

米國	七・二
日本	六・三
白耳義	一・一
佛國	一・〇
其他の諸外國	六・〇
合計	一〇〇・〇

二　對本邦貿易

本一九二七年の對本邦輸出入總額は二六〇、〇四〇磅で、前年に比し二一、六五九磅を增加し、逐年徐々に增進して居る。而して右以外に同領を通過して白領コンゴー地方へ輸送された貨物は六、五〇五磅に上り、前年の五一六磅に比し、是亦五、九七九磅を增加して居る。

第一、輸出貿易

本年同領より本邦への輸出額は二六、九〇八磅で、前年に比し一七、三六〇磅を增加したが、夫は棉花輸出の增加に基くものである。今左に其品別表を揭げる。

最近二年間對本邦輸出品別表

品目	單位	一九二六年 數量	一九二六年 價額(磅)	一九二七年 數量	一九二七年 價額(磅)
海鼠斑	斤	—	—	七〇	一三〇
棉花「センタル」	四、四八六	九、四六三	九、五三九	二六、二九〇	
棉實噸	二	八五	九一	四八〇	
其他	—	—	—	八	
合計	—	—	—	二六、九〇八	

尙棉花の仕向先を表示すれば左の通りである。

國別	一九二六年 數量(センタル)	一九二六年 價額(磅)	一九二七年 數量(センタル)	一九二七年 價額(磅)
英國	三四、四二九	二三九、四六九	三五、六三六	一六四、六三〇
ケニヤ及ウガンダ	四六、二七	一九八、六九九	三二、五六一	一三三、七六六
印度	二三、九三五	八二、八八九	二一、三二〇	四六、一五五
日本	四、四八六	九、四六三	九、五三九	二六、二九〇
其他の諸國	一、四四五	六、九一七	三三五	一、〇五五
合計	一〇九、四五〇	四二七、四三七	八八、二七二	三六一、九一六

第二、輸入貿易

本邦よりの輸入は前述の通り漸增を示し、本一九二七年は二三三、一三二磅に達し、前年に比較すれば四、二九九磅の增加に過ぎないが、之に通過貨物の增加額を合算すれば結局一〇、二七八磅の增加となる譯である。而して同年本邦よりの純輸入額は總輸入額に對し六分三厘に當つて居る。先づ其品別表を揭げれば左の通りである。

最近二年間本邦品輸入品別表

品目	單位	一九二六年 數量	一九二六年 價額(磅)	一九二七年 數量	一九二七年 價額(磅)
砂糖	斤	—	—	二〇〇	—
陶器及磁器		—	八四七	二、一七三	八六
硝子製瓶及壺	箇	二七、五五六	四八	六六、八四四	八六
硝子器		—	—	五三三	四四
其他の硝子製品		—	二〇九	—	四九

琺瑯鐵器	噸	二	一、三二五	一、七二八	一三五
アルミニューム器		—	—	一六	—
眞鍮製品		一八	一二八	七五	—
金物類	所	九	一四〇	一四四	一九
家具		二九	九七	一七四	一七
未晒木綿反物	碼	七、八五七、七五八	一八七、五四〇	八、六六一、三五〇五	一六六、八六七
晒木綿反物	〃	一八、八八八	四四〇	二五〇、六四七	五、三七四
更紗木綿反物	〃	四、八五五	一五八	八五、五九三	二、〇三四
色木綿反物	〃	六〇、八九九	一、四三八	一三七、一三〇	二、五九七
縞木綿反物	〃	三六四、〇一六	九、六一六	九六二、一一	一六、二四二
綿製ブランケット	枚	—	—	四二五	五〇
其他の綿製品		—	九三四	—	三、三五五
毛製品		—	—	一三三	一三三
絹反物	碼	八六二	一〇三	二、七三四	一五五
其他の絹製品		—	一、六二四	—	三、二五五
カンバス及テント類		—	—	一二四	一二五
莫蘿		二、三八七	一〇五	三、〇〇三	一、二四六
衣類		—	五一〇	—	六六
靴類	打	二三	一七	六六	三三一
裝身用品		—	三二	—	六〇
帽子	〃	四四	四六	七五	四五、二四五
綿莫大小シャツ	〃	三二、五一八	一七、八八五	一九、五四六	五、三〇〇
綿製靴下	〃	一、八五一	七〇四	九四六	—
皮革製品		—	六五	一八八	—
文房具		—	一五六	—	—
籠		—	六二	一五五	—
珠數玉	封度	三、〇五〇	四一	四九〇	一五五
篩及刷毛		—	一四	四〇	—
寶石及金銀細工		—	三七七	一、〇五〇	—
玩具及運動用器	「グロス」	一〇、九二四	七六六	四五五	一、九五六
蝙蝠傘	打	六	六一	二六	二三五
其他		一七	一、九九六	八三	—
合計		三八、八三三	三五、一三三	二、八五六	—
				二三五、一三三	—

右表に示す通り其最も多額なものは未晒木綿反物であつて、到底他國の匹敵する處でない。次は綿製莫大小シヤツ及縞木綿反物の順序となつて居る。而して此等重要輸入品の競爭狀態を表示すると左の通りである。

最近二年間本邦重要輸入品の競爭國對照表　（單位磅）

未晒木綿反物				更紗木綿反物			
國別	一九二六年	一九二七年		國別	一九二六年	一九二七年	
英國	五、一三七	六、五三三		英國	二七、七七八	三九、四五四	
印度	一二三、八九九	九六、一四七		印度	一、四三〇	三、四四三	
米國	四、六〇五	八、九七一		和蘭	一八、八三八	二〇、七〇六	
獨逸	四、一八九	一、二五五		日本	四六〇	五、三七四	
和蘭	七、六五五	一七、〇七〇		其他の諸國	一、八九六	三、八六七	
日本	一八七、九五〇	一六六、八六七		計	五〇、四〇三	七二、八四四	
其他の諸國	一〇、八〇四	三、三三		英國	七五、四八五	九四、五八七	
計	三三三、八七九	二九九、九五五		獨逸	三、一〇五	七、九四四	
晒木綿反物				和蘭	五〇、一〇六	五三、五三三	
日本	一五八	二、〇三四		日本	一五八	二、〇三四	

其他の諸國	一、二八〇	二、六四二
計	一三〇、一三四	一二〇、七二九
色木綿反物		
英國	七二、五八三	八六、三四二
印度	六一、七八〇	七二、八一二
獨逸	一、七六二	六、四九八
和蘭	四六、四二三	五八、一二八
伊太利	一、三三六	四、一四一
日本	一、四三八	二、五九七
其他の諸國	八一	一、〇五六
計	一八六、一三三	二三一、五七四
綿木綿反物		
英國	二九、六四九	三四、三八七
印度	三三、〇一八	三四、九六七
獨逸	一〇、三三三	八、八三七
白耳義	六九一	九、〇四二
和蘭	四三、〇三七	七三、〇二八
伊太利	一、九八〇	三、五九六
日本	九、六一六	一六、二四二
其他の諸國	七一四	六九六
計	二八、〇一八	一八〇、七九五
綿製ブランケット		
英國	一、八三四	二、七九六
印度	六、六一三	七、九三二
獨逸	六、三三	八六、三四二
和蘭	四六、一四〇六	五四、一四〇八
日本	一三五	三五
其他の諸國	六、一〇〇五	六二、一〇〇五
其他の綿製品		
英國	一七、六三〇	一五、一三八三
印度	三、七九〇	五四、四九五
獨逸	二、三五四	三、一七七
日本	九三四	三、二七三
其他の諸國	一、五四一	二、〇九五
計	二六、四三〇	二九、三〇三
絹反物		
英國	二、〇八	五六一
日本	一〇三	一二五
其他の諸國	三二四	七六四
計	二、七二四	一、四八〇
其他の絹製品		
英國	九八九	二、七二八
日本	一、六四四	三、二五五
其他の諸國	五、一三八	七、九三〇
計	七、八三二	一三、九二三
毛又は綿製莫大小下着		
英國	一、二七九	九五九

印度	一、〇九〇	一、〇二二
獨逸	一、一三二	四一、六四〇
日本	一七、八五五	一九、五九四
其他の諸國	二二	一、〇二一
計	二二、三八八	二七、二二七
毛又は綿製靴下		
英國	一、二六	一、〇七七
日本	七〇四	九四六
其他の諸國	一、〇三二	二、〇七八
計	二、八九二	四、〇五二
陶器及磁器		
英國	五、一五五	六、二五七
獨逸	三、六七四	五、二六一
和蘭	二、三〇九	八八六
日本	八四七	二、一七三
其他の諸國	八〇〇	一、五八六
計	一三、八八五	一六、一六三
琺瑯鐵器		
英國	一、五四八	三、五二一
獨逸	三、二五三	一四二
日本	七六六	四九五
其他の諸國	七、四三一	五、三三三
計	一〇、七五〇	五、九八〇
獨逸	四、二八六	三、九三八
和蘭	一、七五六	五六九
日本	一、三二五	一、七一八
其他の諸國	三、七六六	二、二五三
計	一二、九八一	一一、八八七
珠數玉		
佛國	一、〇八五	四二八
獨逸	四、九三四	四、五三八
和蘭	九一九	一、一七三
伊太利	四、八七四	三、四二九
日本	三八四	四九〇
其他の諸國	一、四七八	二、七六九
計	一三、九七四	一二、八二七
燐寸		
獨逸	二、五五三	一四二
日本	七六六	四九五
其他の諸國	七、四三一	五、三三三
計	一〇、七五〇	五、九八〇

最近二年間ダレサラム港出入船舶統計

一九二六年

國籍別	入港隻數	陸揚貨物噸數	船積貨物噸數
英國	一八六	三〇、三七八	三三、三五五

一九二七年

國籍別	入港隻數	陸揚貨物噸數	船積貨物噸數
英國	二三〇	二二、四六一	二八、三〇四

ザンヂバル	三六	二〇三	五四	五五七	二三三
佛國	三三	三五一	三五	二七五	一二
和蘭	三八	七三四	四六	一六、七五一	三三、四五五
獨逸	三五	一三、七四	三六	一四、〇〇〇	一〇、三七八
諾威	一	一七九	—	—	—
伊太利	八	四二九	四	三四四	六六
丁抹	二	二、四五〇	一	二九四	—
日本	三	八五五	一八	一、九〇七	一、三三一
白耳義	—	—	一四	九、一五五	九、三八〇
合計	三六〇	九二、六六	四二八	一〇五、七五三	七二、五二八

第二節　一九二九年度

イ　外國貿易

一九二九年の同領に於ける輸出額は三、九八八、三六五磅で輸入額は四、二八五、九五二磅である。主要輸出品は左の通りである。（單位磅）

品目	數量	價額
サイザル麻	（四五、七六噸）	一、四八五、九三二磅
棉花	（二一〇、八二センタル）	四七、八五二〃
珈琲	（一七七、一四〇 Cwt）	五八八、八七一〃
グラウンド・ナッツ	（七、七五五噸）	二一〇、四四八〃
皮革	（三五、九八八 Cwt）	三三、〇〇二〃
コプラ	（七、九二〇噸）	一四五、〇一五〃

主要輸入品は左の通りである。（單位磅）

小麥	（二二〇、九二四 Cwt）	九五、〇九一〃
シム・シム（胡麻）	（四、二五六噸）	七四、七七三〃
蜜蠟	（六、七二一 Cwt）	四八、一四九〃
ギー	（九、〇五五 Cwt）	三六、五四七〃
ダイアモンド	（二三、二四〇カラット）	九一、二四七〃
金	（一〇、四五三トロイオンス）	三九、一八四〃
ケロシン竝ガソリン		二三七、四五七〃
砂糖		七一、五二八〃
米		八五、一九八〃
强酒精		四七、四二六〃
卷煙草		七五、一二六〃
綿織物		九〇三、三四四磅
鐵竝鋼製品		三一七、〇三五〃
食料品		二〇三、四一三〃
機械		二六四、六二六〃
建築用材料（セメント、亞鉛板を含む）		二九二、七六六〃

ロ　對本邦貿易

タンガニカの一九二九年（以下本年）に於ける本邦品輸入額は二十五萬五千七百磅、一九二八年（以下前年）に比較して一萬二千八百磅を增加したが、タンガニカ輸入總額に對する百分率は六分五厘から六分に低下した。本邦への輸出額は十二萬二千九百磅、で前年に比し六萬七千四百磅の增、約一・二倍の增加である。タンガニカ輸出總額に對する百分率も一分四厘から三分三厘に增進した。

タンガニカ對本邦貿易額　（單位千磅）

	一九二九年		一九二八年	
	金額	百分率	金額	百分率
本邦よりの輸入額	二五五、七	六・〇	二四二、九	六・五
本邦への輸出額（タンガニカ產物）	一二二、九	三・三	五五、五	一・四

通過貿易

本邦よりの輸入	三二、九	三・二	一六、〇	二・五
本邦への輸出	二	—	—	—

（一）本邦よりの輸入

（一）一九二九年に於ける本邦よりの輸入額の九割九分八厘は製品で、殘餘の二厘は食物、飲料及煙草の類である。

本邦よりの輸入額（類別）　（單位磅）

類別	一九二九年 金額	百分率	前年に比し増(十)減(一)
第一類（食物、飲料及煙草）	四三四	〇・二	(十) 二二
第二類（製品）	二五五、二六四	九九・八	(十) 三、七二一
計	二五五、六九六	一〇〇・〇	(十) 三、八五一

輸入額の増加率は五分二厘である。

(二)本邦よりの供給品中織物、被服の様な所謂繊維紡績品が本邦供給額の九割二分一厘を占め、其内綿布七割二分、莫大小肌衣一割三分、絹物が三分を占めて居る。繊維紡績品の外主要なものは琺瑯鐵器、靴、洋傘、貴金石飾具、陶磁器、硝子、セメントである。

本邦よりの主要供給品（單位磅）

品目	金額	百分率
(イ)織物、被服及繊維類		
綿製品		
綿布	一七六、六四三	六九・〇
其他	八、三六六	三・三
莫大小製品（羊毛及木綿）		
肌衣	三四、〇四八	一三・三
靴下及ズボン下	二、一九四	〇・九
其他	一二三	—
絹物	七、七四六	三・〇
人絹物	二、四四九	一・〇
被服（帽子及靴を除く）	二、五六一	一・〇
其他		
合計	一、五七三	〇・六
(ロ)陶磁器	二三五、五〇三	九二・一
(ハ)硝子器	二、三五二	〇・九
(ニ)セメント	一、三二一	〇・六
(ホ)琺瑯鐵器（エナメル塗）	一、二四六	〇・五
(ヘ)靴	三、七五七	一・四
(ト)洋傘	三、五二六	一・三
(チ)貴金石飾具	三、四七八	一・三
(リ)其他	二、八五一	一・一
總計	一、八四〇	〇・七
	二五五、六九六	一〇〇・〇

(三)一九二九年及前年に於ける本邦よりの輸入額内譯詳細は左の通りである。

本邦よりの輸入額（品別）（單位磅）

品目	數量單位	一九二九年 數量	一九二九年 金額	一九二八年 數量	一九二八年 金額
▲第一類					
ビスケット	Cwt	—	—	—	—
コンフエクショナリー	同	一	四	七	四七
魚（鑵詰）	同	三〇	八〇	二	一二
食料（其他）	同	—	—	—	—
香料	同	六	二三	八	三二
茶	同	—	—	—	—
▲第二類					
草木	—	—	—	—	—
タール及ピッチ	噸	—	—	—	—
▲第三類					
土陶磁器	—	—	二、三五二	—	二、六五二
土管（煙筒用）	箇	一、四〇〇	九	一、〇〇	一〇
硝子瓶及ヂヤー	同	一七四、八一七	二、三五二	一三九、三八	二、三一
硝子器（家事用）	—	—	—	—	—
電球及シェード	箇	九、七二一	一、七二一	一、三二一	一、七〇五
硝子（其他）	—	—	—	三五八	八七
セメント	噸	三一七	一、二四六	一七四	一、二四六
琺瑯ウエア（エナメル塗に非ざるもの）	同	※	二六	一	二六
同（エナメル塗）	同	六六	三、七五七	三二	三、七五七
釘、スタルー、リベット	同	一	四五	—	—

鐵、鋼製品(雜)	同	※	八	—	一、三三四、〇〇〇	八四八、一九四
青銅製品(雜)	同	※	—	—	—	—
銅線	同	※	—	—	—	—
鉛製品(雜)	同	—	—	—	—	—
錫製品(雜)	同	※	※	※	※	※
其他金屬製品	—	—	—	—	—	—
職工用具	—	—	—	—	—	—
時計(柱、置)	箇	一〇〇	四	一	七、三三四、〇〇〇	一、三三四、〇〇〇
双物類(他に記載なきもの)	—	—	—	—	—	—
醫療及科學器具機械	—	—	—	—	—	—
ハードウエア	Cwt	三	一	一	一、一八一、〇〇〇	一、一八一、〇〇〇
ナイフ	打	三一	三六	一	四一七、六〇〇	四一七、六〇〇
剃刀	同	三六	一	一	一九三、六〇〇	一九三、六〇〇
錠前戸締用具	—	—	—	—	—	—
時計(腕、懐中)	箇	三〇	一	一	一、三三四、〇〇〇	一、三三四、〇〇〇
電氣用品及機具	—	—	—	—	—	—
機械工業用	噸	—	—	—	—	—
木製家具	—	—	—	—	—	—
窓枠、戸、扉類	—	—	—	—	—	—
其他木製品	—	—	—	—	—	—
綿布、未晒	碼	七、三三四、一〇〇	八六八、一六八	二九九	八四八、一六八、〇〇〇	一、一〇一、一〇〇
同晒	同	一八三、六〇〇	二三八、三六六	四四	二三六、四四四、五〇〇	三一、三八三
捺染	同	四一七、六〇〇	九、九六一	一	四一七、六〇〇	九、九六一
反染	同	一八三、一〇〇	一、三三六	一	一八三、一〇〇	一、三三六
染付	同	一、三三四、六〇〇	八四八、一九四	一	一、三三四、六〇〇	八四八、一九四

ブランケット	枚	六五〇	—	—	一八	一、六一四
綿製品(其他雜)	—	—	—	—	—	—
綿絲	封度	三、五〇七	一、六〇	一	一、九四四	一、九四四
羊毛製品	—	—	—	—	—	—
絹製品	—	—	—	—	—	—
コイヤ、マット	磅	九、三一四	一、一三六	一	一、一三六	一、一三六
帆布及キャムバス	同	一、一三八	一、一三八	一	一、一三八	一、一三八
織物製品(其他雜)	—	—	—	—	—	—
人絹	碼	二九、三五八	一、九五二	一	一、九五二	一、九五二
同製品	—	—	—	—	—	—
衣服(其他雜)	—	—	—	—	—	—
靴	足打	三、四八九	一、一五〇	一	一、一五〇	一、一五〇
小間物	—	—	—	—	—	—
帽子	打	一五〇	一、一五〇	一	一、一五〇	一、一五〇
メリヤス(肌衣)	同	八七、七五〇	一、九〇八	一	一、九〇八	一、九〇八
同(靴下、ズボン下)	同	八、七四九	一、三四〇	一	一、三四〇	一、三四〇
同(其他)	同	六一四	一、三四〇	一	一、三四〇	一、三四〇
衣服(古)	—	—	—	—	—	—
化學製品	—	—	—	—	—	—
醫藥	—	—	—	—	—	—
染料	Cwt	三	一	一	一、一〇一	一、一〇一
ペンキ、ワニス	同	一一	一	一	一、一〇一	一、一〇一
石鹸(化粧用)	—	—	—	—	—	—
鞣皮	Cwt	一	一	一	一、一〇一	一、一〇一
同製品	—	—	—	—	—	—

| | | |

本年タンガニカを通過して奥地諸國へ輸入せられた本邦品の價格は二萬二千九百三十磅、前年に比し六千九百七十磅の增、增加率四割四分、又同年中奥地よりタンガニカを通過して本邦へ輸出せられた貨物の價額は二百二十五磅で、前年には此種貿易はない。

(一)本邦よりの輸入、本年本邦より輸入された通過貿易品の主なものは未晒綿布及綿製品(雜)の二品目である。

本邦より輸入通過貿易品　(單位金額磅)

品目	數量單位	一九二九年 數量	一九二九年 金額	一九二八年 數量	一九二八年 金額
砂糖	Cwt	四四	六二	—	—
茶	同	六	九〇	—	—
陶磁器	—	—	三六八	—	三六九
石綿製品	噸	一〇	二三五	—	二三五
琺瑯ウエア(エナメル塗)	同	五	二九二	三	五二三
鐵鋼製品(雜)	同	※	一三	—	—
刃物類	—	—	六六六	—	—
ハードウエア	Cwt	一	五	七	三七
綿布、未晒	碼	三三、三四〇	六、九六六	七四七、八三〇	一三、九四四
綿製品(雜)	—	—	二、六〇三	—	—
絹物	—	—	二八九	—	三〇
衣服(雜)	—	—	七五九	—	一六一
靴	打	三〇	二〇三	—	—
帽子	同	四〇	四六	—	—
メリヤス(靴下、ズボン下)	同	二四〇	六五	一三〇	一八一
メリヤス(其他)	同	二、〇〇〇	四〇八	—	—
石鹸(普通)	Cwt	二	三	—	—
洋傘	打	三〇	五六	—	—
硝子及製品	—	—	七	—	—
青銅製品	—	—	四	—	—
家具類	—	—	一三	—	—
其他製品(雜)	—	—	八四〇	—	—
合計	—	—	三、九三〇	—	一五、九三〇

綿布類は前年の約一萬四千磅より七千磅に半減したが、綿製品(雜)の外石綿製品、刃物類、絹物、衣類、靴、帽子、メリヤス類、石鹸、洋傘等では少許乍ら新進出を示した結果、總額で四割四分方の增加となつた。

(二)對本邦輸出　一九二九年タンガニカを通過して本邦へ輸出された物品は犀角(一Cwt、價額二百二十五磅)の一品のみである。

第四章　輸入綿布事情

左に揭げるタンガニカ委任統治地域に輸入する綿布事情は、同領稅關長の調査になるもので、出て來る輸入の比率は一九二六年の統計を基礎にしてあるが、其他の數字、市價等は、同領一九二六年の貿易年報に揭載されたものであるといふ點を考慮に入れて見てもらいたい。

タンガニカ輸入綿布の大別　タンガニカの輸入する綿布は、大別して(一)未晒布(Grey unbleached)、(二)晒布(White bleached)、(三)捺染布(Printed)、(四)染木綿(Dyed in the piece)、(五)色木綿(Coloured wholly or in part and in dyed yarn)の五種とす。

(一)未晒布　本品は輸入綿布中四割七厘を占めグレー・シーチング、ボーダード・グレー、グレー・ドリル、ロング・クロース等、此内に含まれる。

グレー・シーチングは地方的には Americani Asili, Americani Gamthi, Americani Uleiti 等の名で呼ばれてゐる。Americani Asili といふのは、初め米國から輸入され、當今では日本製若くは印度製のアメリカニのために驅逐されたが、それでも全體の八%位の輸入はある。通例二十五反を一梱として輸入するが、一反の長さは三十碼、幅三十二吋で重量は五「ポンド」乃至五「ポンド」半、バザーの値段は十一志より十二志である。

Americani Gamthi といふのは、初めは印度内地の需要を目的に孟買で製織されたものだが、其後前記のアシリの競爭品として東阿に輸入されるやうになつたものである。アメリカ品よりは色が黑く質も落ちる。印度の製織家は各自ブランドを持つてをる。二十五反を一梱とし、一反は長さ三十碼、幅員三十二吋、目方六「ポンド」で、バザーでは十志七五する。之より重い方になると、一九一九年以來日本製アメリカニが市場を取つて代つて來たので輸入額は一割見當に過ぎない。

日本製アメリカニは今や粗布の市場に優越な地位を築きつゝあつて、その輸入額は八割以上に當つてをる。間斷なく市場に商品を送るためには、あらゆる航路が利用されてゐる。即ち直航路による場合もあれば孟買若くは亞典で積替て來る場合もある。兎に角日本の製造家が印度で原棉を買つて之を日本に持つて行き、更に之を製織品として東阿に輸入するに當つて、孟買品よりも安い値段で持つて來るといふことは、驚くべき事實である。日本品は一梱が三十反、一反は三十碼、幅三十六吋、目方八「ポンド」乃至十「ポンド」、市場の値段は目方によつて種々だが大體十五志より十七志である。

Americani Uleiti といふのは、元來アメリカ品と競爭するために作られた英國製品であるが、今日の輸入額は全く問題にならない。輸入統計に英國及和蘭から輸入した粗布と現はれてゐるが、それはキコイであつてアメリカニではない。

アメリカニは土人のシャツ、漁船の帆、マットレツス、枕等を作るに用ゐられるが、其他奥地に入ると土人の腰卷や肩掛に用ゐられる。

ボーダード・グレーは北印度語で Chader と云つてゐるが、スワヒリ語では Shuka Gamthi といふ。本品の輸入は專ら印度からで、その輸入額は九割に達する。一反は二つに初るに便利な樣に、中央部にタラザと稱する織込があるから、事實上は二反から成り立つてをるやうなものである。そして黑、赤又は其他の色の縞がボーダーに現はれてをる。この二片から成立つ一反は、長さ三碼半より五碼、幅員は四十八吋あるが、之を十反に包裝する。その十反の目方は六「ポンド」四分の一から十五「ポンド」で、市價は品質により十一志より二十七志、用途は概ね土人の腰卷である。右のものよりも大型のもので、長さ五碼乃至五碼半、幅五十吋乃至五十五吋、目方十八「ポンド」より二十「ポンド」のものがあるが、之は市價四十志より四十二志で、用途はベツドのシーツ、若くはブランケットに用ひられる。尙之にはボーダーは入つてゐない。

英國及和蘭より輸入される Shukas は、Shuka Ulaya 又は Kikois として知られてをる。キコイは最初マスカツトより輸入されたもので、手織品で品質も優れたものであつた。處が英國製のキコイが現はれたが、品質はともかく値段が安いので好評を得たと思ひきや、次で和蘭品が擡頭して來て市場に拔くべからざる地歩を占めるに至つた。本品も反物の中央部に赤又は黑線のタラザが入つてをつて、其處から二つに切るやうにしてある。そしてグレー・センターで赤のストライプ、緣には樣々の色を用ゐる。二切れを合した一反の長さは四碼より四碼半、幅は三十八吋乃至四十八吋、バザーに於ける十反の値段は三十志より四十五志である。

グレー・ドリルは Marduff といふが、しかし製造地如何により Asili, Gamthi, Uleiti 等の名がある。米國品 Marduff (Asili) は最初に市場に紹介された品であるが、現今も一番賣行がよい。印度より來る類似品も賣れるが、英國品に對する需要は減ずる一方である。日本製ではダツクが盛んに競爭しつゝある。一梱は十五反入りで、一反の長さ四十碼、幅二十七吋、目方十二「ポンド」半より十四「ポンド」、市價三十二志より三十八志である。

Marduff は帆、天幕、土人の着物に用ひられるが、隊商の往來が少なくなつた現今では、需要は減るばかりである。

印度人はロング・クロースを ネンクラクと呼び、土人はウレイチといふ。用途は腰衣だが輸入額は大したものではない。

一梱は二十五反入り、長さは四十碼、幅員三十六吋、一反二十五志から二十六志が相場である。本品は當初印度から輸入を見たものであるが、當今では主として米國から入つて來る。

(二)晒布　本品の輸入は綿布輸入額の六分二厘を占めてをるが、ホワイト・シャーチング、ナインスツク、ドリル、ムスリン、シユーカといふやうな種類のものが包含される。

ホワイト・シャーチング　は印度語でバスト、土人語でバフタといふ。英國は本品の輸入の約四割を占めてをる。印度からの輸入となつて現はれてをる晒布は大半ドーチーで　印度人が着るのである。印度よりの輸入は大ではない。けだし印度の工場で漂白機械を備へたものは少ないからである。和蘭の輸入は六割見當である。バフタは幅員二十八吋から三十六吋まで色々ある。標準の長さは四十碼乃至四十二碼、取引は四十碼一反で行はれる。品質は各種あるが、バザーの値段は一反二十二志より四十志の間である。ドンドといふバフタの特別品は英國から輸入されるが、糊が特に強く利かしてあり、用途は土人の纏衣である。市價は一反十三志より十四志。

普通のバフタは各國人によつて使用され、カンヅー、シヤツ、ベツド・シーツ、キヤツブ、ツラウザー等々を作るに用ゐられる。通例五十反を一梱又は一箱に包裝する。

土人はナインスツクをネンスー、ドリルをドリア、ムルムルをメリメリと呼んでをる。一反の長さは十八碼より二十四碼、幅は二十四吋より五十二吋まで色々ある。そして是等は英國で製造されるのだが、輸入に當つては概ね印度を經由する。用途は上層階級の着るカンズー、シヤツ、絹絲で縫取りをするキヤツブ、ヴエール、窓掛、蚊帳等を作るに用ゐられる。

(三)捺染布　本品の輸入額は綿布總輸入額の一割五分九厘に當つてをる。主要品はカンガスとチンズである。

カンガスは長方形をなし、土人の女がラツプとして纏ふものであるが、様々な模様がプリントされてある。以前は印度でハンド・プリントされたものであるが、今日では英國及和蘭より輸入され、英國品は和蘭品より約五割方餘計に入つてをる。

玆に大に注意すべきことはプリントの意匠である、土人の女と雖、常に新規の品物を求めて止まないことは、歐洲婦人が新流行の衣裳を追ふて止まないのと同然で、目新らしい品物にはわけなく引つけられるから、やゝもすれば陳腐の型の賣殘りが出來て、處分に困ることになる。それ故目先の變つた品物を常に供給することが必要だが、消費者の嗜好を研究することは更に大切である。輸入商、殊にザンヂバル邊の取引商が希望してをる意匠は鳥、葉、花より文字、言句、格言等にまで及んでゐる。カンガスの一反は五切れから成つてをつて、四反即ち二十切れを一「スコーア」と呼んでをる。一切れの大きさは長さ六十六吋、幅四十六吋である。一梱二十五「スコーア」入りで、二ボーダー物若くは四ボーダー物であることもあるし、全くボーダーの入つてゐないこともある。バザーに於ける一「スコーア」の値段は、ボーダーなしなれば二十二志乃至二十七志、二ボーダーなれば三十一志より三十三志、四ボーダーなれば三十六志より四十八志である。

チンズと稱するのは和蘭又は英國の製品であるが、英國品は印度經由で來ることもある。上層階級に屬する土人の女は本品を纏衣に用ひるが、其他歐洲人の家庭でも窓掛やカバーとして大に用ひられる。

(四)染木綿(Dyed in the piece)　本品中にはカニキ、カーキー・クレープ、レツド・ターキー等が含まれる。輸入額は綿布輸入總額の二割二分八厘に當る。

カニキは是亦土人の女によつて纏はれる。當初はアメリカニを印度で安いインヂゴで染めて、之をカニキ・ガムチと呼んだものである。其後もつと染料の良い歐洲品が入つて來て取つて代つたが、是等の品は英國、和蘭、瑞西等で製造される。そして初めはカニキ・ウラヤと呼ばれてゐたが、後には輸入商の名を取つて Usagara, Hansing O'Swald 等の名で通ずるやうになつた。尤も現今輸入されてゐるのはカニキ・ムカアと云ふもつと良い品で、主として英國、和蘭が供給してゐる。

一方孟買品は品質染方共に改善されて來たので、再び競爭品として擡頭して來た。因に英國品の輸入は約三割である。

カニキの一種でカニキ・キオといふのがある。黑い光澤布で、一見レツプのやうである。本品は主にマンチエスターから入

るが、現今は和蘭からも供給される。長さ百三十二吋、幅四十六吋の布で、藍色の紙に包んで、内部をブリキ張にした箱に入れる。一「スコーア」の目方は十二「ポンド」、市場の値段は四十六志である。

カニキは前に擧げたカンガと、大きさは殆ど同じであるが、一九一四年まではカンガの輸入の方が遙に多かつた。しかしカニキの方が品質がよく、持がよいので、需要が次第に増し、爾來五割方の輸入増加を示すやうになつた。カニキは又土人の女がアラブ風の面被に用ひることもある。カニキの一梱はカンガの一梱の如く、二十五「スコーア」十七志乃至二十志である。

さは四六吋×六六吋、バザーに於ける値段は一「スコーア」十七志乃至二十志である。

近頃英國及和蘭より輸入されるようになつたカニキで Kaniki Ufito といふのがある。普通のムカアよりも値段は高いけれども、目方が重く、從つて耐久力が強いので、奥地の方で次第に販路を得つゝある。本品の相場は一「スコーア」五十六志より八十四志である。

カーキーは英國及和蘭より輸入され、土人のユニフォーム、船、人力車等のクツシヨンカバー、シヤツ、半ヅボン其他のものを作るに用ゐられる。一反は長さ四十碼、幅二十八吋より三十吋。小賣値段は一碼七十五仙から一志五十仙である。

以前マスカツトから輸入されたカーキーで、Khudurangi 又は Hodrungi といふのがあつたが、現今は英國及獨逸から輸入される代品に壓倒された。本品はカンズーを造るに用ひられる。一反は二つのカンズーを作るに都合のよい大きさになつてゐて、長さは八碼にしてある。バザーでは七志より七志五十仙で賣られる。

クレープの供給は殆んど日本の獨占する所であつて、染色は各種のものがある。一反は長さ二十碼、幅員三十吋、バザーの値段は八志より八志半。用途は歐洲人のドレッス或は子供服に用ゐられるが、其他にはしやれた土人の女などによつてターバンとかカンズーとかを作るにも用ひられる。

ターキー・レツドといふのは以前印度より輸入され、印度語でマドラシ、土人語でバンデラと云つたが、現今は日本製のイミテーションが廣く用ゐられるやうになつた。しかし印度、伊太利等からは、今でも少しは入つて來る。一反は二十五碼あつて、幅は二十七吋乃至三十二吋ある。一箱に六十反乃至百反を收めて包裝するが、一反の値段はバザーでは九志より十四志までの間で、裝飾用に用ゐられることが多い。

（五）色木綿　本品の輸入額は綿反物總輸入額の一割四分四厘に當り、マスカツト・クロース、チヤダール（クングル及びチエツク）等を包含する。

マスカツト・クロースは以前は手織品であつて、マスカツトから印度の沿岸貿易船で輸入されたものであつた。端には絹のボーダーと黄金色の總がついてゐて、中々安くないものであつた。そこで英國の製織家が綿で同じやうなものを作つて輸入した處、値段が安いので大に好評を博し、次で和蘭も之を眞似るやうになつたのである。而して今日の處では、是等兩國品で市場を二分してをるやうであるが、最近獨逸品が侵入して來たのは見逃すべからざる點である。本品には種々の色があり、品質があり、從て夫々特定の名がある。即ちデブワニ、ビユーラ、シンガパツチ、イスマイリ、スブハヤ等がそれである。右の内デブワニはアラブのターバンに用ゐられるが、其他は土人の女によつて用ゐられる。大きさは種々あるが、幅四十四吋より四十八吋、長さ七十四吋より七十六吋が普通である。市場値段は一「スコーア」三十志より五十志。

チヤダール、クングルは主として印度より輸入され、大きさは一對の長さ四碼より五碼、幅三十六吋乃至四十四吋ある。一梱は二十「スコーア」、二十五「スコーア」、若くは三十「スコーア」入りで、一「スコーア」の値段は二十四志より三十六志、マツトレツスを作るに主として用ゐられる。

印度より輸入されるチエツクはチヤダール、クングルと同樣の使途に用ゐられるが、英國及日本より輸入されるチエツクはシヤツとか窓掛とか、其他のものを作るに用ゐられる。品質から云へば英國品の方が良い。

第五章　蠶繭の成績

タンガニカ政府は最近數箇年間に亘つて、在モロゴロ昆蟲研究所をして養蠶に關する實驗研究をさせて居つた。一九二八年度上簇蠶繭は之を在倫敦帝國研究所（Imperial Institute）に送付し、絲質其他に關し調査を依囑し置いた所、一九三〇年四月同所長の報告を受け其大要を發表した。

右蠶種は在倫敦帝國研究所の絹に關する諮問委員會（Advisory Committee on Silk Products）の斡旋に依り、佛蘭西より冷藏庫に入れて輸入したものであつて、飼養期は五月より七月の間である。

右研究所長は其報告で調査の結果は滿足で有望だと謂ふべく、且又タンガニカで優に市場に出し得る良質の絹絲を生産出來ることを實證したものと認め得ると云つた。

紡試驗（reeling trials）の絹に關する諮問委員會長の斡旋に依り、Cyprus Silk Filature, Ltd., でリーリングの試驗を行つたが、結果は大體に於て滿足で、リールした繭量は一二、四二〇「キログラム」で、リールして得た絲量は、一、九七五「キログラム」である。而して平均レンデメントは四・一七五である。（rendement は繭量單位數と紡絲量單位數との比率）

撚試驗（throwing trials）は Macclesfield に於ける Messrs. G. H. Heath & Co., Ltd. の手で行はれ、結果は非常に滿足であつた。若し此種絹絲が多量に生産されゝば、其價格は普通日本生絲の夫（一志一片字）に匹敵出來るとのことである。

撚絲（Organzine）の試驗は織布試驗に先ち Messrs. Warner & Sons, Ltd. の手に依り撚絲の檢査が行はれ結果は（一）タンガニカ撚絲（オルガニヂン）の束絲（skein）を檢査したのに、絲（thread）の緻密なこと（compactness）、斑のないこと、清潔な事（Cleanliness）等要するに著しい缺點のない點で、誠に良質の生絲と稱し得る。（二）伊太利生絲に比し degummed silk のクリーム色濃く、boil-off 度の高き點は多分撚（Throwing）工程中に使用する油の量に依るものであらふ。（三）タンガニカ撚絲の强さは殆ど伊太利の撚絲に匹敵する位良い。（四）彈力性は伊太利のものに比し稍〻劣つて居る。

織布試驗をする爲 Messrs Warner & Sons, Ltd. は又タンガニカ撚絲を以て美麗な紋織（brocade）を織つたが、其報告に依ればオルガニヂンの調子は甚だ良好、且强く、清潔で、斑撚り又は gub. 等がなく、彈力性亦可良な由であるが、成績は甚だ良好だと云ふことである。

次にマックレスフイールドの Messrs. Cartwright & Sheldon は紡試驗の際に得たトラム（tram）を以て、ネクタイ用畝(rep)織を織つたが、畝織試驗は各種試驗中最も嚴格なものと稱せられ、結果は最も有望だとのことである。

屑絹はランカシヤーの Messrs. Wm. Thompson & Co., Ltd. よりの報告に依れば、サイプラス紡績會社のリーリング試驗の際生じた屑絹は、大體に於て英國に於ける Silk Spinners の使用材料として甚だ適當だと云ふことである。

桑樹はタンガニカ一般に適して居るから、適當の濕度と温度との季節に養蠶を行へば必ず成功し、英帝國需要の一部を充すものと期待されつゝある。

尙桑樹苗はモロゴロ昆蟲試驗所で申込次第配布して居る。

尙英國が絹關稅設定以來、英領各地の養蠶業可能性に關する調査研究に非常な努力を拂ひつゝある事實は、深甚の注意を要する。

第六章　鑛産狀況

同委任統治地は各種の鑛物に豐富であつて、其將來は大に囑望されてをるが、一九二八年の現狀は次の通りである。

黃金　ヴキクトリア湖畔にあるムアンザ金坑脈はカハマ及セケンケよりケニヤ殖民地の國境へ東北に擴がつて居て、此地方にある金坑は今猶獨逸人の所有となつて居るが、其セケンケ坑だけでも約二十五萬磅を產出した。而して最近南阿の一

金坑會社が此等を經營することゝなつたから、一層の發展を見るに至るべしと期待せられて居る。

砂金　ルパ及シラ河の附近から產出する砂金は、最近一箇年間一萬「オンズ」に達し、尙其近傍に砂金坑の發見が續出して居る。

金剛石　ムワンザ附近のマブキ金剛石坑は、一九二六年初めて採掘に從事したのであるが、既に其產額は二萬二千十五「カラット」、此價額十二萬二千五十八磅に上り、其最大なものは五十二「カラット」のものもあつて、他は平均一「カラット」に付四十磅の相場を示した。

錫　ブコバ錫坑は、其附近の新發見を併合して擴大せられ、最上鑛石八十五噸を輸出した。尙同地方の坑脈は三百六十平方哩に達するそうである。

雲母　同統治地は到る處に雲母を產するも、就中其中心產地はタンガニカ湖の境界に接するルショーであつて、一九二六年中の產額は五十一噸半、此價額二萬六千九百五十四磅であつた。

石炭　目下ユフイパ地方で石炭坑探險中であるが、有望の見込があり、又モロゴロの南部及ニアサ湖の北端地方にも產出するであらふとのことだ。

銅　ドヾマからツクユへ至る本街道の附近にあるジョンベの銅坑は、目下試驗中で、又タンガニカ鐵道の終點たるキゴマに近いムパプワでも產出の見込があるそうだ。

岩鹽　一九二六年中キゴマ附近にあるウヴインザ鹽坑から產出した岩鹽は、三千百五噸に達し、其他各湖水附近には多數の岩鹽及曹達坑が存在してをると云ふことである。

其他の鑛物　其他の鑛物中、經濟的價値のあるものは、柘榴石、黑鉛、滿俺、石綿、鐵、菱苦土礦及石灰等である。

第七章　サイザル麻栽培事業

サイザル麻は東阿の主要產物であるが、タンガニカ委任統治地產のものが最もよく知られてゐる。同領では今でこそ年額九十萬磅（一九二六年）の輸出を示してゐるが、其初は一八九三年に獨逸人がユカタンから移植して、當時の獨逸保護領現今のタンガニカ領に試作したことに端を發し、一九〇四年の頃に至て漸く營利的に栽培を經營し得るようになつたのである。其後ケニヤ殖民地の移住者中に之に着眼するものが出て、タンガニカより移植し栽培を計つたが、當時獨逸人はその獨占的事業を奪はれんことを恐れ、高率の輸出稅を以て之が他領に移出せんとするを阻止せんとしたが、時既に遲くケニヤにも斯業の基礎は確立せられ、年と共に發達して、最近では年額五十萬磅の輸出を同領からだけでも見るようになつた。其他衞領東阿のモザムビイク會社領でも、サイザル麻の栽培には力を盡してゐるが、東阿各地の產品の中では、前述のやうにタンガニカ產のものが最もよく知られてゐる。同領產のサイザルは葉より採取する纖維の量が最も多く、又品質と長さの点では世界一だとの評がある位である。參考の爲一九二三年以降四年間の同領輸出量を揭げてみやう。（單位噸）

一九二三年	三、八四五
一九二四年	八、四二八
一九二五年	八、三六六
一九二六年	三五、〇三

一九二五年までは獨逸領時代の記錄二萬八百三十四噸（一九一三年）が輸出の最高記錄であつたが、右に見るやうに一九二六年はに二萬五千噸の輸出となつて獨逸領時代の記錄は破られたわけである。

サイザルは雨量の少ない土地に育つたものゝ方が、葉肉が少なく、成績はよいとされて居る。從つてタンガニカでは殆んど栽培地は海岸に沿ふた荒蕪地帶に局限されてゐるが、ケニヤでは尙ずつと高い五千呎以上の高原でも栽培されてゐる。

サイザルの栽培事業には多額の資本を要するから個人企業には不適當であつて、通例會社企業で經營されてゐる。即ちサ

イザル栽培はプランテーション組織で行ふのであつて、工場と之に伴ふ機械の設備がなくてはならぬ。そして此工場の能率を有利に發揮させるためには、原料を間斷なく供給せねばならぬが、それには相當廣大なプランテーションが工場の周圍にあることが必要である。一箇の工場には年齢を異にしたサイザルを植えたプランテーションが少なくとも二千英反は必要であるといふ。又サイザルは植付てより三四年間は伐採が出來ず、それまでは玉蜀黍、豆類の間作によつて土地を利用するに過ぎない次第だから、小額の資本では着手し難い事業であることは明かであらう。

サイザルは追々本邦にも紹介されることになるであらうと思ふが、今日までの處では本品に對する注意はまだ喚起されてゐないやうである。尤も本邦市場ではマニラ麻と競爭することになるであらうが、其場合値段が引合ふかどうかも問題であるが、又同時にサイザルがマニラ麻の代用品として遜色ないものか否かも考へねばなるまい。即ちサイザル麻で作つた船舶用のロープはマニラ麻のものよりも早く腐るとか、濡れると膨脹し、且水に沈むことが早いとかいふ定評があつたが、かういふ特徴はサイザルを利用する上に於て大に考慮されねばならないが、果して一般のサイザル麻が右のやうな質のものであるかどうかを確めるため、最近ロンドンで興味ある實驗が行はれた。それによるとサイザル、マニラ麻各別に作つたロープを細孔を穿つた木箱に納め此箱をロンドン・ドツクの入口の附近で滿潮時には海水に侵り、干潮時には空氣中にさらされる程度の所に一年間据置いた後、各種の比較を行つたのであるが、其結果ナンバー・ワンのサイザルで作つたロープは、マニラのJグレードのロープと比較して、何等の遜色を見ないことが證明された。而してナンバー・ツーのものは之よりも稍々劣つた成績を示し、又膨脹することゝ、早く水に沈むといふ點ではサイザル製はマニラ製に一歩を譲ると云ふのであつた。尚引續いて七吋、三吋、一吋半等の異る太さのものに付ても試驗を行ふ由であるが、本邦でも此種の研究をして見ることは無益ではあるまいと思ふ。

三　ザンヂバル保護領

第一章　概況

アフリカ大陸より二二哩半の海峽を距てゝ位するザンヂバル島はアフリカ沿岸最大の珊瑚島で、長さ五三哩、幅二四哩、六四〇平方哩の面積を有して居る。之から東北に約二五哩を距てゝペムバ島があり、同島は長さ四二哩、幅一四哩、面積三八〇哩である。

一九二四年度の調査に依ると、ザンヂバル及ペムバ兩島の人口は二一六、七九〇人（ザンヂバル島一二八、〇九九人、ペムバ島八八、六九一人）であつた。同地に居住する黒人は大部分スワヒリ族であるが、此外アフリカ大陸に住む各種族に屬する黒人も若干づゝ居住して居る。一九二一年度の調査に依ると土人以外の住民としては一四、一二五人あつたが、此中歐洲人は二七〇人、歐洲人の大部分はイギリス人で、約一二、〇〇〇人がインド人であつた。尚東アフリカの各地で行はれる商取引は殆ど全部此印度人の手に依つて行はれて居る。首府ザンヂバル市は同島の西海岸の略中央に位する天然の良港で、人口三八、七〇〇人を有し、古來より東アフリカ沿岸貿易の中心地である。

ザンヂバル及ペムバ島で使用される言語は英語、アラビア語、スワヒリ語、クジヤラチ語及クツチ語である。

尚同保護領では一九〇六年インド硬貨法に規定する重量及純分を有するインド留比銀貨を法定通貨として居る。

第二章　産業

ザンヂバル保護領で最も重要な産業は丁香の栽培で、ザンヂバル、ペムバ兩島は世界の供給量大部分を産出して居る。兩

島には約四八、〇〇〇「エーカー」の土地に丁香が栽培され、結實期に達して居る樹數は三百萬本を超へ、最近二十收穫期に於ける平均産出額は一九、三四三、〇〇四封度であつた。（丁香及丁香葦の輸出に就ては輸出貿易の項參照）。

丁香の大栽培園は何れもアラビア人の所有であるが、土人の所有する小栽培園の數も少くない。

ザンヂバル保護領の産物で丁香に次で重要なものはコ、椰子である、コ、椰子栽培園の總面積は約五五、〇〇〇「エーカー」で、樹數はザンヂバル、ペムバ兩島を通じて三、五〇〇、〇〇〇本と推定されて居る。

同保護領の製造工業としては製陶業の外椰子果皮の纖維及之より作る索、石鹼、油（椰子及シム・シム）、寶石及絨毯の製造がある。鑛業は全く存在しない。

第三章　外國貿易——一九二九年

第一節　總說

一九二九年ザンヂバル保護領の外國貿易總額、輸出入價額及數量に付前年との比較は次の通りである。

	價額（單位十萬留比）			數量（單位千噸）		
	一九二八年	一九二九年	增減率%	一九二八年	一九二九年	增減率%
輸入	三二	三三	(+) 三			
輸出	二九	三〇	(+) 五	六	七	(+) 七
貿易總額	四三	四三	(+) 五	四五	四五	—
				二三	二八	(+) 四

前表の數字は郵便に依る輸入（價額四十萬留比）及輸出（價額二十萬比留）を含まない。

一九二九年の貿易も例年の通り丁香收穫の如何に依り影響を受ける所が多かつた。即ち一九二九—三〇年作丁香の豊作の見込が立つや第一期（自一月至三月）の輸入額一萬二千七百留比は第三期（自七月至九月）には一躍して一萬七千四百留比に昇騰した。輸出價額が一九二八年よりも百十萬留比も增加したのに、輸出數量は全然同一な點は注意すべく、丁香價額が前年よりも高價なりしことが之に依り自ら明である。

第二節　關稅收入

（一）輸入稅　本稅の收穫高は一九二八年の百七十五萬留比に比し、二百十二萬留比に增加した。此內二十一萬留比は火酒、葡萄酒及麥酒に對する輸入稅、百十一萬留比は一般貨物（一律に從價一割五分を課す）に對する課稅である。

（二）丁香稅　一九二八年八月より實施された丁香油及ヴアニリン製造用として輸出される丁香に對し、關稅の割戻を爲す制度は一九二九年七月に廢止される豫定であつたが、一九二九年七月三十日迄之が廢止を延期した。

備考　丁香稅は從來は從價二割五分であつたが一九二八年六月七日より從價二割に改正された。

第三節　輸入

輸入年額を（一）商品（二）金銀地金及正貨（三）政府輸入品に分ち最近三年の分を表示すれば左の通りである。

（單位一、〇〇〇留比）

年次	商品	金銀地金及正貨	政府輸入品	年額
一九二七年	三、七二四	三	八七	三、六一四
一九二八年	一九、八六八	五三	七六六	三、一三六
一九二九年	二〇、〇三六	一、三五五	八六八	三三、一八九

過去三年間主要輸入品の輸入價額は左の通り。（單位一、〇〇〇留比）

品目	一九二七年	一九二八年	一九二九年
米及穀類	五、六二	三、二四	四、八九六
綿反物	四、八三三	三、七四	三、四八一
ゴブラ	一、二六	一、八六	一、三七七
ガソリン及石油	九八〇	一、六七一	九四〇
砂糖	一、〇三四	九七九	九一七
食物及飲料（罐）	四九〇	四三一	八四八

穀粉	七四九	七一五	七四八	絹反物	一〇二	一〇一	一五八
煙草製品（紙巻及葉巻を含む）	五〇三	五一六	五四五	野菜（鮮）	一三〇	一四九	一三五
ギイ	四二八	四三〇	四五三	胡麻	二四二	三三六	一三四
象牙	五九五	二七八	三二	牛	一四七	一〇四	一四六
鐵及銅製品	二六八	一三五	二九八	電氣用品及器具	一九九	一〇八	一二五
茶	二七一	三一〇	二六六	亞鉛引鐵板（波及平）	一〇〇	一一三	一〇七
袋類	二三五	二六九	二三〇	セメント	三九九	一四六	一〇四
コンデンス・ミルク	一六三	一四三	一七七	滑料油	六四	一八七	七四
木材（挽きたるもの）	一八一	一五八	一七三	化學製品	七三	一〇六	六二
舟（鐵及木）	七	二九	一六六	器具機械（計算、科學及醫療）	一三六	一三六	三四
魚（乾）及鰺鯖	一三四	一四四	一五九	海底電線及機機	一九六	三四八	一六

綿反物　一九二九年綿反物の輸入價額は三百四十八萬千留比で、一九二八年に比し二十九萬三千留比の減退である。各種綿反物の輸入數量及價額は左の通りである。

種類	數量（1,000碼）	價額（1,000留比）	
反染綿布	二、二八	七九	未晒綿布
捺染綿布（Khangas）	二、七三〇	一、〇九一	晒綿布
同其他	四〇〇	一二五	其他
			計

未晒綿布	三、一八一	八二
晒綿布	一、〇七七	三三〇
其他	—	四二五
計		三、四八一

米及穀類　本品目の一九二九年輸入價額は一九二八年の分を超過すること百六十二萬二千留比であるが、之は主として米輸入の大增加に依る。即ち米の輸入數量は一九二八年の二十五萬八千「ハンドレツド・ウエイト」に比し、四十二萬二千「ハンドレツド・ウエイト」に激增した。右激增は一九二八年米の輸入が割合に少かつたから豫め期待された所である。米値段は一九二九年中引續き下落を示した。即ち一九二七年及一九二八年の平均陸揚値段は百六十五封度に付、夫々一四留比九八及四留比四〇であつたが、一九二九年には一四留比二〇に漸減した。

ガソリン及石油　本品目の過去三箇年間に於ける輸入及再輸出の數量價額左の通りである。

品目／年次	輸入 千「ガロン」	輸入 千留比	再輸出 千「ガロン」	再輸出 千留比
ガソリン				
一九二七年	二六六	三〇八	九	一〇
一九二八年	四六一	六三八	二四九	二五五
一九二九年	三一七	四〇九	一四八	一九

石油				
一九二七年	一、二九	六七二	四四〇	三九八
一九二八年	一、二四一	一、〇三四	七八三	六七九
一九二九年	八三七	五三二	五六三	三九四

一九二九年末に於ける保稅ストツクはガソリン十一萬五千「ガロン」、石油三十六萬八千「ガロン」で、一九二八年末に比し前者は五萬二千「ガロン」、後者は二十二萬千「ガロン」の減少である。

第四節　輸出

輸出年額を領內產物、再輸出、正貨及金銀地金に分ち最近三箇年の分を表示すれば左の通りである。（單位千留比）

年次	領內產物	再輸出	正貨及金銀地金	輸出額總計
一九二七年	一五、三三一	九、〇九〇	五六	二四、五七
一九二八年	一三、八九四	八、九六四	一八	二二、八七六
一九二九年	一六、九八二	五、九五五	二一	二三、九八八

再輸出額が年々減少しつゝあるのはザンヂバル港が仲繼港としての重要性を漸次喪失しつゝあることを示すのに外ならない。

主要輸出品（再輸出品を含む）の最近三箇年の輸出額は左の通りである。（單位千留比）

品目	一九二七年	一九二八年	一九二九年
丁香	一〇、九二九	六、六七九	二、五七三
コプラ	四、四九八	四、九五五	四、七三七
綿布	三、一六八	二、一六七	一、四四一
米及穀類	六一九	七三七	九四九

ガソリン及石油	五〇八	九四五	五九三	胡麻	一二四	八〇	七一
象牙	六〇九	三三九	三七三	海參	四四	三六	五〇
砂糖	一五六	三五八	二九一	ココナット	四一	三七	四二
丁香莖	六一七	五九六	二八七	皮革	六二	九三	四一
黍	一三三	二八一	二二五	煙草（葉）	五三	四九	二五
小麥粉	二〇三	二六八	二〇一	ココナット油	三四	四一	二五
袋類	二〇六	二〇一	一六三	石鹼	四八	二三	二四
魚（乾）	八六	一一四	一二三	胡麻油	三	三八	一三

イ　領内產物の輸出

（一）丁香及丁香莖　最近五箇年の輸出數量及價額竝斷當平均値段は左の通りである。

品目、年次	千斤	千留比	斤當平均値段（留比）	丁香莖		
丁香						
一九二五年	二一九	一三、二八三	六〇・五九	一九二五年	四一	七四六	一七・九九
一九二六年	一五八	八、五七三	五四・一二	一九二六年	四〇	六四三	一六・二六
一九二七年	二五九	一〇、九二九	四二・一二	一九二七年	四九	六一七	一二・五四
一九二八年	一五八	八、六七九	五四・八八	一九二八年	四三	五九六	一三・九〇
一九二九年	一七五	一一、五七〇	六六・二一	一九二九年	一九	二八九	一四・八七
五箇年平均	一九四	一〇、六〇七	—	五箇年平均	三八	五七八	—

値段　丁香の値段は一九二九年上半期を通じ高値を維持したが、一月には最高値段一「フラジラ」（Frasila. 三十五封度）に付三十一留比を現出した。然るに一九二九―三〇年の大豊作の見込付くや値段が急落したが、同年末には十二留比邊で保合つた。過去三箇年の丁香値段は（丁香稅を含めたる）左の通りである。（「フラジラ」當値段單位留比）

年次	ペムバ丁香	ザンヂバル丁香	一九二八年	一七・三八	一七・四〇
一九二七年	一二・三七	一二・四九	一九二九年	二四・一三	二四・九五

輸出先　最近三箇年の丁香輸出先及輸出數量は（單位斤）左の通りである。

輸入先	一九二七年	一九二八年	一九二九年			
インド	六九	六一	六四	イタリー	三	二	三
蘭領インド	三四	三六	三二	エヂプト	三	一	三
米國	四五	二六	二二	ドイツ	七	二	二
英本國	二三	一〇	一七	支那	二	—	一
海峽殖民地	二五	一二	一一	日本	一	—	一
オランダ	三〇	四	七	其他諸國	八	三	七
フランス	九	一	五	計	二五九	一五八	一七五

（二）コプラ　最近三箇年各年に於ける輸出量（單位千「ハンドレツド・ウエイト」）價額は（千留比）左の通りである。

年次	領内產輸出額 數量	領内產輸出額 價額	再輸出額 數量	再輸出額 價額	合計 數量	合計 價額	一九二八年	一八七	三、一三七	一二二	一、八二八	三〇九	四、九六五
一九二七年	二〇一	三、二三九	八三	一、二六八	二八四	四、四九七	一九二九年	二三七	三、四八〇	一〇四	一、二五七	三三六	四、七三七

ザンヂバルより輸出されるコプラの七割九分は伊太利ゼノアに仕向けられる。從來はザンヂバル產コプラの最大顧客は佛蘭西マルセイユであつたが、近年ゼノアに移つた。

（三）其他領内產物　ザンヂバル主要產物たる丁香、コプラを除いた以外の領内產物の輸出額は左の通りである。

品目	一九二八年 數量	一九二八年 千留比	一九二九年 數量	一九二九年 千留比	ココナット（千箇）	六〇八	三六	七五〇	四二
ココナット油（千封度）	一九〇	四一	一二	二五	牛革（斤）	一、一〇〇	四三	五〇〇	一八
					羊皮及山羊皮（千枚）	四一	二一	一六	一〇

胡麻油(千封度)	一〇九	三七	四三	一二	海參(斤)	二,一〇〇	三三	二,一〇〇	四一
煙草(葉)(千封度)	七七	三五	五八	一七	石鹼(同)	九〇〇	二〇	九〇〇	三〇

ロ 再輸出及仲繼輸出

(一)再輸出　一九二九年ザンヂバルの再輸出額は四百二十一萬千留比。一九二八年に比し七十四萬五千留比、一九二七年に比し百三十九萬三千留比の減退である。主な再輸出品及價額は(單位千留比)左の通りである。

品目	一九二七年	三九二八年	一九二九年	袋類	一八八	一七三	一三〇
綿布	二,一二三	一,五四〇	九二九	象牙	五七四	三三一	三六七
ガソリン及石油	五〇六	七六六	五八三	乾魚	七七	八九	一〇四
米	三三九	二九四	五五二	胡麻油	九〇	七三	五三
砂糖	一三七	二三〇	一三八	小麥粉	九一	八二	四七

(二)仲繼貨物　一九二九年仲繼貨物の價額は百七十七萬五千留比、一九二八年に比し四十二萬二千留比、一九二七年に比し五十萬二千留比の減退である。主要仲繼貨物及價額は(單位千留比)左の通りである。

品目	一九二七年	一九二八年	一九二九年	砂糖	一九	一二八	一五三
綿布	一,〇四四	六二七	五一三	黍	七三	二〇三	一二九
ガソリン及石油	二	一七九	一〇	象牙	三四	八	六
米	五九	八八	三二七				

(三)再輸出及仲繼貨物の行先　一九二九年中にザンヂバルより再輸出及仲繼された貨物の行先及價額は(單位千留比)左の通りである。

仕向先	再輸出	仲繼	計	百分率	葡領東アフリカ	三四七	三二三	六七〇	一一・一九
タンガニカ	二,四〇四	一,〇九四	三,四八九	五八・四三	ケニヤ	三四五	五〇	三九五	六・六〇
英本國	二九七	四〇	三三七	五・六三	支那	一五三	一五	一六八	二・八一
インド(ビルマを含む)	二三六	一九	二五五	四・二六	其他諸國	一八五	五三	二三八	三・九八
伊領ソマリーランド	一六五	六七	二三二	三・八八	計	四,二二一	一,七七五	五,九八六	一〇〇・〇〇
アラビア	七九	一一四	一九三	三・二二					

第五節 保稅貨物

一九二九年末現在政府倉庫保管の保稅貨物は二千八百三十九梱、價額五十萬二千留比で、一九二八年に比し梱數は九十九箇の增、價額は四千留比の減である。

第六節 ドウ貿易

ドウ(Dhow)とは古來よりアラビア人が海洋貿易に使用する帆船で、支那の戎克に相當する。今尙東阿弗利加沿岸貿易に從事しつゝあるものが多數あつて、東阿貿易上相當の地位を占めて居る。

最近四箇年にドウ船に依つて爲された貿易額は左の通りである。(單位千留比)

年次	輸入	輸出	計	貿易總額に對する百分率	一九二七年	二,八〇〇	三,一〇〇	五,九〇〇	一二・三
一九二六年	三,一〇〇	三,〇〇〇	六,一〇〇	一二・七	一九二八年	二,九〇〇	三,三〇〇	六,二〇〇	一四・四
					一九二九年	二,二〇〇	二,八〇〇	六,〇〇〇	一一・〇

第七節 貿易バランス

一九二九年の貿易(商品)バランスは左の通りである。(千留比)

領內產商品輸出額	一七,〇〇〇	小包郵便に依る外國商品再輸出額	二〇〇
外國商品再輸出額	六,〇〇〇		

商品輸出額總計	三三、三〇〇
輸　入　額	三三、三〇〇
小包郵便に依る輸入額	四〇〇
輸入額總計	三三、六〇〇
政府輸入額(控除)	二、〇〇〇
商品輸入額總計	三〇、六〇〇
輸出超過額	二、六〇〇

第八節　國別貿易

ザンヂバル保護領に對する主要貿易國は印度、ビルマを含む)、英國、タンガニカ、伊太利及蘭領印度の五國で、一九二九年是等諸國の貿易額合計はザンヂバル貿易總額の七割餘を占めた。貿易額の最も多い國は印度で、嶄然頭角を抜き輸出入額共第一位に在る。印度に亞ぐものは前記の諸國で順位亦前記の通りである。

日本との貿易額は米國、佛蘭西、和蘭及蘭領東阿に次で第十位である。而して本邦よりの輸入額は第五位を占めて居るが、本邦の輸出額は、本邦よりの輸入額の十分の一にも及ばず順位は第十九位である。

一九二九年國別貿易額　(單位千留比)

國名	上記國への輸出額(再輸出を含む)	上記國よりの輸入額	計	貿易總額に對する百分率
インド及ビルマ	八、〇八一	四、六一六	一二、八九九	二八・五七
英國	四、一二五	一、五三六	五、六六一	一二・五四
タンガニカ	二、〇三七	三、五四三	五、五八〇	一二・三五
イタリー	一〇九	三、九五二	四、〇六一	八・九九
蘭領東インド	一、五三一	二、〇〇八	三、五三〇	七・八六
米國	四七三	一、四八二	一、九五五	四・三三
フランス	一四九	一、二六六	一、四一四	三・一三
オランダ	六八〇	六〇〇	一、二八〇	二・六七
葡領東アフリカ	五〇三	六九八	一、二〇〇	二・六六
日本	一、〇九七	九八	一、一九五	二・六四
ケニヤ	五五五	四三八	九九三	二・一九
海峽殖民地	九九	八三一	九三一	二・一〇
伊領ソマリーランド	六三三	二六四	八九七	一・九八
ドイツ	二八二	三〇八	五九〇	一・三三
支那	二四	一九一	四二五	〇・九二
アラビア	一七三	一九七	三五九	〇・八二
エヂプト	六六	一七六	二四二	〇・五三
セイロン	二三二	一一	二四三	〇・五四
アデン	九一	一二五	二〇六	〇・四五
ベルギー	一三五	五九	一八一	〇・四〇
マダガスカル	一三五	三三	一五八	〇・三五

第九節　對本邦貿易

本邦よりの貿易額は左の通りである。

本邦より輸入　一、〇九七、二〇九留比　第五位
本邦へ輸出(本領產　七五、〇九〇留比)(再輸出　三一、五六〇留比)　第十九位

輸入　本邦よりの輸入價額百九萬七千留比より到著と共に他船に積換へられ再輸出せられたる貨物(即ち仲繼貨物)の價額八萬七千留比を控除すれば、ザンヂバル保護領に實際輸入された貨物の價額は約百一萬留比である。此内一萬留比は食料及原料の輸入額で、他の百萬留比は製品の輸入額である。

本邦より輸入された製品中最も重要なものは綿製品で、綿製品中輸入額の最も多いのは未晒綿布、捺染綿布、反染綿布、晒綿布である。綿製品に亞ぐ主な輸入品は被服(雜)、絹布、シングレツト(肌衣)、燐寸、靴、ホーローウエア、セメント、瀬戸物、硝子器、絹製品(雜)、人造絹製品、小間物靴下類である。

○本邦よりの輸入品　(一九二九年)

貿易額	一、一九四、八五二留比
本領貿易總額に對する百分率	二%六四

第十位

南アフリカ聯邦	五五	〇・四四
オーストラリア	七一	〇・五六
ベルシア	三六	〇・二八
スカンヂナヴィア	一一〇	〇・八六
スイス	一〇一	〇・七九
計(其他を含む)	三一、九〇八	四五、一八八

品目	本領輸入貨物 数量	本領輸入貨物 價額(留比)	仲繼貨物 数量	仲繼貨物 價額(留比)	輸入額合計 数量	輸入額合計 價額(留比)
食物及飲料(雜)	—	一、三九五	—	—	—	一、三九五
木材(挽きたるもの)	噸 七九	九、一八〇	—	—	七九	九、一八〇
未加工品(雜)	—	四三一	—	—	—	四三一
セメント	噸 四二六	一八、一二七	—	—	四二六	一八、一二七
瀬戸物	Cwts 五五五	一九、一八三	—	—	五五五	一九、一八三
硝子器	同 二九〇	一〇、二五五	一九	五五〇	三〇九	一〇、八〇五
タイル	枚 三一〇	三七	五	二四九	三一五	二八六
鐵鋼製品(雜)	噸 —	三五三	—	—	—	三五三
眞鍮製品	Cwts 九	一、三六九	一	二〇〇	一〇	一、五六九
アルミニウム製品	同 七	七八八	—	—	七	七八八
双物類	打 三七	八一	四〇	八七	四八	八八
ホーローウエア	同 八一六	三三、三五〇	四〇	一、三五一	二四〇、九	二四、八五一
電氣用品及器具	—	一〇、三五九	—	—	—	一〇、三五九
機械器具(計算、科學、醫療)	箇 三八四	二、九四四	一四	一四〇	三九八	三、〇八四
綿布(晒)	碼 一五、四七七	五、三六八	—	—	一五、四七七	五、三六八
同(反染)	同 五九、九〇〇	三〇、四二一	七五、八〇〇	三、一〇〇	一三五、七〇〇	三一、一〇九
同(捺染)	同 二三三、七九八	五五、三三一	三、一八〇	一三、九〇〇	二五六、六九八	五八、四二一
同(未晒)	同 八三五、一〇〇	二三三、四六七	四三、〇八九	一、〇〇八、七〇〇	一、〇〇八、七〇〇	二五六、五五六
綿製品(雜)	—	八七、五三一	—	—	—	八七、五三一
計	—	五二、〇六〇	—	—	—	五二、〇六〇
羊毛製品	—	六五二	—	—	—	六五二
絹製品(雜)	—	二、八六四	—	—	—	二、八六四

品目	仲繼貨物 数量	仲繼貨物 價額(留比)	輸入額合計 数量	輸入額合計 價額(留比)
絹布	碼 六五、五九九	二五、九〇一	六五、五九九	二五、九〇一
人造絹製品	同 三〇、一四〇	一八、七九八	三〇、一四〇	一八、七九八
袋類	打 三	三	三	三
被服(雜)	—	一三三、九二五	—	一三三、九二五
シングレット	—	七三、三八六	—	七三、三八六
靴	足打 三、四〇九	四三、〇九五	三、四〇九	四三、〇九五
土人用スパッツ及サンダル	同 一四八	四四〇	一四八	四四〇
小間物	—	一七、一九〇	—	一七、一九〇
帽子	—	八七九	—	八七九
靴下類	—	一三、八二〇	—	一三、八二〇
化學製品(雜)	Cwts 八	二四〇	八	二四〇
藥品類	—	一、三五九	—	一、三五九
石鹸	Cwts 一	一三七	—	一三七
紙類	同 —	二一	—	二一
紙製品	同 五	三七	五	三七
文房具(紙製)	同 二	二四七	六	二五三
車臺	同 五	四六八	五	四六八
自轉車	同 一七	一、〇四二	一七	一、〇四二
同(部分品)	—	一三一	—	一三一
飾玉	封度 一、七七七	一、六八七	一、七七七	一、六八七
磨料	Cwts 一	一〇八	一	一〇八
書籍及印刷物	—	七五	—	七五
製品(雜)	—	三八、〇一〇	—	三八、〇一〇
雜 寸箱の「グロス」	六〇、二五〇	五二、三五九	六〇、二五〇	五二、三五九

樂器	個	一	一	四五
酒精製香料	Cwts	—	一〇	一〇
化粧料(香水を除く)		—	一、三九	一、四三三
文房具(紙にあらざるもの)		—	九九	九九
藁製品	個	一、一〇〇	一三一	一三一
藁蓆	枚	一九〇	九六五	一、一二五
玩具		—	二、七二八	二、七二八
洋傘	打	六六七	八、三七六	八、四三三
合計		—	一、〇一〇、一八九	一、〇九七、一〇九

輸出　本邦への輸出額は總計約九萬八千留比であるが、內二萬三千留比は再輸出品の價額であるから、本領の產物で本邦に輸出せられたもの丶價額は七萬五千留比である。而して此內の大部分は丁香が占めて居るから、丁香以外の輸出品は全く問題でないことが判る。

又本邦に對する再輸出品としては象牙、犀角、コロムボ・ルートの三品の外少許あるに過ぎない。

○本邦向輸出品（一九二九年）

品目	數量單位	本領產物 數量	留比	再輸出品 數量	留比	輸出額合計 數量	留比
丁香	Cwts	一、三九	七四、六五五	—	—	一、三九	七四、六五五
コロムボ・ルート	Cwts	—	—	三三	四、六八〇	三三	四、六八〇
象牙	同	—	—	一〇	一〇、三九八	一〇	一〇、三九八
未加工品(雜)		—	—	一八	二三	一八	二三
犀角	Cwts	—	—	二	七、三八〇	二	七、三八〇
貝殼(眞珠貝を除く)	封度	三、六五五	三〇	—	—	三、六五五	三〇
製品(雜)		—	—	—	—	—	—
合計		—	五五、〇九〇	—	—	—	五五、〇九〇

第四章　交通及運輸

ザンヂバル港を寄港地とする汽船會社は次の通りである。

Union Castle Mail Steamship Company, Ltd.　British India Steam Navigation Company, Ltd. 以上の二會社はロンドンとの間に每月定期航路を經營して居る。Clan-Ellerman-Harrison.　Ellerman-Bucknall.　此二會社は每月寄港するが不定期である。　Messageries Maritimes.　此會社はマルセーユ、マダガスカル島間に隔週定期航路を經營して居り、Campagnia Italiana Transatlantica.　はゼノア、ザンヂバル間に每月定期航路を經營して居る。　United Netherlands Navigation Company.　はオランダ及東阿間の貨客運輸に從事して居り、British India Steam Navigation Company,　はケニヤ最北の海港ラム、タンガニカ最南の海港ミキンダニとの間に沿岸定期航路を經營して居る。　Messrs Cowasjee Dinshaw & Bros.　又此會社はザンヂバル港と伊領ソマリーランドの海港キスマユ間に定期航路を經營して居り、Deutsche Ost-Afrika Linie.　はハムブルグよりスエズ及ケープ經由阿弗利加一週航路を經營して居る。大阪商船及 British India Steam Navigation Company.　の二會社はザンヂバル港を經由して孟買、ダーバン間に隔週定期航路を經營して居る。

以上の外ザンヂバル政府はダレサラムを經てベムバとの間に每週定期航路を經營して居る。

一九二八年度に於てザンヂバル港を出入した大洋通ひの汽船數は三四六隻、此總噸數一、三八八、一三八噸で、沿岸貿易船の數は三一四隻、總噸數一一九、六九八噸、ドウ（Dhow、古來よりアラビア人が海洋貿易に使用する帆船）は入港したもの

七四、八八一噸、出港したもの七四、六二三噸であつた。

アデン及ダーバンを經由してヨーロッパとの間に海底電線が通じて居る。

ザンヂバル及ペムバ兩島には合計二一一哩の自動車路がある。又ザンヂバル及ペムバ兩島には政府經營の無線電信局があり、ザンヂバル市には電話の設備があつて、地方とも連絡して居る。二島を通じて郵便局は六箇所に置かれてある。

第五章　關　稅

(一)輸入稅

イ　輸入貨物一切（酒及特種品を除く）從價一割五分（一九二七年十月改正）

ロ　酒精二「ガロン」に付二五留比　但し酒精中には酒精百分の三以上を含む。香水、化粧品をも含む（一九二六年改正）

ハ　無稅品　地圖、海圖、旅客の手荷物（但し此內には武器、酒、煙草、食糧、乘物を包含しない）德利、瓶、石鹼製造用品化學製品、藥品、石炭、ガンニー袋、農具、荷造材料、醫療器具、電信、電話用品、針金及金網、商品として價値のない商品見本

(二)輸出品

イ　丁香　現品二割五分　　ロ　丁香蝋　現金一割

(三)入港稅

ザンヂバル港に入港する各船舶は港稅及燈明稅として登簿噸一噸に付二「アンナ」又は一二・五仙を徵收される。

四　葡領東阿弗利加（モザムビイク）

第一章　一般經濟狀況

第一節　概況　面積—人口

葡領東阿は北はロヴマ河に依つてタンガニカに、西は出入不規則な境界線でニアサランド、南北ローデシア及トランスヴアールに、南は狹少な境界に依つてナタルに接し、東北一帶の地は印度洋に面して海岸線一、五〇〇哩に及び面積約四二八、一三二平方哩で殆ど東阿の南半を占めて居る。從つて地理的には東阿地方であるが、經濟的には南阿諸國の威勢に屈し且陸上の交通關係でも同樣であるから、之を南阿の一部と看做す方が實際に近い。因にロヴマ河の直南地方は元獨逸に屬して居たが、歐洲大戰の結果媾和會議に依つて葡萄牙に讓渡されたのである。

人口は不正確ではあるが、土人の數は直轄五州に二、五八七、三一一人、會社領に九〇四、五七六人　合計三、四九一、八八七人で一平方哩に約十一人である。歐洲人は約二五、〇〇〇人で多くはロレンソ・マルケス及ベイラに集中して居る。但し葡萄牙人が最も多く、其內大多數は官吏で實業に從事するものは極めて尠く、有力な商人は大抵英國人である。

第二節　一般狀況

モザムビイクは葡萄牙の殖民地で五人の州知事の上に總督が居て之を統治して居る。ソファラ及マニカの二州はモザムビイク會社領で、一八九一年に五十箇年の期限付で特許されたものである。

モザムビイク及南阿聯邦間には密接な商業關係があつて、最近鐵道、稅關及鑛山勞働に關する協定が行はれた。トランス

ヴアルからロレンソ・マルケスに至る鐵道はトランスヴアル領の生産品を輸送する結果輸出港としてロレンソ・マルケスは重要となつた。同國の經濟的活動はトランスヴアル、ローデシア及ニアサランドに至る鐵道に依つて奥地の農業開發をすることと竝諸港からの船舶運輸に依る二つの明な分野に支配されて居るものと見ることが出來る。

諸港の貿易は主として奥地諸國の出入通過貿易であつて、モザムビイクの繁榮は是等諸國の經濟狀況と頗る密接な關係がある。

第二章　産業狀況

第一節　鑛業

モザムビイク殖民地に鑛物埋藏地の存在することは當初の探險以來ポルトガル人に依て知られて居たが、次第に其確實性を增し、殊に貴金屬に對しては一般の注目する處となつた。

最近三十年以來モザムビイク及ザンベヂア兩特許會社の管理地では金、錫、銅、鉛、鐵及石炭等の埋藏地が發見せられて居る。マニカ地方には金、銅及鉛を、テーテ州には石炭、金及銅を產出する。

赤鐵鑛或は磁鐵鑛等はモザムビイク殖民地の諸處に存在して居る。

石炭はザンベヂ谿谷に最も多く、ニアサ湖附近にも石炭の露出地がある。

石油に就てはロレンソ・マルケス及イナンバネ兩州で調査せられ、既に其存在が明にされた。

南アフリカ聯邦內で多くの鑛脈が發見され且又歐洲戰爭に原因する經濟的打擊の爲、一般工業家のモザムビイク殖民地に於ける鑛物に對する關心は薄らいだが、同殖民地の鑛物地帶として既に知られて居る地方で新鑛脈を發見せんとして事業を始めた者もある。

第二節　農業

モザムビイク殖民地には大に農業方面に發展し得る廣大な平原があり、凡ゆる種類の熱帶及亞熱帶の產物の栽培に適して居る。

勞力方面は相當豐富で、河川も立派なものが澤山あり、廣大且つ肥沃な土地もあり、又農業に必要な丈の雨量も充分にある。同殖民地で最も肥沃な土地は南部ではリンポポ、インコマティ及ウムベルヂイの谿谷地、北部ではザンベヂ谿谷地、ケリマネ地方の北東部、其他殖民地の全ての地方に散在して居る。

モザムビイク殖民地の農產物輸出額は一九二八年には一、八五〇、〇〇〇「リブラ」（一「リブラ」は英貨一磅我が約十圓）に達し、之が主要輸出品は砂糖、玉蜀黍、コプラ、サイザル麻、棉花、煙草、製油用種子、マングローブ樹皮、及果物である。以下之等に付說明することにする。

（イ）砂糖　モザムビイク殖民地で生產される砂糖の大部分はモザムビイク特許會社の管理地域內で生產せられ、其生產額も年々增加の勢を示して居る。

Sena Sugar Estates 及 Companhia Colonial do Buzi の二大栽培地はモザムビイク特許會社の管理地內にある。

Sena Sugar Estates（セナ砂糖耕地）はケリマネ州にあつて、ザンベヂ河畔にモペア及ルアボ砂糖工場を有し、年四〇、〇〇〇噸の生產能力を有して居る。

イナンバネ地方にはムタンバ砂糖耕地があり、年產額一、六〇〇噸に達して居る。

ロレンソ・マルケス州にはキシナバネにインコマティ耕地の砂糖工場があり、年一五、〇〇〇噸の生產能力を示して居る。

栽培して居る甘蔗の內種類として優れたものは Juba, Green Natal, Lusier e Fanna 等である。

年産額は七〇、〇〇〇噸を上下して居る。

(ロ)玉蜀黍　玉蜀黍の栽培は近年非常に發達した。モザムビイク特許會社の管理地及其他の政府の監督下に在る地方に於て、政府の援助に依り、著しい發達を見つゝある。玉蜀黍の栽培は又土人も之を行つて居り、其盛んな地方は肥沃なインコマティ谿谷地、殊にモザムビイク州で有名である。

(ハ)コプラ　椰子類の栽培の最も發達して居る地方はケリマネ州で、モザムビイク州及イナンバネ州でも栽培されて居る。

ケリマネ州の海岸地方には殆ど全般的に椰子屬植物が成育し、氣候の狀態が此種植物の成長に適し繁茂して居る。該地方は世界最大の椰子屬植物の産地で、其産額は一、〇〇〇、〇〇〇本に達して居る。此等地方はボロール會社の管理に屬し、同會社はケリマネ州の多くの土地を借入れて居る。

(ニ)サイザル麻　サイザル麻栽培が紹介されたのは一九一〇年にザンベヂア及ボロール兩會社に依つてケリマネ州に栽培されたのを嚆矢とし、爾來非常な發達を遂げ、今日ではモザムビイク殖民地有數の重要品となつて居る。

サイザル麻の栽培には肥沃な土地と多量の水とを必要とするが、此點前記ケリマネ州は最適の條件を具備し、年々其輸出を增加し、主としてフランスに輸出して居る。

モザムビイク州には Sociedade Agricola de Angoche (アンゴチエ農業組合)所有の大規模なサイザル麻栽培地があり、同組合はサイザル麻製造工場を經營して居る。

(ホ)棉花　殖民地政府は棉花栽培に非常に熱心で、最近大に此方面の開拓に努力して居る。

政府は外國の專門家を雇ひ、棉花栽培に關して土地の條件を研究せしめたが、此等專門家の意見は非常に有望であると云ふことに一致して居る。

シーレ河沿岸、ザンベヂア地方、モザムビイク州の大部分及ロレンソ・マルケス州、此等の地方は棉花栽培に特に適して居る條件を備へて居り、既に少からざる內外の資本が投下されて居る。

交通機關の發達、殊に新道路の開發と共に、從來內地農業者の受けて居た不便の大部分が除かれた爲、棉花栽培事業も益々有望となつて來た。

(ヘ)煙草　殖民地內には廣大で優良な諸種の煙草栽培地があり、アルタ・ザンベヂア、イナンバネ及ロレンソ・マルケス各地方には優良な煙草栽培地がある。其他でも多量の煙草が生産されて居る。

(ト)製油用種子　製油用種子の生産及輸出は殖地民全般に亙つて行はれ、其數量も多量で、棉實、落花生、胡麻、マフーラ、ナブーパ、蓖麻子等がある。此等の輸出金高はモザムビイク經濟界の重要なる要素を形成して居る。

(チ)マングローブ樹皮　モザムビイク州及モザムビイク特許會社管理地の赤色マングローブ樹より染料用として多量の樹皮を採取して居る。マングローブ樹は同殖民地の北部沿岸地に潤澤に繁茂して居る。

(リ)果實　殖民地全般に亙つて熱帶及亞熱帶の果實は豐富である。

バナナ、シトリーナ、夏蜜柑、蜜柑及レモン等は非常に多く、此等のロレンソ・マルケスよりの輸出は重要視されて居る。

其他の果物としてはマンゴ樹の實、ゴイアバ、鳳梨、瓜、桃の如きものがある。

左記はモザムビイクに於て栽培されて居る植物の名稱を其學術名と共に揭げたものである。

俗名	學術名
米	Oryza sativa, L.
馬鈴薯	Solanum tuberosum, L.
甘藷	Convolvulus batata, L.
甘蔗	Saccharum officinarum, L.
シドラ【香櫞(ブシュカン)の實】	Citrus medica, L.
茶	Thea Bohea, L.
豆(菜豆の類)	Phaseolus vulgaris. L.
胡麻	Sesamum indicum L.

ゴイアベイラ(梨狀の實を結ぶ、桃金孃科)
Psidium Guayava, L.
夏蜜柑 Citrus aurantium, L.
レモン Citrus limonium, Risso.
マンヂヨカ Manihot utilissima, Pohl.
マビラ Sorghum vulgare, Pers.
水瓜 Cucumis citrulus, L.
メロン Cucumis melo, L.
梅 Holcus sorghum, L.
玉蜀黍 Zea mays, L.
玉蜀黍粉 Panicum miliaceum, L.
胡桃 Miristica fragrans, Hautt.
大唐辛子 Piper nigrum, C.
サイザル麻 Agavef, L.
スマウマ(棉の一種)
Eriodendron aufactuosum, D.C.

第三節 動物

モザムビイク殖民地の各州には象、ライオン、豹、水牛、野猪、猿等の動物が棲息し、又麒麟及斑馬等も棲息して居り、河川には河馬、鰐等が居る。

又ポルトガル人が草原の小山羊と呼んで居る羚羊が澤山居る。

パンダ地方(イナンバネ州)には種々の動物が豊富に棲息して居る。

尙鳥類も多種類で駝鳥、鷲、鷺、鵠鶴、烏、鶉、鴨、鴫、鵁鳩、鳩、インド鷄等が居る。

第四節 家畜

家畜として主なものを擧げれば次の通りである。

牛	四〇〇、〇〇〇頭	驢馬	五、〇〇〇
山羊	一五〇、〇〇〇	騾馬	四〇〇
豚	五〇、〇〇〇	馬	一五〇
緬羊	五〇、〇〇〇		

家禽として主なものは鷄、家鴨及鳩の如きものである。

第五節 水産業

モザムビイク殖民地の沿海には魚、甲殼類及軟体動物等が豊富に居るが、附近に適當な市場を持たない爲と、地方住民間への供給の不便の爲、漁業は未だ大規模な發達を遂げて居ない。

沿岸地方の住民は簡單な漁具を使用して漁業に從事して居り、歐洲の中心都市方面へ之を供給して居る。

沿海の資源開發の爲數年來海洋學的の研究が行はれて來たが、未だ決定的の結論には達して居ない。

バザルート島には眞珠貝礁があり、貴重なものとして保護監視されて居る。

捕鯨事業も盛になり重要工業となる可能性を有つて居る。

モザムビイク沿海及南アフリカ聯邦沿海の捕鯨事業を規定する一九二三年及一九二八年の法規は、諸種の鯨を保護するのを目的としたものである。

第六節 工業の發達

モザムビイク殖民地の鑛業は頗る古くより行はれ、紀元前一五〇〇年頃既にフエニキア人に依つて貴金屬の採掘が行はれたことの文献があり、十六世紀には土人達に依つて金、銀の採掘が行はれて居たことをポルトガル人は知つて居たのである。

最近ではマニカ地方で金の採掘が行はれ、年産額は數千「コント」に達して居る。(一「コント」は一千「エスクード」、一「エスクード」は我約二圓に當る)。

テーテ州の炭礦は有望で、既に採掘を行つて居るムアテイズの如きも、海岸地方との交通機關が完成せられたならば非常な發達を見るであらう。

モザムビイク殖民地に於ける工業の内、最も重要なのは精糖業で、砂糖工場は諸處に設置せられ、産額は約七〇、〇〇〇噸に達して居る。

其他の工業としてはサイザル麻工場、製茶業、煙草製造業、タンニン採取業、植物性油製造業、ビール醸造業、製粉業、尙此外に家具、石鹸、石灰、セメント、氷等の工場がある。

尙工業に就ては後に詳述することゝする。

第七節　土人の工業

土人の行つて居る工業は殖民地全般の經濟界から見れば大したものではないが、土人の内部生活及土人の技能方面を觀察する點から見れば一部の重要性を有つて居るものである。

現に未だ原始的生活の域を脫して居ない土人の中にも、家具又は裝飾品其他武器、鐵器の如きもの〻製造に從事して居るものが居り、殊に金絲細工は有名で、其起原は遠く十六世紀初期のポルトガル人の探險時代に溯つて居る。

製鐵工場の出來ない前には歐洲で良く知られて居た原始的の方法で武器及鐵器の製造が行はれて居た。

土人の家内工藝品を觀察して見るに殖民地人として十分な能力を有して居り、政府が技術及職業方面の學校を興し、彼等を教育する上には何等支障はない。

此種教育機關には既に設けられて居るものもあり、又現に計畫中のものもある。

此種の教育の發達、交通機關及富源調査の發展に依り、殖民地政府は經濟的發展殊に將來有望である現在の工業及其他事業の助成を計らんとして居る。

第三章　工業狀況

砂糖　(イ)殖民地には九つの砂糖工場がある。内五箇所は州政府直轄地にあり、他の四箇所はモザムビイク特許會社管理地にある。生産能力は次の通である。(單位噸)

州名	工場	生産能力
ロレンソ・マルケス	インコマティ	一五、〇〇〇
	ムタンバ	一、六〇〇
イナンバネ	テイシューウ、デイアス	一〇〇
モザムビイク特許會社	モペア	一五、〇〇〇
	ケリマネ	一五、〇〇〇
	ルアポ	
	計	

一九二八年度に於けるモザムビイク特許會社の砂糖輸出額は三六、〇〇〇噸で、尙其他各州の砂糖輸出高は同じく三六、〇〇〇噸に達して居る。

	マロミウ	一六、〇〇〇
	カイア	一五、〇〇〇
	ノーバ・ルシタニア	六、〇〇〇
	イナングーボ	三、〇〇〇
		一、三五七、〇〇〇

(實際生産高　七〇、〇〇〇噸)

(ロ)アルコール　殖民地最高委員部は一九二一年法令に依り砂糖工場に對し、其餘力をアルコール製造に用ふることを許可して居る。

(ハ)石灰　石灰は殖民地全般で製造されて居る。ロレンソ・マルケス州には大規模な工場があり、年産額二〇〇乃至三〇〇噸に達して居る。

(ニ)ビール　ビール醸造工場は　ロレンソ・マルケス州に唯一箇所あり、年産額は二〇、〇〇〇乃至五五、〇〇〇「リツトル」である。

(ホ)セメント　ロレンソ・マルケス州にはポートランド・セメント工場がある。同工場は一九二四年に創設せられ、完全な機械設備が施してある。

創立當初の年産額は七、〇〇〇噸であつたが、一九二八年には一四、〇〇〇噸に達して居る。歐洲人其他を四十名使用し尙

土人の職工を三〇〇人使用して居る。同工場のセメントは殖民地の各種の事業に使用せられ、相當の實績を擧げて居る。
値段はロレンソ・マルケスで八五「キログラム」入一袋當り三〇「エスクード」で賣買せられて居り、各州に供給されて居る。
（日本内地値段は五「キロ」建三圓見當）。

前記工場の年生産能力は約三五、〇〇〇噸である。

（ハ）氷及炭酸水　ロレンソ・マルケスに二箇所、モザムビイク州に一箇所の氷及炭酸水の製造工場がある。年産額は氷一四、〇〇〇噸、炭酸水一、六〇〇、〇〇〇「ダース」に達して居るに過ぎない。

（ト）製粉業　殖民地には各種の製粉工場があるが、就中大規模なものはロレンソ・マルケスに在る製粉工場である。右工場の生産能力は玉蜀黍粉一一、五二〇噸、其他の穀物三六〇噸である。製粉の原料は殖民地及トランスヴアルの玉蜀黍を用ひて居る。

其他小麥はカナダより輸入したものを用ひ、オーストラリアよりは陀鳥の卵及其他の卵が輸入されて居る。
玉蜀黍粉の生産高は現在二、七〇〇乃至二、八〇〇噸に達し、其他の穀物は一〇〇乃至一六〇噸を上下して居る。

（チ）製油業　殖民地には諸種の製油工場があるが、ロレンソ・マルケスにあるものが最も大規模である。其生産能力は一、九二〇噸であるが、年産額は實際には四〇〇乃至五八〇噸に過ぎない。使用原料は殖民地各地より供給されて居る。
即ち落花生、胡麻、蓖麻子、マフーラ、コプラ及棉實等である。

（リ）石鹸　ロレンソ・マルケス及モザムビイク兩州に各一箇所づゝ石鹸製造工場がある。ロレンソ・マルケスに在る工場の生産能力は七二〇噸であるが、實際の年生産高は普通石鹸四〇〇噸、化粧石鹸七噸である。夫故石鹸の輸入は殆ど無い。
原料は殖民地各地より供給され、卽ちコプラ油、マフーラ油、落花生油及獸脂等が用ひられて居る。

（ヌ）煙草　煙草工場は六箇所あり、内ロレンソ・マルケスに三、モザムビイクに二、ベイラに一となつて居る。普通製造高は二五〇乃至三〇〇噸で、輸出は一五〇噸内外である。

（ル）糖蜜　ロレンソ・マルケスに糖蜜及清涼飲料の製造工場がある。其生産能力は四五、〇〇〇「リツトル」である。現在の生産高は一〇、〇〇〇「リツトル」内外で、殆ど殖民地内で消費されて居り、輸出は僅少である。

（オ）新規工業　中央政府は新規工業の發展を目的として一九一五年新に法令を發布したが、右法令に依れば特定の地域内で始めて行はれる工業に對しては政府は公益に適するものと認め、又事業に必要な資金を有ち且創業費五、〇〇〇「エスクード」を下らない場合には、特別の權利を附與することになつて居る。右法令に依つて特別の權利を附與せられたものにセメント、石鹸及ビール等の製造業がある。

尙特別法の適用を受けたものは鐵骨入セメント製管、香料、家具、履物、建築用セメント材及土器等の製造業である。
前記特別法の適用區域外の地方では製油業、製粉業、清涼飲料、棉花竝サイザル麻栽培、製鹽、石灰製造業等が行はれ、中には總て近代的設備を有する工場もある。

左に殖民地に於ける工業製品の年産額を擧げることにする。

砂糖	七〇、〇〇〇噸
石灰	二〇〇乃至　三〇〇噸
ビール	二〇、〇〇〇乃至五〇、〇〇〇「リツトル」
セメント	一四、〇〇〇噸
氷	一四、〇〇〇同
穀粉	二、六〇〇乃至二、九六〇噸
油類	四〇〇乃至五八〇噸
石鹸	四〇〇噸
化粧石鹸	七同
煙草	二五〇乃至三八〇噸
糖蜜	一〇、〇〇〇「リツトル」

第四章　運輸交通狀況

第一節　海運

モザムビイク殖民地にインド洋岸に約二、五〇〇「キロメートル」の海岸線を有し、海運は同殖民地の交通機關として最も重要なものであり、且唯一の外國との交通機關である。

一九二八年中主要三大港の貨物の動きは七、五〇〇、〇〇〇噸を超過して居り、其内譯を示せば次の通りである。

港別	入港船舶數	噸數	ベイラ	五九四	二、六〇〇、〇〇〇
ロレンソ・マルケス	七七四	三、七九七、六〇〇	モザムビイク	五三一	一、一三八、七〇〇

殖民地諸港とアメリカ、歐洲及アジア方面とを連絡して居る定期船は相當あるが、就中著名なものを擧げれば次の通りである。

Companhia Nacional de Navegacao	ポルトガル	Natal Direct Line	英國
Union Castle Line	英國—東アフリカ—フランス	大阪商船會社	日本—極東
British India Line	インド—中國—日本	John T. Rennie & Sons	英國
Deutsche Ost-Afrika Linie	英國—ドイツ	Ellerman & Bucknall Co.	英國
Holland Afrika Lijn	オランダ—英國	Clan Line	英國
Marittima Italiana	イタリー—東アフリカ		

尙一九二九年度に於ける本邦船舶の乘客數、陸揚貨物噸數竝金額其他を示せば左の通りである。

	入港	出港	上船客數	人	—	四三
隻數	隻	四七	陸揚貨物噸數	噸	一九、三七七	—
噸數	噸	二七八、五二七	陸揚貨物價格	金「エスクード」	一、八九六、七二一	—
乘組員數	人	三、〇九二	積込貨物噸數	噸	—	三、一二四
通過乘客數	人	六、三三七	積込貨物價格	金「エスクード」	—	一、〇一四、七一九
下船客數	人	五〇〇	—			

殖民地諸港間の沿岸航通も亦重要で、遠洋航路船の寄港しない產地の物產を主要港に輸送する爲に必要なことで、右に該當する地方はモザムビイク州の一部ザンベヂア、ケリマネ、イナンバネ及ガザ等である。

此等沿岸航路の外に後記の陸上運輸がある。

沿岸航路は主として殖民地沿海を本據とするポルトガル商船に依つて行はれて居るが、Deutsche Ost-Afrika Linie 及 British India Line はベイラの北部地方の航路に從事して居る。

第二節　河川交通

殖民地に於て唯一の河川であるザンベヂ河は殆ど理想的な定期船の便がある。

ザンベヂ河の河港たるチンデイはベイラ港と連絡し、同處より殖民地奥地地方卽ちテーテ州及アンゴニア方面の物產及低ザンベヂ河の沿岸で生產される砂糖等が輸出されて居る。

リンポポ河も亦小汽船に依る航行は可能であつて、ロレンソ・マルケスと連絡して居るが、比較的重要性は少い。然しリンポポ谿谷地の灌漑事業が實現したならば非常に重要なものになるであらう。同灌漑事業は殖民地の經濟的發展に對する政府の計畫の一部であつて、既に中央政府の承認濟となつて居る。

其他に小帆船に依る航行可能の河川があるが、河口の滿潮時に數「キロメートル」の範圍内にさかのぼり得るに過ぎない。

第三節　陸上交通

モザムビイク殖民地には一、五八〇「キロメートル」の鐵道があつて、九線に分れて居るが、其内主なものは次の四線である。

ロレンソ・マルケスよりトランスヴアル國境に至るもの	トランスザンベヂア線
ベイラよりローデシア國境に至るもの	モザムビイク鐵道

右の内最後のモザムビイク鐵道は全く經濟的發達を目的としたもので、三箇年以内に該地方の農産物輸出高を二倍に增加せしめる樣に計畫されたものである。現在は延長一二二「キロメートル」であるが、ニアサ湖迄即ち全長約六〇〇「キロメートル」に延長されることになつて居る。

ロレンソ・マルケスより國境に至る線は、殖民地最古の鐵道であつて一八八七年に創り、ロレンソ・マルケス港とトランスヴアルとを連絡して居る。延長八七「キロメートル」でトランスヴアルの中央及北部と外國との連絡機關をなし、金、石炭其他の鑛業の發展に助成するところ著しく、最近の狀態を示せば次の通りである。

年次	上り線 旅客數	上り線 貨物噸數	下り線 旅客數	下り線 貨物噸數
一九二五年	一二八、五九六	二八八、五二五	一三六、〇一四	九一四、九九三
一九二六年	一二七、〇七三	三二五、二五八	一六〇、三九八	九五四、四五八
一九二七年	一五七、四三七	三三八、四四九	一七八、五五六	七二九、一七六
一九二八年	一五六、一八五	三九三、二三九	一六二、〇四〇	八四〇、二九四

殖民地第二の鐵道線はベイラ港、ローデシア及ベルギー領コンゴーとを連絡するもので、延長三〇〇「キロメートル」、終點のマセケセでローデシア鐵道と連絡して居る。尙同鐵道はポルトガル政府の許可を受けて居る唯二つの外國人系會社の一に屬して居る。

第三のトランス・ザンベヂア鐵道は延長二八一「キロメートル」でベイラ及ムラサを連絡して居るが、最初はニアサランド方面の爲に建設されたものである。同線を完成せしめる爲にはザンベヂ河に鐵橋を掛ける必要があるが、同鐵橋の建設費は二、〇〇〇、〇〇〇「リブラ」を超えるであらう。右鐵橋の建設は英領保護地の發展に重要な通路を與へることになる。

第四の鐵道は奥地の外國領土に通ずるもので、ロレンソ・マルケスと英領殖民地スアジランドより一三「キロメートル」の處に在るゴバとを連絡して居る線である。同線は殖民地奥地の産業開發に大に役立つもので、ゴバより海岸へ物産の輸送を容易ならしめるものである。

同線の延長は六四「キロメートル」、其最近の趨勢を示せば次の通りである。

年別	旅客數	貨物噸數
一九二五年	一九、八八二	八、一七二
一九二六年	一九、一八三	六、五一九
一九二七年	一二、八八四	五、一三五
一九二八年	一八、六二五	三、九四〇

其他の鐵道を擧げれば次の通りである。

クシナバネ鐵道は殖民地の南部に在る延長八九「キロメートル」の線である。元來此鐵道は一砂糖工場の爲に建設されたもので、同砂糖工場の生産高は一〇、〇〇〇噸である。

ガザ鐵道は低リンポポ地方とイナンバネ州とを連絡し、全長九八「キロメートル」、主としてマフーラ製油用種子等の運搬に利用されて居る。

イナンバネ鐵道は延長九〇「キロメートル」で、主として製油用種子をイナンバネ港に運搬し同港より輸出して居る。

マラクエネ鐵道(三五「キロメートル」)は殖民地の南部、ケリマネ―モクーバ鐵道(一四五「キロメートル」)は低ザンベヂ地方に在つて、輸出用農産物(コブラ、ココ及纖維)を運搬して居る。

モザムビイク殖民地の自動車道路は一八、〇〇〇「キロメートル」に達し、自動車の通じない地方は極く僅に過ぎない。近接國との交通路の内主なものはロレンソ・マルケスより南アフリカ聯邦に至るもの及ベイラ、ケリマネ、テーテ及モザムビイクよりローデシア及ニアサランドに至るもの等である。

第四節　海港

既述の如くモザムビイク殖民地の海岸には數多の優秀な港があるが、其内商業上最も重要なものに就き、一九二八年度の旅客數及陸揚貨物噸數を示せば次表の通りである。

港名	旅客數	噸數(單位千)
ロレンソ・マルケス	三四、〇〇〇	一、〇〇〇
ペイラ	二四、五〇〇	七二〇
モザムビイク	一、五〇〇	八二
イナンバネ	三、八〇〇	三五
イナンブーラ	三、〇〇〇	四
ケリマネ	四六〇	三八
アントニオ・エネス	二〇〇	一九
ポルト・アメリア	一九四	七
チンデ	八〇	一七
ペバネ	一八	八
モマ	一二	九

第五章　外國貿易

第一節　輸入

モザムビイクの輸入貿易は、ポルトガル本國及其殖民地よりの輸入と其他の外國よりの輸入との二つに分けられて居る。ポルトガル本國及其殖民地より輸入されるものはオリーヴ油、織物、葡萄酒、石鹼、礦水及肉類、(魚肉を含む)であつて、其他の外國より輸入されるものは石炭、織物、農工用機械、麥酒、鋼、鐵、米、小麥粉、酒精飲料及牛酪等である。

左表はモザムビイクへの各國の輸入率を示す。

國別	一九二六年	一九二七年	一九二八年
ポルトガル(再輸出を含む)	一三・八六	一五・五二	二一・〇四
ポルトガル屬領地	三・〇五	二・五八	二・八〇
ドイツ	一四・一一	一八・一四	一七・一〇
米國	七・〇五	八・一六	七・四五
オーストリー	一・〇七	〇・一七	〇・一一
アルゼンチン	—	—	〇・〇二
ベルギー	一・二二	〇・七三	三・四一
ブラジル	〇・二三	〇・〇三	〇・一二
チエツコ・スロヴアキア	〇・〇八	〇・一〇	〇・一八
中華民國	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇九
デンマーク	〇・二四	〇・一一	〇・〇七
スペイン	〇・〇二	〇・〇一	〇・〇一
フインランド	〇・三一	〇・二五	〇・三五
フランス	一・五三	一・六一	一・二五
オランダ	五・四二	四・一六	一・七〇
英國	三三・〇七	三〇・四五	二七・一五
イタリー	〇・九八	一・二六	一・一一
日本	一・三〇	一・三四	一・五二
ノールウエー	〇・六七	〇・一七	〇・一八
ローデシア	—	〇・〇三	〇・〇三
ロシア	〇・一二	〇・〇二	〇・〇二
シヤム	〇・二五	〇・三二	〇・三八
スウエーデン	〇・七六	〇・二六	〇・三〇
スイス	〇・五二	〇・七〇	〇・六二
南アフリカ	一四・四六	一二・〇六	一二・四九
ザンヂバル	〇・一七	〇・二五	〇・〇七
其他	〇・三八	〇・四二	〇・四〇

右表に依つて明である樣に、モザムビイク殖民地への輸入額の殆ど半は英國及其屬領地より輸入されて居る。

次に同殖民地への主要輸入品名及價格を示す。(單位數量噸、金額「リブラ」)

品目	一九二六年 數量	一九二六年 金額	一九二七年 數量	一九二七年 金額	一九二八年 數量	一九二八年 金額
小麥粉	三、三九〇	六四、九二二	三、八七九	六七、五八二	三、五〇三	七六、五七六
米	三、〇六六	五七、〇二五	三、九九九	六九、九六三	四、九五六	七九、五八九
織物	二、二七七	六二五、七七六	三、四三五	七〇四、〇六六	三、一三八	七九〇、九五七
玉蜀黍	二、一三八	—	三、六三七	二七、三一四	二、六二九	二二、五七〇
鋼及鐵	一、七三五	二〇、五七三	二、四一六	二〇、五一二	三、二八二	四四、四七六
酒精飲料、ビール、葡萄酒	三九二	三七、四五四	四五九	三六、四四二	五、七九五	二二九、九四四
石鹼	二六二	—	—	—	四〇四	一六、五四五
牛酪	一七二	二九、一二四	一五五	二九、三三二	一九六	二三、二〇六
石炭	六七	五二、三八八	七五	六〇、三六四	七六	六〇、三一七
香料	四〇	—	—	—	六三	一四、四八四
玉蜀黍粉	五一	—	—	—	九九	九七二
茶	二七	—	—	—	四六	九、七二七

農工用機械	—	六〇、五六五	—	一二〇、三八七	
木製品	—	—	—	一二、八三二	
履物類	—	—	—	二八、四二一	
自動車	—	四八、九三七	—	一〇四、二四	
ガソリン	一、六二一	三三、〇八五	二、四二五	四七、六〇八	

第二節　輸出

モザムビイクの對外輸出率を示せば次の通りである。

國別	一九二六年	一九二七年	一九二八年
ポルトガル	二〇・二九	一五・八四	一三・二六
ポルトガル屬領地	二・六三	一・六六	一・〇三
ドイツ	〇・六八	〇・〇一	〇・二八
ベルギー	五・六四	九・八六	六・六二
フランス（屬領地を含む）	三七・七九	三九・一七	三六・六四
オランダ（屬領地を含む）	二・九五	四・六〇	二・九九
英國（同）	九・三八	七・九三	六・七一
イタリー	〇・三八	〇・三一	二・四〇
日本	—	〇・〇七	—
南アフリカ聯邦	八・一五	七・〇六	三・六〇
ザンヂバル	〇・六三	〇・七一	〇・三五
其他	〇・一三	〇・一九	〇・四四

モザムビイクよりフランスに輸出する主要品は棉花、護謨、蠟、象牙、製油用種子、毛皮、皮革及サイザル麻等である。英國向主要輸出品としては砂糖、棉花、マングローブ樹皮、蠟、豆類、マコヂヨヂヨ、象牙、玉蜀黍、毛皮、皮革、製油用種子及サイザル麻等である。ドイツ向主要輸出品は棉花、護謨、マングローブ樹皮、カヂユーの實、木材、象牙、玉蜀黍、製油用種子及サイザル麻等である。南アフリカ聯邦向輸出品としてはカヂユーの實、豆類、乾果、木材、植物性油、鹽漬魚肉毛皮、皮革及瓦等である。

モザムビイク殖民地の輸出貿易の大部分はモザムビイク州及ケリマネ州に依つて占められ其他の州は僅少である。同殖民地よりの主要輸出品の最近の趨勢を示せば次表の通りである。

品目	一九二六年 數量（噸）	一九二六年 金額「リブラ」	一九二七年 數量（噸）	一九二七年 金額「リブラ」	一九二八年 數量（噸）	一九二八年 金額「リブラ」
砂糖	三、〇一〇	三七、二五五	三、九六二	四三、三五三	三、三七七	三六、三四七
棉花	一、一五四	八一、七五五	九五五	七一、九二三	一、三五四	一〇二、五五七
石炭	三、二五六	—	—	—	二、〇五五	—
護謨	五四	—	—	—	—	五四
マングローブ樹皮	一、六八五	六、五九七	一、六八九	一五、六八九	二四三、三九五	二四
カヂユーの實	一、六三七	—	—	—	四四、〇一九	一八、〇四八
蠟	八七	—	八七	八三	二、三九	二、三二八
豆物	一、五二六	七、三八〇	一、七二五	一三、一〇五	六、四三三	一、六二九
果物	一、七九三	二三、〇八四	四、六四六	五九、八四五	七四、五二九	七四、五二九
海鼠	四七	三、〇三七	五一	三、四〇二	五六	二、二一八
木材	一、二〇五	—	—	—	三四四	三六九
マビラ、メクスウイラ	二八〇	—	—	—	三七	三一九
象牙	二	—	—	—	二	三、二〇九
玉蜀黍	七、九四〇	三六、七二三	八、六九二	三四、八七六	一四、七二六	七三、六八一
植物油	二八三	—	—	—	三六五	二一、三〇七
毛皮、獸皮	二三	—	—	—	二六一	二三、八三四
鹽	一、一七〇	—	—	—	一、九二五	二、一四二
製油用種子	八、一〇二九	一、〇八六、四一〇	六二、二八四	一、〇八六、四一〇	六一、一一一	一、〇一七、二五五
サイザル麻	二、九四五二	二八、六六六	三、六五一	二八、六六六	五、三七	五五、八五七

煙草　一五五　一四、七八一　三〇　六、八四四

「備考」但右金額欄の内「リブラ」及「コント」に分れて居る部分は、兩者の合計が其全額となることに注意、一「リブラ」は英貨一磅、一「コント」は佛百圓。

主要稅關區域別に輸出商品名及數量を示せば次の通りである。一九二八年(單位噸)

品目	ロレンソ・マルケス	イナンバネ	ケリマネ	テーテ	モザムビイク
砂糖	八、三〇一	三一	二七、八〇八	—	—
棉花	三一〇	—	一三〇	六	九七
落花生	一、八四五	二、一三	六八一	二九五	二九、三〇七
米	—	—	三五	—	—
茶	—	—	—	—	—
チャンフータコ	三五一	—	—	—	—
コプラ	一五五	—	一八、〇五三	—	一二一
穀粉	三一	六二九	四八	—	—
バナナ、橙	三、三五五	—	—	—	—
豆	一八九	—	一三九	—	三五九
胡麻	五	—	八八	二四	一、一五九
マフーラ	三、〇二九	—	—	—	—
マングローブ	—	—	二、一二六	—	三、三二八
玉蜀黍	—	—	四三	—	一四、六三一
落花生油	二〇七	—	—	—	—
コプラ油	一五	—	—	—	—
胡麻油	三	—	—	—	—
マフーラ油	三八	—	—	—	—
ヒマシ油	一五	—	—	—	—
サイザル麻	—	—	二四	—	—
煙草	六六	—	—	—	—

一九二八年の各關稅區域別の輸出入金額を示せば次の通りである。(單位金「コント」)

區域別	輸入額	輸出額	輸出超過	輸入超過
ロレンソ・マルケス	八、四〇七	四、六四四	—	三、七六三
イナンバネ	三八六	二九五	—	九一
ケリマネ	二、一三三	三、四三一	一、二九八	—
テーテ	三五〇	二四四	—	一〇八
モザムビイク	二、〇五〇	三、三八三	一、三三三	—
合計	一三、三〇六	一一、八七五	一、四二一	四、〇六一

第三節　對本邦貿易

本邦の對モザムビイク殖民地輸出額は逐年增加の傾向を示し將來大に有望である。同殖民地に對する輸出貿易で最上位を占めるものは英國及其屬領地(即ちカナダ、オーストラリアを含む)で、一九二九年度の輸出額六、三二〇、三二一金貨「エスクード」に達し、次位は本國ポルトガルで四、〇〇六、八九九金貨「エスクード」に達して居る。本邦の輸出額は一九二九年には前年の二〇二、七五二金貨「エスクード」より三二九、二七七金貨「エスクード」に增加して居る。輸出品中主なものは木綿類、絹及人絹交織物、燐寸、米、竹細工品、陶磁器、金屬製品、卸類、玩具類、履物、莚類等である。

同地よりの輸入額は頗る僅少で、鑛物類一四〇金貨「エスクード」に過ぎない有樣である。

對モザムビイク殖民地本邦最近の輸出入額を同殖民地の總輸出入額に比較して擧げれば次表の通りである。

對モザムビイク殖民地本邦最近の輸出入額　(單位金貨「エスクード」)

年次	本邦輸出額	總輸入額
一九二六年	二三七、三〇五	八、一〇八、三七二
一九二七年	一九五、六〇一	二、一八五、一八二
一九二八年	二〇二、七三二	二、三〇八、二〇〇
一九二九年	三九五、二七七	二〇、八一〇、五九六

（但し金貨「エスクード」は英貨一磅を四、五で割つたもの即ち我約二圓餘に當る）

次に本邦主要輸出品名、數量及金額を示す。

一九二九年度　本邦輸出品名、數量及金額

品目	數量（特に示す以外は總てトン、キロ）本邦	數量（特に示す以外は總てトン、キロ）殖民地全體の輸入數量（本邦を含む）
木綿類	一八七、六三九	二、二三四、二三六
絹及人絹類	五、六七九	一八、六七八
交織物	四二、一三〇	—
毛織物	五三六	三五、三六九
亞麻	七四	四四、六一〇
米	五五、〇〇〇	五、六八六、三一四
木材	三、六四七	一四、五五〇、七四六
家具	六三	一二、七三
額緣類	一、〇八八	三、四三
木製品	二五七	二五九、〇五五
礦油	二三〇	二六、四九三
金屬製品	一、五二五	七八、八三八

品目	金額（金貨、エスクード）本邦	金額（金貨、エスクード）殖民地全體の輸入金額（本邦を含む）
木綿類	一九二、三二五	三、八四八、九四五
絹及人絹類	六〇、〇一〇	一六五、二四一
交織物	二九、七四二	九二〇、九八九
毛織物	七七一	一二九、九五九
亞麻	二三八	七三、六八三
米	四、三一一	四〇八、三六六
木材	三二九	五六、八四三
家具	六五六	五〇、九二六
額緣類	一、一三五	三、一九〇
木製品	一八六	四七、八四二
礦油	三	二、九二四
金屬製品	一、四七五	二五、二一八

品目	數量（特に示す以外は總てトン、キロ）本邦	數量（特に示す以外は總てトン、キロ）殖民地全體の輸入數量（本邦を含む）
鐵製品	一、二五七	一四八、七五六
陶磁器	二一、一四二	二二五、一三二
硝子器	八〇九	九五、八二四
化學製品	四二	一七八、四三九
象牙細工品	六四	一七九
竹細工品	二、九九五	一七、七〇六
藁細工品	二〇五	二三六
紙及紙製品	四四	—
卸類	一七四	三、九一〇
玩具	五四八	三〇、八四三
毛皮、獸皮類	一、二八四	四二、八四三
履物類	二、五四七	一〇九、二〇九
莚類	二、四一七	一六、八五五
セルロイド製品	五〇	一、六二四
雨傘	二九六	一三、八六九
帽子類	三七箇	四二、九三箇
刷毛類	一九三	八、一二三
鏡類	二、五七六	一七、九九八
美術品	三三〇	一、四五四
燐寸	二四、九二七	九〇、六一四
文房具類	一〇八	二五、三二五
香料品	三五一	四八、五八五
其他	—	—
合計	—	—

品目	金額（金貨、エスクード）本邦	金額（金貨、エスクード）殖民地全體の輸入金額（本邦を含む）
鐵製品	五二、〇八九	五二、〇八九
陶磁器	七、九九五	四五、〇七四
硝子器	二一〇	四九、四一九
化學製品	二四三	四八、六〇七
象牙細工品	三二三	九六五
竹細工品	九九五	七、八三五
藁細工品	一三二	一八二
紙及紙製品	三三三	三一四、三三八
卸類	六六二	八、一四四
玩具	八三四	三三、三三一
毛皮、獸皮類	一、〇〇〇	五四、八三六
履物類	一、三三七	三〇、〇六七
莚類	五、八六四	八、一五六
セルロイド製品	二〇五	五、六〇二
雨傘	一八三	二、八一八
帽子類	二〇五	五五、〇〇七
刷毛類	二〇三	八、六〇三
鏡類	九五七	九、六七三
美術品	七二六	三、四八六
燐寸	八、六七六	三三、七三〇
文房具類	一〇七	三一、九四八
香料品	一一	四五、六六八
其他	六、〇〇二	一三、二八三、八六二
合計	三九、二七七	二〇、八一〇、五九六

第四節　ロレンソ・マルケス港出入船舶

○一九二八年ロレンソ・マルケス港出入船舶

▲入港

船舶國籍	隻數	總噸數	陸揚貨物噸數	船員數	下船客數
英國	四三八	二、三〇二、七三六	二九六、四四一	三九、八〇六	三、九四八
獨逸	四九	三六七、三四一	二七、四〇三	六、一七六	五九二
葡萄牙	一六七	三二七、三六一	三〇、六九八	九、八八六	三九、三六七
和蘭	四五	二六四、五三三	二四、五一三	二、六七四	一一〇
日本	三三	一九三、二六一	二一、四二四	三、〇〇八	三八八
米國	一八	一〇一、二一八	七、〇一六	八五四	三七
伊太利	一六	九四、四九八	二、〇八六	九四三	三七
諸威	一四	六二、三一九	一九、三九三	四八三	三
瑞典	一二	四八、七二	一四、〇〇〇	三九九	—
丁抹	九	三〇、一六一	四、四〇九	二四二	—
芬蘭	一	五、二三三	五三〇	四〇	—
計	八〇二	三、七九七、二〇三	四三八、九一八	六四四、〇一二	三四、三六六

▲出港

船舶國籍	隻數	總噸數	積載貨物噸數	船員數	乘船客數
英國	四三七	二、三九五、〇三〇	四七、八三三	三九、〇六八	二、七〇八
獨逸	四九	三六七、三四一	三一、二五六	六、一六	九九
葡萄牙	一七〇	三九、九二九	六九、二五四	九、五四一	二七、三三五
和蘭	四五	二六四、五三三	一八、三一九	二、六七四	七
日本	三三	一九三、二六一	一、八四九	三、〇〇八	五五
米國	一八	一〇一、二一八	一七、六四四	八五四	三
伊太利	一六	九四、四九八	七、〇九九	九四三	三七
諸威	一四	六二、三一九	七、一三八	四八三	三
瑞典	一二	四八、七二	一四、三〇〇	三九九	—
丁抹	九	三〇、一六一	三〇、六七八	二四二	—
芬蘭	一	五、二三三	—	四〇	—
計	八〇二	三、八八六、一九三	六〇六、七〇〇	六二、四六八	二一、三九八

（註　日本船舶の隻數及噸數に比し、貨物積卸噸數が甚だ少いことは注目に値する）

第六章　關稅

直轄領と會社領とは各獨立した關稅制度に依つて居る。

直轄五州の現行關稅率は一九二二年に制定されたもので其大綱は左の通りである。

輸入稅　輸入稅は從價一分から五割二分迄あり、之を基礎として更に特定品に對して從量稅を賦課し、或特定品は無稅である。但し品種に依つては自國品と外國品とを區別し又輸入の州に從つて稅率が相違する。

綿布の輸入稅は左の通り

未晒及晒布	自國品一割	外國品一「キロ」に付四〇「エスクード」	
更紗及染綿布	同	同	

輸出稅　輸出稅は從價一割乃至二割とし、之を從量稅で補足し或特定品は無稅である。又品種に依つては仕向港の內外國に依つて異つて居る。

通過稅　トランスヴアル、東阿間は通過貨物は暫定條約に依つて相互に無稅である。

課稅金は總て其納付時の相場に依り金貨で徵收する。

第七章　モザムビイクの道路狀況

モザムビイク葡領東アフリカは今日尙頗る未開國で、其資源及奥地は實際上殆ど開發されてないけれども、道路竝自動車の運輸は急速な發達を遂げ、以て同國の活動の最も近代的な方面を代表して居る。數年前迄は自動車に依る運輸はロレンソ・マルケスの小區域及トランスヴアルのヨハネスブルグに至る主要道路とを除いては全く知られて居なかつた。而して貧弱な道路の狀態と發達に要する資金の缺乏の結果、此地域は道路が最も重要々素であるにも拘らず、交通網を得る事に於ては遙に南阿聯邦竝其他の英國領に立遲れて了つた。然し政府の道路開發政策はアメリカ製造家に依る熱心な自動車賣込と相俟つて、自動車運輸の便を急速に發達せしめて居る。

現在の道路と其哩程竝狀態　歐洲大戰後に斯樣に廣大な地方の自動車道路を開拓することは難事中の難事の樣に考へられたと云ふのは、モザムビイク殖民地は一、五〇〇哩の海岸線を有し、面積は三〇〇、〇〇〇平方哩以上もあつて、殆ど北米合衆國のテキサス及メーンの兩州と等しい大さがあるからである。

以前には輸送は全部土人に依つてなされたが、彼等は生産物や白人達を一見通行不可能と思はれる樣な叢林を通つて輸送して居た。而し漸次に管理者達は充分な勞力の供給を得て道路を切開いた結果、今日では其延長は左記の樣に各地方に敷設されたのを合せて約　五、八〇九哩に達した。卽ちモザムビイク三、一二五哩、ケリマネ七五〇哩、ロレンソ・マルケス竝イナンバネ一、〇〇〇哩、モザムビイク會社領七八四哩、ニアサ會社領一五〇哩である。

是等の道路は總て十二月から四月に至る期間の或一定の雨期を除いては、一年を通じて通行することが出來るが、右の內モザムビイク地方の道路は最も宜く發達して居る。同地方は天然に土地の表面が砂利である爲に、道路建設費が非常に安くて濟むのである。南部地方の道路は非常に發達して居て、總ての主要都市は事實上容易に自動車に依つて連絡し得るのである。ケリマネ地方には道路は少い。夫は其地方の海岸線が低い爲に、一年中の大部分が沼地の樣に濕潤だからで、同樣のことがモザムビイク會社領の大部分に就ても云ひ得る。濕地であること、十二月から四月に至る間の豪雨の爲に或地方では道路の築造は殆ど不可能である。此樣な狀態であるからベイラ自體でさへ、其奥地及周圍の地方との自動車に依る交通は遮斷されて居る。

一定した道路計畫の採用―提議された經費　南阿聯邦とモザムビイクの州管理地方間の新しい協定の結果、非常に確定的な築造計畫が現政府に依て採用された。今迄は殖民地の奥地の開發に就ては殆ど手が下されなかつたが、現在では政府は完全した交通網を作る爲に、道路の建設竝鐵道の敷設に極力意を注いで居る。此交通網に依つて內地開拓の成功の可能性が充分にある。

土木省は一九二九年度の道路維持竝建設費として　三四五、〇〇〇弗を支出した。右に對する政府の計畫は北部から南部に通ずる主要道路竝モザムビイクの北部地方と、ケリマネの南部地方を循環する交通系統の完成を期するにある。此交通系統の中心地はベイラに近いブヅイ河畔のグルヂヤである。ポルトガル人は非常に道路築造には優れて居るけれども、土人勞働者は殆ど全く機械を使用することをしない。夫故主要道路築造に對してアメリカ人が割込むことの出來るのは、僅にアスファルト及他の舖裝道路の建設等に制限されて居る。

道路舖裝　現在舖裝道路はロレンソ・マルケス市を除いては見ることが出來ない。目下同市の近郊をもアスファルトを以て舖裝する計畫があるが、現在の道路を修理して行く丈でも每年巨額の維持費が必要である。

イナンバネ市では同地方で唯一の大規模の道路改良が企圖されて居るが、之に對して既存の道路を舖裝するに要する四九、七七五弗の公債と、其外新道路の築造竝舖裝に要する五二、九六〇弗の公債を起す計畫がある。

最も重要な貨物の運輸　旅客運輸に對する交通に關しては非常に多くの關心が持たれたが、モザムビイクで主要道路の最も重要な役目は、生産品と勞働に對する運輸に關するものである。

數多の鐵道線と農業地帶に入込む爲に、奥地に通ずる主要道路の支路との連絡は優良道路の增加と相俟つて、遠からず主要道路に自動車の走行時代が出現するであろう。

第八章　モザムビイクのサイザル麻栽培業——一九二八年

サイザル麻は龍舌蘭より採集する强靱な繊維で、紐又は綱の製造に用ひられ、最近ではアンペラ其他の布の製造原料ともなつた。海水に對する抵抗力がないから船舶用には不向であるが、夫れ以外には用途が廣い。

龍舌蘭は主として不毛の如く見える熱帶地方に生産し、石灰質の乾燥地に最も適するが、石灰質でない又濕氣の多い土地でも生産可能で、要するに熱帶ならば如何なる土地でも産出可能である。

龍舌蘭の生命は普通七年乃至十二年で、石灰質に富み岩石多き土地、例へばメキシコのユカタン半島の如き處では十五年以上の生命を保つものも尠くない。

龍舌蘭は植付後四五年位で採集を始め、採集可能期間は約四箇年間位である。

龍舌蘭一本よりは前後を通じて其葉總計百五十葉乃至二百葉の採集をなし得る。植付後六年位に最も優良な葉を出し、長さ一米半乃至二米、根元の巾十五「センチメートル」乃至二十「センチメートル」其重量六百「グラム」より一「キログラム」位に達する。繊維は葉の重量の四%前後で、採集最初の年の收穫は一「ヘクタール」に付二百五十乃至三百「キログラム」で、其後一箇年八百「キログラム」以上に達するのは難事でない。

龍舌蘭より繊維を採集した後の柔軟質の葉肉は全體の九十%以上を占め、腐敗し易く、目下の處肥料として用ふるか又は放棄するけれども、設備をすれば繊維採集後直に醱酵させてアルコールの製造原料となすことを得る。

メキシコでは土人は此葉肉を醱酵させて、プルカと稱する燒酎の一種の飲料を製造して居る。目下佛蘭西では此葉肉を利用して自動車モートル用アルコール製造の研究中で、既に葉肉の重量の三乃至六%の純アルコールを得ることに成功した由である。普通アルコールの價格の七十五%は原料費であるから、龍舌蘭の葉より繊維を除いた後の廢物の葉肉を利用してアルコールの製造をすれば、其利益は蓋し尠くない。

主な産地及消費國—サイザル麻の主な産地はメキシコで、現在年額十五萬噸の産出があり、其大部分は北米で消費される。最近三十年間にサイザル麻の生産が世界各地で行はれる樣になり、北米はハワイ、キューバ及中米諸國に、英國はトリニダード、ジヤマイカ及バアマ島嶼に、和蘭はジヤバ、スマトラに、獨逸は東部阿弗利加に資本を投下してサイザル麻園の經營をして居る。

埃及、印度、アルジエリー、佛領スーダン及葡萄牙領東部阿弗利加モザムビイク殖民地等でも相當大規模の栽培が行はれて居る。

北米はメキシコ産のサイザル麻の大部分及ハワイ並キューバ産のものを殆ど全部消費し、其額二十萬噸近くである。歐洲の消費額は目下合計五萬噸內外に過ぎないが、サイザル麻の用途は益々增加の勢力であるから、今後同麻園の前途は益々有望である。

サイザル麻の價格は近年變動が尠なかつたが、大体百「キログラム」平均、英貨三磅十志乃至四磅である。

モザムビイク殖民地の栽培狀況　東阿弗利加葡萄牙領モザムビイク殖民地中には至る處にサイザル麻の栽培好適地がある。ロレンソ・マルケス縣及イナンバネ縣では土人が南阿聯邦ランド鑛區地方に多數出稼し、又縣內砂糖及綿花の栽培が廣く行はれる爲め勞銀が不廉で、麻園の經營上困難が多いが、其他の地方で目下盛んに栽培しつゝある。

モザムビイク州の北部ニアサランド地方の最大麻園で、英國資本で經營されて居る Mocambique-Sisal-Development Syndicate は二萬七千「ヘクタール」のコンセツションを有つて居る。但し目下の植付面積は僅に一千四百「ヘクタール」であるが、本一九二八年は二千「ヘクタール」の植付をなし、其收穫豫想一千五百噸、明一九二九年中には三千噸前後の收穫豫想で、近い將來には一萬八千町歩の植付を終り年産額一萬噸乃至一萬二千噸の平均收穫となす計畫だと云ふことである。

ボルト・アメリアには獨逸人の資本で獨逸人の經營になる麻園が三箇所ある。目下事業大擴張中の由で、現在の植付面積は左の通りである。

Maugride e Vala-Val de Sisal A.G. Shauffhausen 六百「ヘクタール」
Rufifia-Société de Plantation Montepuezi 二百五十「ヘクタール」
Companhia Colonial Naugaro 三百「ヘクタール」

モザムビイク縣で麻園の最大なものは Companhia Colonial de Angola で、百萬「ヘクタール」のコンセツションを有つて居る。

現在ではドボア、ムバリオ、ムバゴ、ナテイリ、サオツラ等の麻園で、約六千二百「ヘクタール」を植付て居る。栽培業の總監督は瑞西人で、各麻園の主任技師は皆獨逸人である。一九二九年の産額は約六千噸の見込である。

アンゴチエ附近のナメタジアには葡萄牙人と土人との共同經營の麻園があつて、約一千「ヘクタール」の植付面積を有つて居る。

マメバ附近のジアン・フエレイラ・ドス・サントスも亦一千「ヘクタール」の植付面積を有つて居る。

ケリマネ縣ではザンベヂア會社所有の麻園があり、植付面積三千「ヘクタール」、年産額一千二百噸で、機械は獨逸製で技師も獨逸人である。

同會社はテーテ縣で一千「ヘクタール」の植付面積を有する。同地の技師も獨逸人である。

ボロール會社はマキユーゼ及マルセリナに廣大なコンセツションを有つて居る。

ケリマネ縣に於ける一九二五年の植付面積は、六千二百五十「ヘクタール」、産額三千四十四噸である。

サンベリ及チユパンガ附近で Mocambique Industrial and Commercial Company は相當廣大な麻園を有し、一九二六年の產額は一千六十三噸であつた。

モザムビイク殖民地の政府直轄領なるモザムビイク、ケリマネ、テーテ、イナンバネ諸縣より自一九二二年至一九二七年の六箇年間に輸出したサイザル麻の噸數及價格は（單位英貨磅）左の通りである。

年次	噸數	價格
一九二二年	二、七七七	七七、〇三五
一九二三年	二、二〇六	六九、五二一
一九二四年	二、八五〇	九三、三三三
一九二五年	二、九九九	一二五、八三八
一九二六年	二、九四九	一〇四、八九二
一九二七年	三、六三一	一二八、六六六

一九二七年のサイザル麻の輸出國別統計は左の通りである。

國名	數量（單位キログラム）	價格（單位金貨エスクード）
佛蘭西	九五五、五六三	一四〇、五六〇
白耳義	九三四、一五〇	二三五、五七三
獨逸	八六六、一五〇	一九八、〇一〇
「備考」英貨一磅は四、五金貨「エスクード」の割		
葡萄牙	四八五、五四六	七五、四九五
英吉利	三二、〇三〇	四四、九七七
和蘭	七九、五〇〇	九、三八五
合計	三、六三一、九二六	五三三、九五〇

尙モザムビイク殖民地にはモザムビイク殖民會社に特許された委任統治地域がある。同地域よりは會社經營の稅關を通じて、ベイラ港より一九二五年中に對英二百六十一噸、對北米二千五百六十噸の輸出があつた。又政府の稅關を通じて一九

二六年中には對獨三百五十四噸、對北米二百五十七噸、對白耳義六百四十七噸、對英三百七十九噸、對佛九百五十九噸の輸出があつた。

之を要するにモザムビイク殖民地のサイザル麻の栽培は目下創業時代で、纖維の採集の如きも機械によらない處が多く其産額も亦多くないが、同地はサイザル麻の栽培に最も適當な諸條件を具備し、其經營等も主として右事業に熟練した獨逸人技師指導の下に科學的に行はれて居るから、サイザル麻の産地として重要視されることも遠くはないと思はれる。

五　伊領ソマリーランド

第一章　概況

面積約一九〇、〇〇〇平方哩、人口土人約九〇〇、〇〇〇、イタリー人一、五〇〇の伊領ソマリーランド殖民地は、アフリカの東海岸に沿て北は英領ソマリーランドから南はケニヤ殖民地のディクス・ヘツドまで延びて居る。一九二九年度に於ける鐵道の總延長は七一哩で、國内に二九の無線電信局を有し、アフゴイにある電信局は本國イタリーと直接通信して居る。主要郵便局は、モガデイシイヲ、メルカ、ブラヴア、キスマユ、バイドア及マハツデイの六箇所にあり、此外地方郵便局は二十四箇所にある。同殖民地の通貨はイタリーの「リラ」で、銀貨及紙幣はバンカ・デイタリアが發行して居る。

第二章　農業

前述の面積及人口を有する伊領ソマリーランドに於ては工業も相當有望であるが、農業が最も有望である。河川が多く從つて灌漑面積も廣大で、土地は肥沃で森林は極めて少い。特にベナデイール地方には平野が多い。土人栽培物の中最も重要なものは棉花で、國内の需要を滿して尚輸出する程の産額がある。此外デウラ(粟の一種)、パパイア、バナナ、玉蜀黍、胡麻、大豆を栽培して居るが、以上の土人栽培物は主としてジユバ河の沿岸に産出され、デフエ、バイド、イタラ附近の農村にも盛んである。

然し同地で最も有望な栽培物は熱帶性作物即ち棉花、甘蔗、カポツク、胡麻、煙草等であるが、十分な資本と經驗ある技術を以て同地に栽培事業を經營する時は、將來必ず利益を收め得ると考へられる。特に温帶地とは事情を異にする關係から、灌漑に注意する事が必要である。

ウエビ・シエビリ又ジユバ河沿岸にはイタリー人の殖民に適した土地が多いから、早くよりイタリー貴族等が大規模に開拓を開始し、今日では設備の完全な模範的な農村が多い。同地方には一日六「キンタル」の製造能力を有する棉實油工場がある外砂糖工場の大きなものもあり、又政府の補助の下に良好な成績をあげて居る農事試驗場がある。此地方にある土地コンセツシヨン下附數は八三、何れも面積一〇〇乃至六〇〇「ヘクタール」のもので、前記の様な農作物の栽培を行つて居る。此等のコンセツシヨンは運河に依り灌漑され、勞銀の安い土人を使用して利益を得て居る。

コンセツシヨン地で栽培された農作物の加工場の中心地はヴイツトリヲダフリカである。

以上で農業の大体を述べたが、結局伊領ソマリーランドの農業の將來は灌漑事業に左右されるが、今日でも既にウエビ・シエビリ河の沿岸には二十萬「ヘクタール」の土地に灌漑事業が施されてある。ジユバ河の沿岸にも之以上に廣い面積が在るが、灌漑に要する資金が不足して居る。

第三章　工業　其他

工業の發達は未だ不十分である。

鑛業も未だ不十分で、如何なる埋藏物があるかも不明である上、試掘すら行はれて居ない。然し利用鑛物のある事は或地方では判明して居る。

鹽　北部の海岸には鹽の產出が多く、一大製鹽工場があり、天惠と近代式の設備と相俟つて年額三〇萬噸を製造してをる。

漁業　北部特にネグロ灣に盛んで、土人の手に依り原始的な方法を以て相當の利益をあげて居る。新しい捕獲技術と加工法の應用に依つては將來盛んとなるものと思はれる。肝油、漁油も產出される外眞珠貝の養殖が奬勵されて居る。

第四章　外國貿易

農業の盛んとなるに伴ひ商業も年々隆盛となる傾向があるが、特に注意す可きは曾てはアデン及インド洋を通じて貿易が行はれたものが、今日では本國イタリーと直接取引が行はれる樣になつた事である。一九二四年乃至二八年度の輸出入貿易額を示すと左の通りである。

年次	輸入額(百萬リラ)	輸出額(百萬リラ)	
一九二四年	五九・四	一六・七	一九二六年
一九二五年	七五・七	二八・五	一九二七年
一九二六年	一二九・四	二九・〇	一九二八年
一九二七年	一五六・二	二五・三	一九二八年
一九二八年	一三四・〇	四二・〇	一九二八年

第一節　輸入

一九二八年度の輸入商品中五〇萬「リラ」以上のものを示すと珈琲(四〇〇萬リラ)、茶(三八〇萬リラ)、砂糖(一、四一〇萬リラ)、香料(一三〇萬リラ)、粟(二四〇萬リラ)、玉蜀黍(五三〇萬リラ)、米(一、二〇〇萬リラ)、穀物粉(五〇〇萬リラ)、麥粉(五〇萬リラ)、椰子實(一九〇萬リラ)、果實及野菜(六〇萬リラ)、葡萄酒(一一〇萬リラ)、煙草(三〇〇萬リラ)、胡麻實(四四〇萬リラ)、胡麻油(八〇萬リラ)、木綿絲(一八〇萬リラ)、綿織物(三、一八〇萬リラ)、絹織物(一五〇萬リラ)、鐵(二〇〇萬リラ)、機械類(二七〇萬リラ)、其他金屬製品(五〇萬リラ)、木材(一二〇萬リラ)、石油(一六〇萬リラ)、ベンヂン(三七〇萬リラ)、石鹼(一二〇萬リラ)、藥品(一〇〇萬リラ)である。

第二節　輸出

一九二八年度輸出貿易品中輸出額五〇萬「リラ」以上のものを示すと、木材、樹根、香料用樹皮(二五〇萬リラ)、棉花(九三〇萬リラ)、牛皮(五八〇萬リラ)、馬皮、羊皮(六一〇萬リラ)、デイグ・デイグ皮(五一〇萬リラ)、豹皮(二五〇萬リラ)、乾鹽漬魚(八〇萬リラ)、筵類(六〇萬リラ)、鹽(八〇萬リラ)である。此外輸出品中特記す可きものは、琥珀、護謨、カポツク、鞣皮、棉實、犀、地方的織物、皮製品、ラクダ油、牛、馬、羊及大豆等がある。

最後に一言する事は海路よりの輸出入貿易以外に、陸路隊商の手に依つて行はれた貿易額は一九二八年度に於て約四百萬「リラ」に達して居る。

尙同地には商工會議所と稱す可きものが無い。イタリー政府は最近商業登記事務所を設け輸出入貿易商、農工業者の便を計る事にした。

第三節　諸統計表

伊領ソマリーランド國別輸出入額表　(單位リラ)

輸入				
積出國	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
イタリー	一四、三七九、四二五	一六、七四二、二八二	三六、六八五、五一六	四〇、一三七、五六二	二九、三三八、三一九
アデン	二九、九九三、八七八	三九、九九三、三一四	三七、九二五、六六二	五九、四〇四、一二四	三八、七八一、四九六

ケニヤ	五、〇四六、六六九	九、三〇一、二七	
ザンヂバル	三、〇三四、四二五	三、九八七、七七九	
其他	六、九五〇、一〇七	五、六九六、五九九	
合計	五九、四〇四、四九四	七五、七二三、一九二	

輸出

仕向國	一九二四年	一九二五年
イタリー	五、一二五、〇八二	一六、三二三、四八二
アデン	七、四四六、七一四七	五、一八二、一三九
ケニヤ	二、六五三、六四〇	一、七九二、七三四
ザンヂバル	三、五二六、八六七	三、八四二、七六三
其他	三、〇二六、九四四	一、三八八、三一〇
合計	二六、七八〇、三三〇	二八、五二九、三三八

伊領ソマリーランド商品別輸出入額表（單位リラ）

輸入

品名	一九二四年	一九二五年
家畜、食料品、煙草	一四、六七二、〇五五	三〇、三二五、四三九
種子、採油用果實、製植物油	二七八、九九七	一、九二二、九六六
織物原料同加工品	二六、一四二、一〇〇	二六、二四八、一五七
金屬類、同加工品、機械、器具、車輛	一、〇〇一、五〇四	一、九二六、一四九
石材、土、非金屬礦物、陶磁器、ガラス	三三、五一三	七三、八八〇
木材、木製品、麥稈眞田	七五三、一八〇	一、九二二、一二五
其他	四、三六四、九〇一	六、六七九、三五〇

品名	一九二六年	一九二七年	一九二八年
家畜、食料品、煙草	三三、五九六、二六四	五四、三二〇、二五五	五八、八六六、六三〇
種子、採油用果實、製植物油	二、三六二、四一七	三、九九八、一六七	七、五四四、九七七
織物原料同加工品	四一、二五八、九八一	五六、五九三、五〇〇	三五、九〇九、九七〇
金屬類、同加工品、機械、器具、車輛	四、九七〇、八七二	六、一四九、九九一	六、二七二、六四八
石材、土、非金屬礦物、陶磁器、ガラス	一、五四八、七五二	二、四五一、六〇五	一、八一九、五四五
木材、木製品、麥稈眞田	一、四八八、九〇八	二、六八三、五五六	一、二八、〇四六
其他	九、一五四、〇九九	一三、一四三、一五〇	二、八七七、一〇三

品名	一九二八年
家畜、食料品、煙草	二六、一八三、八二六
種子、採油用果實、製植物油	一〇、九六六、七四一
織物原料同加工品	二九、〇五八、一〇六
金屬類、同加工品、機械、器具、車輛	一三四、一五三、一四八九
石材、土、非金屬礦物、陶磁器、ガラス	
木材、木製品、麥稈眞田	
其他	

免稅品

合計	二、八七二、一四四	七、二四四、一〇五

輸出

品目	一九二四年	一九二五年
工業用原料、半製品	三、八五八、〇四〇	三三、八五九、三八二
加工品	二、六四四、四〇五	一、五六二、九七三
食料品家畜	一、二七七、七八五	三、一九〇、九八三
合計	一六、七八〇、二三〇	二八、五二九、三三八

伊領ソマリーランド船舶移動表

入港船舶

年次	船舶數	總登簿噸數	積卸貨物噸數	下船乘客數
一九二四年	四八六	二四二、三四四	一六、七〇八	三、〇三六
一九二五〃	三七三	二三〇、八四六	二三、二一七	六、七二五
一九二六年	三七五	二三〇、九九二	二三、一四九	六、八四二
一九二七〃	四一二	二五六、二四六、六七三	二三、一四九	六、八四二
一九二八〃	四五二	二七九、四四二、八五二	二三、一四九	六、八四二

出港船舶

年次	船舶數	總登簿噸數	積込貨物噸數	上船乘客數
一九二四年	四七八	二四二、一八三	三、七一四	二、五七七
一九二五〃	三七三	二三〇、八九一	三、三五九	四、三五九
一九二六年	三七六	二三〇、九九二	二三、一四九	六、八四二
一九二七〃	四一二	二五六、二四六、六七三	二三、一四九	六、八四二
一九二八〃	四五二	二七九、四四二、八五二	二三、一四九	六、八四二

伊領ソマリーランド國籍別船舶移動表

一九二六年

一九二六年	五七二	四四三、六八四	一〇、四四七	七、四六三
一九二七〃	九七八	八四〇、六五五	八、二四八	二三、三八八
一九二八〃	一、〇三五	八六〇、九四七	一〇、五四三	八、七八九

國名	入港 船舶數	總登簿噸數	積卸貨物噸數	下船客數	出港 船舶數	總登簿噸數	積込貨物噸數	上船客數
一九二七年								
イタリー	三〇六	四二、九二五	二三、〇二三	六、三六八	三〇五	四二、九二八	八、九五六	六、四二〇
イギリス	九六	一七、六九六	二、七八	七五六	九五	一七、六八一	八二	六八二
フランス	二	二五五	一	二九	二	二五五	一	四
アラビア	一七〇	一〇、一七二	一、七二六	四七一	一六八	一〇、〇〇〇	六七九	三七七
其他	二	二、九一〇	—	—	二	二、九一〇	—	—
一九二八年								
イタリー	三〇四	四二、七三六	八、八二七	六、八二〇	三〇二	四二、七三五	九、四八〇	七、六八二
イギリス	九六	一七、六八一	八二	六八二	九五	一七、六八一	八二	六八二
フランス	二	二五五	一	四	二	二五五	一	四
アラビア	一六八	一〇、〇〇〇	六七九	三七七	一六八	一〇、〇〇〇	六七九	三七七
其他	二	二、九一〇	—	—	二	二、九一〇	—	—
一九二九年								
イタリー	三〇四	四二、七三六	八、八二七	六、八二〇	三〇二	四二、七三五	九、四八〇	七、六八二
イギリス	九六	一七、六八一	八二	六八二	九五	一七、六八一	八二	六八二
フランス	二	二五五	一	四	二	二五五	一	四
アラビア	一六八	一〇、〇〇〇	六七九	三七七	一六八	一〇、〇〇〇	六七九	三七七
其他	二	二、九一〇	—	—	二	二、九一〇	—	—

第五章　本邦輸出補償制度とソマリーランド取引事情

ソマリーランドの爲替手形制度

ソマリーランドに於ける爲替手形印紙制度は、一九二四年十月二日附勅令第一六七四號附屬稅表Aの第七を以て次の如く定められた。爲替手形其他の流通證券或は商業證券、期限付支拂の引受勘定書。(イ)支拂期日六箇月以上或は無期限のものに對しては、金額百利又は其端額に付定額稅十仙及百利每に割合稅十仙。(ロ)支拂期日六箇月以上或は無期限のものに對しては、金額百利又は其端額に對し定額稅十仙及百利に付割合稅二十仙。外國より來る爲替の手形及證券にありては、殖民地で之を使用する以前に本稅を支拂ふべきものとす。本稅及課せらるゝことあるべき罰金に就ては手形の振出人、引受人、裏書人、所持人及受托者保證人、受取證發行者及收金人等も總て通例責任を負ふものとす。

爲替手形拒絕證書に對する裁判手數料は、一九二六年九月四日附總督令第五二五四號を以て承認せられたる手數料表に依り次の如くこれを定む。

又拒絕證書一通に付金額千利迄	十利	千利以上五千利迄	十五利
		五千利以上	三十利

前記手數料の外司法官は文書作成費として一頁に付一利及裁判所々在地外職務執行上の出張費を當事者に請求す。

訴訟の場合裁判調書（訴訟、呼出狀、各種調書、宣告、命令其他）は殖民地々方理事官（Residente）の裁判權に關するものにありては、調書一枚に付定額手數料二利四十仙を、又殖民地裁判所に關するものにありては一枚に付四利を徵收す。

金額若くは物件引渡上の事項を定むる決定判決又は一切の訴訟に關する決定判決に對しては、地方理事官の取扱ふ場合には定額手數料として二十四利及割合手數料として百利に付一利五十仙を、又殖民地裁判所の場合には前者八十利及後者一利五十仙を徵收す。

此等の諸規定は一九二四年十月二日附勅令第一六七四號附屬A表の稅番第十二及第十五を以て之を定む。

尙ソマリーランド市場を支拂地とする爲替手形の收金手續は左の通りである。（同殖民地總督よりの照會に對する伊太利銀行地方支店の回答に依る）。

(一)伊太利銀行(モガディショ(Mogadiscio)及キジマイオ(Chisimaio)の諸支店)は、荷爲替手形接手次第債務者に通知して、同手形の引受及收金を取扱ふのである。(二)支拂拒絶の場合拒絶證書の作成は商法第二九六條に據り支拂期日後二日(祭日を除く)以内に爲すことが必要である。(三)滿期に至るも未引受なるか又は未拂の證券は適時之を司法官に送致し、而して當該司法官は前記期限内に拒絶證書を作製するのである。尙右に對する所要手數料は金額千利迄の證券に對しては十二利八十仙、千利以上五千利迄の證券に對しては十九利、及五千利以上の證券に對しては三十六利である。(四)取引値段がC・I・F建である場合を除き、商品の運賃支拂及倉入保險等は總て輸入者方で之を爲し、伊太利銀行は何等前顯の事務を行ふことがない。(五)關係者の引取らない商品の處分は、一般商人が未註文の商品を購求するのであるから尠からざる割引を申出でるのを例とする關係上、且又稅關に停滯する爲、商品が時に損害を蒙ることある關係上多少困難である。從つて是等の理由に依り小麥粉、米等損害の發し易い商品は容易に處分し得ない。(六)本市場宛振出の爲替手形に就ては、他に何等特殊慣習がない。(七)日本諸爲替銀行手形收金を擔當するのは伊太利の振出銀行(前記二支店)のみである。(八)此等爲替手形の金額は通常磅、弗及「ルピー」(殖民地貨幣)を以つて表示する。(九)爲替手形に關する事項は總て商法第十章を以て規定せられ、殖民地に適用實施される。

六　英領ソマリーランド

第一章　概況

英領ソマリーランドの海岸線はゼイラの西ラハヅからバンダル・ジイヤダに至り、總面積約六八、〇〇〇平方哩、人口約三四四、七〇〇人、此大部分は回敎徒で何れも定住地を有たず、所謂遊牧の民であるが、海岸には相當大きな都市も發達して居る。

歐洲人及インド人を除いては人口調査が行はれた事が無いが、主要都市の推定人口を示すと左の通りである。

ベルベラ、一五、〇〇〇乃至三〇、〇〇〇人、ハーゲイサ、二〇、〇〇〇人、ブラオ、一〇、〇〇〇人、ゼイラ、五、〇〇〇人、

一九二八年度の歲入は一五七、四八七磅(一ルピーを一志六片として換算)で、此中關稅收入は一二一、八七五磅である。歲出は二四、五〇〇磅であつた。

第二章　産業

第一節　農業

一九二九年度には若干の土人栽培業者は玉蜀黍及大麥を栽培して好成績を擧げた。ハーゲイサには果樹園及種苗栽培所があり、何れも各種輸入果樹を試植して好成績を擧げて居る。

落花生其他各種豆類、馬鈴薯及飼料が栽培されたが、蝗蟲の爲に甚だしい害を蒙つた。

第二節　鑛業

金及プラチナが埋藏されて居る痕跡が見出され、分析の結果は良好とは云ひ得ないが、更に一層立派な鑛物を發見せんと努力されるものと思はれる。

ソマリーランド石油會社は石油を發掘する爲凡ゆる努力を拂つて居るが、之に關する報告は未だ公表されて居ない。

エリガボ附近及アンコルの南部には石炭の埋藏があり、ゼイラでは鹽を製造するコンセツションが旣に交付されてある。

第三章　外國貿易

對岸のアデン港に輸入される凡ゆる商品は、同港が元來中繼貿易港であるので原産地より直接輸入されて居り、アデン港自体は貿易を盛んならしむ可き土産物若くは加工品の何れも有つて居ないが、地理上の地位に依りヨーロツパ、アラビア、インド、エチオピア、東アフリカ及ペルシア灣にある各地の貿易上の入口となつて居る。從つてソマリーランドも輸出入兩貿易の中繼地としてのアデン港に全く依存して居る。少量の米及茶を積んだ汽船が直接カルカツタ及ボムベイから又棗椰子を積んだ沿岸貿易用船舶がバスラより運送され、此等商品の輸出地はアデン港年報中に詳細な統計を以て示されて居る。又アデン港はソマリーランド土産物の集合地で、此等商品の中地方的消費に當てられる爲に留置かれる殆ど全部の家畜及ギーを除き夫々目的地に向け積出されるが、其仕向地はアデン港貿易年報中に記載されてある。

一九二八年度の英領ソマリーランドの輸入貿易額は六三五、九〇八磅、輸出貿易額は五六四、四七〇磅で、此中には地金銀及貨幣も含まれて居る。

輸入貿易品の中主なものは米(二〇八、四六二Cwt)、棗椰子(一二一、五九二Cwt)、砂糖(六九、六一二Cwt)、織物類(三、一八七、四九〇碼)で、此織物の中にはアメリカ製未晒粗布、中華民國製未晒粗布、日本製未晒粗布及ヨーロツパ各地よりの晒ロング・クロースが大部分を占めて居る。

輸出貿易品中の主なものは皮革、護謨、樹脂、ギー(牛酪油)、牛、羊及山羊である。

次に一九二九年十月一日より一九三〇年九月三十日に至る間の英領ソマリーランド保護領の港別輸出入額を示すと左の通りである。(貨幣及免稅品を除く)

港名	輸入額(磅)	輸出額(磅)
ベルベラ	二五六、九五一	二三、三五七
ブルハル	八、九六七	五、九六一
ゼイラ	五二、八一九	三三、九九二
マキール海岸	一六、三二六	一三、六五六
エチオピア運送品	三二、一三六	
合計	三六六、一八九	一三四、六六七

尙一九二八年度中英領ソマリーランドの各港を出入した船舶數を示すと、入港船舶數三三、一一二、出港船舶數三一、五八八であつた。

七 佛領ソマリーランド

第一章 一般概況

佛領ソマリーランド殖民地は伊領エリトリア殖民地と英領ソマリーランドとの間にあつて、北はケープ・ヅメイラで伊領と接し、南はハヅーよりグエルデサを結ぶ線に依り英領と接して居る。總面積約五、七九〇平方哩、人口は一九二八年度に八五、七七八人と推定され、此中には歐洲人も含まれて居る。オボツク港は一八六二年にフランスの手に歸したが、實際に占領が開始されたのは一八八四年であつた。一八八四年にはサガロ、タヂユラがフランスに讓渡され、次いで一八八五年にはアムバドが割讓された。ヂブチ港は一八八八年に開かれ、今日では總督府の所在地となつて居る。同港は一九二八年に九、四一四の人口を有ち、此中五四〇人は歐洲人、更に此中三一七人は佛蘭西人であつた。又同港土人人口の內譯を示すと次の通りであつた。

ソマリー人	四、一七〇	スーダン人	一三三
アラビア人	四、〇六三	アンナン人	一五
ダナキル人	三五一	合計	八、八七三
ユダヤ人	一四一		

佛領ソマリーランドは產業として見る可きものは殆ど有たず、唯だ沿岸漁業及奥地の商取引が相當あるのみである。

一九一二年に活動を開始した製鹽事業は一九二六年に三四、二一八「メートル」噸の鹽を輸出した。

輸入貿易品の主なものは綿織物、バター、石炭及砂糖で、主要輸出品は珈琲、象牙、皮革である。一九二八年度の總輸入貿易額は四五七、七五一、四二四法、總輸出貿易額は四〇一、五四三、七五〇法であつた。

先に主としてザイラを通じて行はれたエチオピアとの交通は、今日では大部分ヂブチよりアヂス・アババに至る鐵道(四八五哩)に依つて行はれて居る。

ヂブチ港に寄港して居る船會社にはフランスのもの二、イタリーのもの二があるが、又フランス及イギリスの汽船は同港とアデン港との間を連絡して居る。一九二六年にヂブチ港に入つた商船の數は一、四二三隻、此總噸數一、一四五、二七一噸で、此等汽船の中二四五はフランス、八一はイギリス、三〇はイタリー、七はオランダ、一五はノールウエー、一三はドイツの國籍に屬して居た。又出港した船舶數は二、九六〇隻、總噸數二、八〇、八六一噸であつた。

八　エチオピア

第一章　概　況

阿弗利加東北部の一角を占めるエチオピアは面積約三十五萬平方哩で、北に伊領エリトリア及佛領ソマリーランド、西に埃及スーダン、南に英領ケニヤ殖民地及ウガンダ保護領、東に英領及伊領ソマリーランドを控へ、國土の大部分は高原をなし全く海岸線を有たない。人口は或は四百萬人、或は八百萬人、或は又千三百萬人と云はれるが、何れも皆統計上の根據があるわけではない。然し長く此國に居住する歐洲人は之を一千萬人と見積つて居る。人口の殆ど全部を占める土人は非常に多數の種族に分れ、少くとも七十餘種に達して居る。從つて彼等の言葉も多くの種類に分れ甚だ繁雜であるが、同國中央政府の官吏は英語又は佛語を理解する。同地在住外國人は約四千人と云はれ、其主な者はギリシア人、アルメニア人、アラビア人、印度人等である。

同國の氣候は地方に依つて異るが、大体十一月より三月迄を乾燥季、四月より十月迄を雨季とする。各地に於ける實際の氣溫に就ては測候所の設備がない爲精確に知る事が出來ないが、高原地方の溫度は平均六十度乃至八十度で、晝夜の差は可なり大きいが、一年間の變化は極めて少く、且天候は多く快晴で空氣は透明である。

第二章　産　業

第一節　農　業

同國の農業に付ては土壤、雨量、溫度等に關する地方的事情に關し信用すべき調査材料がなく、從つて正確に知る事が出來ないが、此國は元來種々な地高を有し、其高低に依り氣候も亦大に異なる爲、或は熱帶或は溫帶の植物を栽培することが出來、自給自足に最も便利だと云はれて居る。現に其産業は極めて幼稚であるが、食物の生産は土人の人口を支へるに足り、必要な製造品の輸入に對しては獸皮、珈琲の輸出で償ふ事が出來る。

尙政府は此幼稚な栽培法を改良する爲、從來よりは一層熱心に研究を續けて居り、他方外國人の栽培企業家は更に新らしい機械を利用して居る。

今農産物の主なものを其重要の程度によつて列記詳述すると左の通りである。

一、珈琲　珈琲は同國輸出品中最も重要なもので全國中四、五〇〇呎乃至六、〇〇〇呎の地高を有する地方は何處でも栽培されて居り、大部分土人が從事して居る。外國人の經營としては白耳義人の耕地が三つあつて、何れも良好な成績を擧げて居る。同地に栽培される珈琲には二種あつて、其一をハラリーと云ひ、他をカツファーと云つて居る。前者は同國第二の

都市たるハラール市の周圍の地方から産出するもので、有名なアラビアのモツカ珈琲と共に珈琲中の最良品と認められて居る。然しモツカの方が廣く名を知られて居る爲、アラビアの珈琲商はハラリーを輸入し、之を或はモツカと混合し、或はモツカ珈琲と稱して販賣するとの事である。後者カツファーは主として南部の同名の州に於て野生するもので、アラビア珈琲の原種と云はれ、最も多く外國に輸出されて居る。

一九二九年度の珈琲總産額は略平年作に近かつたが、一九三〇年度の産額は特に西部地方に甚だしかつた蝗の害に依り減收となつたものと想像されて居る。

二、テフ(Teff)　本品は稗の樣な穀物で、土人は之をインゼラと云ふパンの材料として居る。之は全然土人の食糧品で外國に輸出されて居ない。

三、大麥、小麥、玉蜀黍　是等も亦産額少くなく、總て土人の食料に充てられるもので、外國に輸出することは原則として禁止され、之を輸出する場合には特に政府の許可を必要とするとの事である。

此等農産物の出荷は收穫後の乾燥季に限られるが、之は雨季には道路が川に變じ、或は泥濘馬脚を沒し交通不可能となるからである。

四、棉花　棉花は諸方面に於て生産されるが、土人の需要を滿すに止り、外國に輸出される事が無い。

品質に就ては、光澤は立派であるが、纖維は極めて短い。恐らく耕作法の幼稚と種子の選擇に注意の足りない爲であらうか。近來政府は棉花栽培を以て非常に有望と看做し、之に對し課稅即ち十分の一稅を免じ、頻りに其生産を奬勵して居るが、未だ良好な成績を示すに至つて居ない。

聞く所に依ると同國では海拔千乃至千四百米の地方は大低相當の雨量があり、棉花の栽培に適し、北方のシダモ、ゴージヤム、ダラガ中央部のアルシ、ハラール等の地方は土壤、氣候共に其最適地であると云はれて居る。特に最近歐洲人の著目した地方は鐵道線路の中央即ち首府より二三八粁の停車場アワシの東部で、同地は平坦な地域が多く、地味氣候も最も良く雨量も豐富である爲、大耕地の經營には極めて有望だと云はれて居る。又チブチより五七五粁の距離にある停車場デレダワ附近では某佛國人が嘗て棉花栽培を試みたことがあるが、同地は降雨少く土地も亦良好でなかつた爲失敗したとの事である。

現在佛白人合同で大規模に棉花の試作を行つて居る所がある。

五、養蠶　高原地帶は一般に氣候溫和であるから養蠶に適當ではないかと考へられるが、今日土人又は外國人中之を經營する者が無い。然し嘗てハラールに於てアルメニア人に依り試みられた事があつたが、經營方法が惡かつた爲失敗したとの事である。

六、蜜蜂　蜜蜂は至る所に飼養され、每年多量の蜜蠟を外國に輸出して居る。然し蜜はテフと共に土人の製酒原料として內地で使用される。

尙此國で政府より農業のコンセツションを得る場合に地代何程を要するやは不明であるが、イタリー人の經營する珈琲園は政府から三十年の期限で借地し、地代は「ガシヤ」(約四十ヘクタール)に付て日本貨にして約一箇年五圓程の割合との事であるから、大體右の標準で借入れられるであらう。同國には外國人の土地所有權に關する規定が無い。從來の例に依れば同國政府は外國人に土地の所有を許さず、借地は之を許すが、三十年以上は從來許可した事が無い。

第二節　牧畜

牧畜は珈琲栽培と共に同國の二大産業の一であるが、生獸は共肉が土人の食用として必要である爲、穀類と共に輸出を禁ぜられて居る。

牧畜の主なるものは畜牛で牛の種類は Humpbacked 又は Zebu 種であるが、土人は牧草に對し注意を拂はず、乾燥季

には牧草缺乏の爲飼養に窮し、雨季には雨に濕ひ、日光に蒸されて品質を害し、其爲家畜の發育を害する事が少くない。

次に羊、山羊の飼養も亦盛んであるが、羊は毛が短く良質の毛を得る事が出來ず、山羊はガラ地方のものが毛が軟かくて絹絲の樣で、時としては十六吋の長さを有つものもある。

獸皮は輸出品の重なるものであるが、取扱ひに注意しない爲市場で高價を制する事が出來ない。此輸出先は主としてドイツ及イギリスであるが、一九二九年度には小量の山羊皮がアメリカに輸出された。

馬、驢馬及騾馬の飼養も亦極めて盛んであるが、運搬用としては多く驢馬及騾馬を使用して居る。生粹のエチオピア人は馬よりも驢馬を用ひ、ガラ人は好んで馬を使用して居る。然し馬は形が小さいが強健で、ショワ高原産のものが最も優れ、速力は遲いが敏捷である。又驢馬は强健で熱病其他の病氣に對する抵抗力强く、狹い山路の運搬に適し、容易に二五〇封度の重量を擔ひ、一時間三哩の旅行に耐へ又騾馬は極めて小さく運搬力は驢馬の半であるが、强健無類と云はれ盛んに使役されて居る。次に駱駝も亦運搬用として砂漠地方では盛んに用ひられ、其積載量は驢馬の倍額を普通として居る。

此國で最も珍とするに足るものは麝香猫即ちシベットの養殖で、此動物は丁度山猫の樣で約三尺の體長を有し、之からクリーム狀の香料を取るが、此香料の値段は普通一「オンス」に付日本金の六圓位である。其香氣は寧ろ臭氣に近いが、之を他の香料と適當に混ずる時は非常に優良な香料となるのである。

一九二八年度の產額は約二〇、〇〇〇「オンス」と推定され、此約半はアメリカが輸入した。一九二九年度の中頃までは外國の需要が少なかつたが、一九二九年度の後半に至つて幾分好況となり、同年度の總輸出額は一九二八年の夫を超過したものと思はれる。

第三節　林業

同國には南方及河邊の盆地を除けば森林少く、高原地方は多くは草原で、僅に灌木が點々として存在するに過ぎない。然し傾斜地には所に依り可なり樹木が多く、南方には密林鬱蒼として高價な樹木も少くない。尤も高原地方では嘗て各所に森林があつたが、濫伐の結果今日の狀態になつたとの事である。然し今日でも首府アヂス・アババの附近には可成の森林があり、例へばチエルチエル山腹、ジヤムジヤム山腹の森林は相當の大森林で、首府で使用する材木の主な供給地となつて居る。尙低地には場所に依り棗椰子、オリーヴ、ミモサ、黃松、護謨、シーダー等の樹木が多い。

第四節　鑛業

同國は有用鑛物に富み、鑛業上非常に有望だと云はれて居るが、未だ專門的に調査した事がなく、又深く內地に入り込んで探險した者も無いので、實際の事情は知る事が出來ない。但し同國政府はメソポタミヤ、ペルシア、モロツコ等の例に鑑み、外國人に鑛物採掘の權利を與へる事は、外國の干涉を招く處があるとして、外國の企業家に對し容易に之を許可しない。又許可するとしても農業の經營と同樣三十年以上の特許を與へない由である。從つて今日の狀態では外國人で同國に鑛業上の投資をする者は無い。今簡單に同國鑛物の概況を示すと左の通りである。

一、金は昔より西南及南部地方に砂金として存在し、又西部地方の河中からも砂金の形で採取される。ショア高原の南部にも金鑛があると云はれて居るが未だ採掘された事が無い。

二、鐵は全國に亘り諸所に發見されチグレ、エナレア等の地方に於て採掘されて居るとの事であるが詳細は明かでない。

三、石炭は西部高原の中部地方に於て可成り有望な礦脈を發見し、政府の手に依つて發掘して居る。此外ギタミ及サアイウの間にも三箇所の礦脈を發見したとの事である。

四、石油は英領ソマリーランドに於て發見された油脈の續きがハラール地方に延長して居ると云はれるが、實際には未だ採

掘されるに至らない。

五、ボタツシュは一九一一年中同國の北部、伊領エリトリアのマサワ港の南七十哩に亘るファテイマリの海岸より七十五粁の奥地に當る國境附近の砂漠地で發見されたが、之は岩鹽の形で存在し、ボタツシュの含有量五割五分を下らないとの事で、其埋藏量八十萬噸餘と云はれて居る。發見者は一イタリー人技師でエチオピア政府より三十年間のコンセツションを獲得したが、其後殖民地興業會社に賣却した。

六、鹽は多くチグレ及エリトリアの國境に近く岩鹽として存在し、地方の需要を滿して居る。

第五節　製造業

同國には各種の日用品製造家は居るが、工場組織の製造家は極めて少い。尤も首府以外の所にあつては家庭的製造業者もなく、必要品は各自に之を製作するを常としてをる。

家庭的製造業中最も發達したものは鞣皮、武器、甲冑、馬具、麥稈眞田、籠等の製作及木綿織物の類で、機織は男子の職業に屬して居る。又馬具類の製造販賣は多くギリシア人に依つて行はれ、土人が多く其職工として使用されて居る。土人中には刺繍に巧な者も少くない。多くは裁縫機械(シンガーマシーン)を用ひ、同國に於て最も需要のある馬の腹掛を盛んに製作して居る。

工場組織の製造業は凡て外國人に依り行はれて居る。其重なものは左の通りである。

一、製材所　首府より約四時間のボロタと稱する所にあつて、アルメニア人の經營になつてをる。

二、製粉所　可成大規模のものが二箇所ある。其一つは首府より約一〇哩のアカキにあつて印度人モハメダリ商會の經營で、大規模の組織を有し、工場其他の固定資金四十萬「タラリー」(一「タラリー」は英貨約二志)、運轉資金二十五萬「タラリー」と云はれ、一箇年の原料使用高小麥約三千噸、製粉高は其二割減で約二千四百噸と云はれて居る。但し原料は凡て內國產で、買入地の重なる所は首府アヂス・アババ、モージョ、アダマ、ウランケチ、ボルショタ等である。又他の一箇所は首府より約二五哩のウラタと云ふ處にあつてイタリー人の經營に屬し、相當大規模に事業を行つて居る。

倘以上の外ギリシア人經營の製粉所も多數あるが、何れも小規模に過ぎない。

四、煉瓦製造所　首府附近にあつて、イタリー人の經營である。

五、石鹼製造所　首府附近にあつて、フランス人の經營である。

六、鞣皮工場　アメリカ人の經營に屬して居る。

七、彈藥工場　曾て政府が經營した事があつたが、成績不良の爲一九一七年以來事業を中止して居るとの事である。

八、活版所　首府にあつてフランス人が之を經營し、佛字新聞を發行して居る。

第三章　外國貿易

第一節　輸出入貿易概況

同國の外國貿易は政府が統計表を作製しない爲、其輸出入額を正確に知る事は到底不可能であるばかりでなく、偶々當局者に依頼するか又は他の間接の方法に依り或報告書を入手しても、其數字は甚だ不正確で信用が出來ない。又同國貿易の約九割は佛領ソマリーランドのヂブチ港を通過する所から、其貿易額に就て之を調査しても、同地稅關も亦平常其貿易表を調製して居ない爲、算出が非常に困難である。

尙エチオピアの外國貿易は之を通路に由り五大別する事が出來る。印ち一、佛領ソマリーランドのヂブチ港を經由し、同

港と首府アヂス・アババとの間のフランコ・エチオピア鐵道に依るもの二、西方の要地でスーダン政府の租借地であるガムベラを中心として陸路又は水路に依りスーダンに行き又は之を經由するもの三、同國第二の都市であるハラールから陸路東方の英領ソマリーランドに至るもの四、北方チグレより伊領エリトリアに至るもの五、南方ガラ地方を經て英領ケニヤ及ウガンダに出入するものとであるが、エチオピアの全貿易額の九割迄はヂブチを通過し、他は大低スーダンの通路に依るもので、其他の貿易は云ふに足らない。但しヂブチ港に航路を有する船舶は、マルセーユ、サイゴン、横濱間、又はマルセーユ、マダガスカル間の佛國メサジル・マリテイム社線及獨逸のブレーメン・ロイド社線のみで、他の諸船は何れもヂブチに寄港せず其對岸のアデンに寄港して居る。

最近エチオピアの輸入貿易は非常に增加したが、一方運輸機關の便を缺いて居ると云ふ事は輸出貿易の進展を阻んで居る。一九二四年に輸出超過を見て以來、貿易は依然として逆調を續けて居るが、エチオピアの豐富な資源が近代式な裝置に依り一層盛んに開發される事になれば、輸出貿易も增進するものと一般から信じられて居る。一九二八年及一九二九年度の輸出入貿易統計を見ると、總輸出額が減少して居るのは主として皮革の輸出額減少に起因して居る。

併し一九二八年度より數量に於て增加して居る商品も、世界的の値下りから價額に於ては減少して居る。

輸入貿易に於て最も顯著な變化は、織物以外の綿製品(綿絲を含む)の輸入額の減少した事であるが、此外砂糖、穀物、建築材料、鐵板の輸入額も減少し、之に反し輸入數量の增加したものに未晒綿布、鹽及ガソリンの輸入がある。ガソリンの輸入數量が增加した事は自動車の使用增加を意味し、Dourah の輸入量の減少は地方的產物の增收を意味して居る。亞鉛引鐵板の輸入數量が減少した事は一に內地のストツクが增加して居る事に起因するが、又特別輸入品として若干の輸入量は統計の上に加へられて居ない事にも原因して居る。

一九二九年度の輸入貿易表に依れば、エチオピアは銀の値下りによる經濟界の惡影響を受けて居るとも思はれず、又エチオピアの主要產物に對する國外からの需要が減退した爲の影響も見られない。然し一九三〇年度には可成の輸入貿易額の減少を見ること、考へられる。

相手國別のエチオピアの外國貿易額は現在明瞭でないが、次に示す如き輸入商品の仕出國は主として左の通りである。

未晒粗布	日本、中華民國、インド、歐洲
自動車及タイヤー	アメリカ、フランス、イギリス
石油、同製品	イギリス、アメリカ
金物類	ドイツ、オーストリア

最近數年間の急速な輸入增加は、エチオピアに地方的工業の存在しない爲、加工品に對する需要の漸增を語るものであるが、今後一層進展する爲には、今日まで輸入貿易と歩調を共にすることが出來なかつた輸出貿易の發展が必要である。現在計畫されて居る運輸機關の擴張は經濟界の發展の第一步を踏み出したものである。

イ　エチオピア貿易（ヂブチ經由）額

▲主要輸入品

品目	一九二八年	一九二九年
	噸	噸
★アブジ(粗布)	四、六三七・六五〇	五、一八〇・一三〇
綿布	三、一四三・五八〇〇	一、八九七・二四〇
石油	一、六九九・七七〇	一、八二五・九五〇
揮發油	六〇九・二一〇	九六七・〇九〇
鹽	一九、二四三・四九〇	二一、〇三七・一三〇
砂糖	二、三六二・八八〇	二、〇二五・四四〇
普通石鹼	四九八・七四〇	五六八・五三〇
化粧石鹼	八・一〇〇	一四三・二七〇
建築用金屬及材料	一、四八九・六〇〇	七〇四・五九〇
麥酒	二三二・七六〇	三〇一・〇三〇
葡萄酒	一九四・六一〇	二七一・八〇〇
リキュール	四一九・二四〇	七〇五・四三〇
ダット(煙草)	二六七・九五〇	一七五・〇九〇
米	五七五・〇四〇	六〇九・五四〇

Dourah（麥の一種）	三、五〇三・二四〇	一、三三三・六一五
小麥粉	一〇九・一四〇	六八・一五〇
鹹力及同製品	三七一・三三〇	一二八・四五〇
硝子及同製品	二九九・二二〇	四一・一〇〇
ガンニーバツク	四四八・九一〇	五五一・四一〇
鹽	二五五・〇三〇	八二・三三〇
香料類	三〇三・二六〇	三八・二〇〇

註 ★印アブジとは外國品と云ふアマリック語であるが、同時に粗布と云ふ意味をも有つて居る

▲輸出品

品目	一九二八年		一九二九年	
	噸		噸	
パタ	三六・二〇〇		三一・〇五〇	
ハラール產珈琲	三、〇九二・九三〇		五、九五三・四九〇	
エチオピア珈琲	七、六五八・三五〇		七、七二九・九五〇	
珈琲皮	二一・八一〇		七・六九〇	
蜜蠟	三一七・四五〇		三六・四一〇	
象牙	七・五九〇		三・七三〇	
皮革 毛皮	三五・八四〇		四〇・〇〇〇	
皮革 牛革	八、八四四・〇一〇		五、六七〇・二〇〇	
皮革 山羊	九六八・八〇〇		一、〇五一・一九〇	
皮革 羊	六〇一・一九〇		四〇一・三五〇	

ロ エチオピア貿易（スーダン經由）額（單位埃及磅）

主要輸入品

品目	一九二六年	一九二七年	一九二八年
スーダン製品	二一七一〇	二三、五〇三	一〇、七九七
綿布、絹類	八三、三三一	三二、二三五	三六、四八七

主要輸出品

品目	一九二六年	一九二七年	一九二八年
珈琲	二一四、三六九	一八四、八〇四	一八六、五四二
貨幣	五、〇七〇	四、七八三	—
其他	二三、五六五	二三、〇四一	三三、〇九六
蜜蠟	六、八四二	八三三	—
雜	二四四、七五五	一五、一三三	一五、二四三

今エチオピアの輸入貿易品中チブチ港經由のものに就き增加の著しいものを列擧すると左の通りである。（單位噸）

品目	一九二二年	一九二五年	一九二九年
生綿布	一、七〇七	三、三二九	五一八〇
其他綿布	七九八	一、四六二	一、八九七
石油	一、八三	七四四	一、八二五
鹽	七、八八八	二一、四九五	二一、〇三七
砂糖	三三八	六四七	二、〇二三
普通石鹼	一一七	二九〇	三五八
麥酒	四五	一四三	三〇一
リキュール	四三	二三五	七〇五
米	九三	一四五	六〇九
小麥粉	—	一	六八
煙草	三	二〇	八二

之に反し輸入額の減少したものに化粧石鹼（一九二五年度一九噸、一九二九年一四噸）がある。

尙エチオピアに輸入される綿織物（一九二六年度）を積出國別に示すと左の通りである。

國名	生綿布	色綿布	晒綿布	合計
瑕	六〇五	九、二五六	五、〇七四	二〇、三八〇
フランス 瑕	一九、一四〇	三、〇二六、六六八	三三四、二七〇	三、四一〇、九八
法	三三、六六四	二、三五二〇	—	三六八、一四四
佛領各地 瑕	三〇、〇〇〇	一、三三二、二六〇	—	一、三七二、二六〇
法	六、八六七	三、六四七	二、四五〇	一、三三二、二六〇
イギリス 瑕	七〇	一九五、二六〇	一九五、一六〇	三六六、七三〇
法	一六、六六〇			

イタリー	瓩	二八	一〇、〇八五	二二、八四	二二、八四
	法	七、六〇〇	五三六、一三五	四〇四、三三三	九四八、二五八
インド	瓩	三、九一八、三三七	三一、三三八	二四二、〇三五	四、四六一、六九〇
	法	四六、三五〇、五四七	一三、八四七、一〇一	八、八六二、一三九	六九、一三九、七八七
ベルギー	瓩	二三三、一九一	八七、四〇六	七、六七三	三一七、二七〇
	法	五、一九、四〇〇	一、七四二、二三	一八〇、二二五	七、〇四一、八二七
エヂプト	瓩	一〇、九〇〇	—	—	一〇、九〇〇
	法	二九一、八四〇	—	—	二九一、八四〇
日本	瓩	一、三三三、八九三	六、三五五	八、一八五	一、三四七、六一三
	法	二五、三三〇、二一四	【四一、八三五	一六三、〇〇〇	二五、三五、〇四九
合計	瓩	四、三四、九七二	一四三、八六八	二八五、八四二	四、九五四、八九二
	法	五、九七七、七二一	一六、四三〇、三二一	三、八八一、八二五	一〇三、二七九、八〇八

之に依つて見ると全輸入綿布に對し價格に於て生綿布は七割二分、晒綿布は一割二分に當つて居る。尙其輸出國は生綿布では英領インドが其六割三分、日本三割四分を占め、以上の二國で獨占の形である。晒綿布は英領インド約八割四分、ベルギー約一割を占め、色綿布は英領インド六割九分、フランス二割四分を占めて居る。

エチオピアに於ける生綿布の需要は主として土人の衣服の材料に供せられるもので、彼等は一般に男女貴賤の別なく總て純白の膝迄の筒袖の上衣を着用し、其下には男は股引、女はスカート形の白い下衣を用ひ、其上に男女共シヤムマと稱する長さ四乃至二碼、幅三碼の薄い白布を肩に卷くが、其材料は何れも白木綿である。從つて木綿の同地に輸入される量も多い。以上の外小量の人絹織物が輸入されて居るが、之は主としてイタリーからで、又家庭用鐵器類は殆ど獨逸の獨占する所で其價格は他國の競爭を許さない。

セメントは小量ながらベルギー及イタリーより輸入されて居る。

硝子製品の輸入殊に土人用の壜及鏡は殆どベルギーの獨占であるが、ベルギー人は同市場の需要を研究し、之に應ずるものを供給して居る。

尙輸出貿易に於て、牛皮の輸出先は英、獨、佛、致須國を主とし、伊、西、バルカン諸國が之に次いで居る。山羊皮の輸出は殆ど米國の獨占である。數年前より緬羊皮が輸出されて居るが、此仕向地は佛、獨、英の順である。

次に參考の爲に貿易に關係ある二三の法律を揭げることにする。

第二節　エチオピアの動物及同製品輸出入規則

エチオピア國政府は一般衛生上動物及動物製品に對し左の如き輸出入規則を設けた。

輸出

一、總ての動物(生、死共)及動物製品は農工務省の檢査を經るに非ざればエチオピア國より輸出すること能はず。

二、輸出業者は動物(生、死)及動物製品を輸出するに先立ち獸醫の檢疫を受く可し。

三、獸醫檢疫官檢査の上輸出に差支へなしと認むるときは證明書を下付す。之に要する手數料は三「タラリー」とす。

輸入

一、總ての動物(生、死)及未精製の動物製品は、其原産地官憲に於て衛生上何等危險なき旨の證明書添付なきときはエチオピア國に輸入すること能はず。

二、動物及上記の商品にして原産地證明なき儘輸入せられし時は、之を獸醫檢疫官の檢査に付す。若し不衛生なりと認むるときは必要なる處分をなす。

三、原産地證明書は之を檢疫官に提出す可し。

旅行者の携帶するものにして證明書なきものは總て檢疫に付し、輸入差支へなきものと認めたるときは證明書を下付す。此料金は六「タラリー」とす。

第三節　エチオピア國商事登錄法

第一條　總ての商工會社、組合、商人及其他總て商取引を營むものは、本令公布後二箇月以內に商務省商事登錄課に屆出ずること可し。

第二條　登錄は一定の形式に依り商務省より交付せらるゝ書式に依るものとす。本登錄は本人又は代理人を以てすることを得。

第三條　登錄料金は十「タラリー」とす。

第四條　會社又は組合名を變更したる場合は、先の登錄訂正の爲商務省に屆出を要す。

第五條　登錄は强制的のものとす。之を犯すものには二十「タラリー」の罰金を課す。若し再び犯すものには五十「タラリー」を課す。三度之を犯すものは商取引を停止するものと看做す。且營業を差止むべし。

第六條　新たにエチオピア內に商業を營むものは、開店後二箇月以內に登錄手續をなす可し。

第七條　本令は外國人に關する場合は別記の規定に從ひ適用さるゝものとす。

外國人にして本令を犯すときは、關係地方官憲は之が處罰に付必要なる手段を特別裁判（商事部）に仰ぐべし。

同裁判は稅務長官を議長とし、關係領事及二名の商人を以て立會人とす。尙必要ある場合は他の技術家の立會を求むる事あり。今後發布せらるゝ事ある可き商務省令の適用に付ては、稅務長官は豫め領事團と意見の一致を計るものとす。商務大臣代理は將來度量衡に關する規則を公布する權利を留保す。

第四節　鑛物採鑛輸出取締令

第一條　鑛石たると金屬型たるとを論ぜず、白金竝金及寶玉、寶石の探査、調査、發掘、採鑛蒐集はエチオピア政府鑛山局より正式に許可を得たるもの〻外は、之をエチオピア國內に於て爲す事を禁止す。

第二條　前記第一條の規程に違反するものには五百乃至二千「タラリー」の罰金を課し、且物品を押收す。

第三條　鑛石たると金屬型たるとを論ぜず白金竝金及寶玉、寶石の輸出は鑛山局より許可を受くるにあらざれば之を爲すことを得ず。尙輸出に際しては稅關に申告するものとす。

稅關當局は鑛山局發給の輸出許可書を强請し、之を稅關申告書と付合せしむるものとす。又稅關當局は輸出に際し提出せらるゝ鑛山局許可書に同書は以後効力なき旨を記入す。

第四條　第三條の規程に違反して輸入し或は輸出せんとするものには最高千五百「タラリー」の罰金を課し、且物品を押收す。一箇年以內に再び犯すものには罰金を倍加す。

第五條　罰金の決定は書留郵便を以て違反者に通告す。

第六條　總て違反者を當局に密告せしものには徵收する罰金の三分の一を賞與として交付するものとす。

第四章　交　通

エチオピアに於ける道路は何れも單なる通路に過ぎず、運搬は馬、驢馬、騾馬を使用し、又所によつては駱駝も使用して居る。首府及其近郊數哩に亙つては一九二六年中舖礫道が設けられた。佛領ソマリーランドのヂブチ港を基點とする鐵道敷設の爲、一八九六年にフランコ・エチオピアン鐵道會社が設立された。尙同鐵道は一九一七年にアヂス・アババまで完成された。

此總延長四八哩半である。汽車は兩端より一週二回づゝ出發し、日中のみ運轉し、全行程に三日間を要して居る。此鐵道はフランスの管理に屬し、財政的にもフランスの補助金に俟つて居る。一九二七年度の總收益高は三四、〇〇〇、〇〇〇法であつた。

尙現在伊領エリトリア境よりデシーに通ずる道路の建設が計畫されて居るが、此道路は先にエチオピアが利用を許されて居る伊領エリトリアのアサブ港より國境まで伊太利人の建設する新道路と連絡せんとするものである。

一九二九年度中初めて同地に飛行機が紹介された。此等の飛行機は政府が購入したもので、フランス、ドイツ及イタリー製である。

飛行場の無いこと、經驗ある飛行家が居ない爲、エチオピアの航空事業の發達は早急には望まれないものと思はれる。電信線の延長は約二、〇〇〇哩で、首府アヂス・アベバとハラール、シダモ及佛領ソマリーランドのヂブチ、伊領エリトリアのマサワと連絡して居る。電話はアヂス・アベバとハラール、ゴレ、ガムベイラ、ヂマ、サラダ、デシー、デブラ・タボル、ゴヂヤム、アンコベル、アスマラ、アヅア及ボロメイダとの間に通じて居る。一九二五年度に於て郵便局の數は十であつた。

第五章　通貨及金融

資本金五〇〇、〇〇〇磅、內拂込金一二五、〇〇〇磅のエチオピア銀行は、本店をアヂス・アベバに有ち、支店をディレ・ダワ、ゴレ、ガムベイラ及デシーに置いて居る。同銀行總裁はエヂプト國立銀行總裁が兼ねて居り、重役會議はカイロで開かれる事になつて居る。バンカ・デイタリア(イタリー銀行)もアヂイ・カイエに支店を設け營業を行つて居る。

エチオピアの貨幣の單位はタラリーと云ひ其價は約英貨二志に相當して居る。タラリー貨幣に二種あつて、一をマリアテレサ銀貨、他をメネリツク銀貨と云ひ、前者は純銀二八、〇六七瓦、後者は二八、〇七五瓦を含んで居る。兩者は同價値を以て流通するが、現在ではマリアテレサ貨の方が常に良く流通し、メネリツク貨は殆ど市場に於て見ることが出來ない。

以上の外銀貨銅貨の小貨幣があり、前者はタラリーの二分の一、四分の一、八分の一、十六分の一の四種がある。又銅の小貨幣は三十二分の一、六十四分の一、百分の一の三種がある。然し乍等の小貨幣は主として首府及ディレ・ダワ、ハラールに於て使用され、他の地方では殆ど流通しないとの事である。

但し僻遠の地方では貨幣を使用せず、其他の必需品、例へば鹽、木綿等を使用し又は物々交換をするが、鹽等を用ひる場合其形狀及重量は地方に依り同樣でない。所により銃丸を貨幣に代へて用ひて居る。

第六章　關稅

物品の輸出入に對する關稅は原則としては各隣邦の本國即ち英、佛、伊三國との條約の規定に依るもので、他の諸國は條約國と否とに拘らず、習慣上凡て之に均霑することになつて居る。即ち

(一)佛領ソマリーランドを經由するものは、從價一割の輸出稅又は輸入稅を賦課する。但し酒類の輸入に對しては從價八分である。

右課稅の基礎となる輸出入の價格は、每年一月及六月の二回に過去六箇月間の同國の物貨を標準として定める。

右の通り佛領ソマリーランドを通過して、同國に輸入される場合には同地稅關で課稅されることはないが、通過手數料を徵收される。

(二)伊領エリトリアを經過する貨物に對しては從價八分の輸出又は輸入稅を課し、若し輸入品が伊太利品である場合は從價一割の輸入稅を賦課する。但し國境には稅關なく右稅金の徵收は伊領マソアで伊國官憲に依つて行はれるのである。

(三)スーダンに對しては輸出及輸入稅は從價六分とし、若し輸出品が更にスーダンより再輸出される時は五分の拂戾がある。

但し徴稅はスーダン側で同政府吏員に依つて行はれる。

(四)英領ソマリーランド、ケニヤ竝伊領ソマリーランドに對する物品の輸出入稅徵收に就ては其手續が明瞭でない。

其他國內に於ても頻繁に通過稅を徵收される不便がある。

九　マダガスカル島

第一章　概況

西曆一八八五年に佛蘭西の保護領となり、次で一八九六年に殖民地となつたマダガスカル島は、阿弗利加大陸の東南に位し、幅二四〇哩のモザムビイク海峽を隔てゝ葡領東阿弗利加と相對して居る。長さ約九八〇哩、幅約三六〇哩、面積約二二八、七〇七平方哩で、我帝國の全領土から北海道及千島を除いたのと略相匹敵して居る。

同島の地勢は東部、中央部及西部の三地方に分れ、各地方は地形、氣候及產物等に付夫々異つて居る。

中央部　海拔三千呎乃至五千呎の大高原で全面積の約四分の一を占め、東西兩海岸地帶に注ぐ河流の分水嶺を爲して居る。然し至る所に山岳起伏して殆ど平野を見ない。此地方の地質は一帶に火山的で至る所に休火口があり、土壤は概して肥沃とは云ひ難いが沼、湖水、澤が各地に散在し共附近の地は孰れも豊饒だと云はれて居る。

東部地方　此地方は中央部山脈の東方で、印度洋に面する傾斜地である。海岸への距離は西部地方に比較し約三分の一に過ぎない、從つて其傾斜は非常に急勾配を爲し斷崖絕壁多く河川は皆激流である。

海岸線は殆ど一直線を爲し、タマタヴ、マナンジヤリー等の諸港があるが何れも皆風波に曝露し、荷役が極めて困難であ

るばかりでなく、屢々此方面に於て最も恐る可き旋風に襲はれ損害を被むる事が少くない。タマタヴの如きは一九二七年三月大旋風の爲に棧橋及多數の家屋を吹き飛ばされたばかりでなく、耕作物の如きも莫大な損害を受けた。然し本島の北端にはディエゴ・スワレス港の如き自然の良港がある。

西部地方　此地方はモザムビイク海峽に向ひ緩漫な傾斜を爲し、東部に比較し山岳の起伏も甚だ少く、從つて平野多く、河川も其流は緩くて多くは舟運の便がある。

同島は地勢に變化ある如く、氣候に關しても大に異なつて居る。即ち海岸に近い所は低地で、暑氣が酷烈であるが、內地は總て高原で、中央高地と云はれる地方は海拔四千呎乃至五千呎の高さを保つて居る爲、緯度より云へば熱帶であるにも拘はらず氣候は極めて溫和である。本島の氣候は雨季と乾季とに分れるが、其時期は地方に依り異なり、大体に於て、十一月から四月迄は夏で、五月から十月迄は冬の時期である。

一九二六年の人口調査に依ると、メヨツト及コモロ島を加へた總人口三、六二一、三四二人(一平方哩につき一五人)で、此中三、五九一、九四三人はマラガシー(土人の總稱)、一八、〇四〇人は佛蘭西人、其他の國人は一一、三五九人であつた。一九二五年度の土人人口の內男は一、〇二四、一〇九人、女は一、一七七、七二六人で、十五才以下の兒童は一、三七四、二六六人であつた。

土人を總稱してマラガシーと云ふが、此中には各種の種族が含まれ其主要なものを示すと、ホヴア族(九〇六、九三八人)、ベステイレオ族(四七九、六八六人)、ベステイミサラカ族(四〇三、四七五人)、タナラ族(一五一、〇七一人)、サカラヴア族(一四一、七二六人)及バラ族(一五七、〇九六人)である。インド人、支那人、アラビア人其他のアジア人種も小賣業を經營して居る。土人の中最も文化の進んだ種族はホヴア族及メリナ族で、彼等の使ふマレー及オセアニツク語に似た言語は、マダガスカル島全體に理解されて居る。

奴隷賣買は一八七七年に名目上は廢止され、イメリナ其他フランスの勢力圏内にある各地方に於ける奴隷制度も、一八九六年九月二十七日の布告で廢止された。此外土木事業に强制的に土人を使役する制度は一九〇一年一月一日より廢止されたが、十六才より六十才に至る者に課せられた一人當り五法の人頭稅は十法、十五法、或地方では二十法又タナナリヴでは三十法に引上げられた。一九二六年度の主要都市の人口を示すと、首府のタナナリヴ、七〇、八四七人（內佛人三、六四八人、其他の外國人六〇一人）タマタヴ、一五、〇二二人、フイアナランツオア、一一、一五六人、アンチイラブ、一九、一三〇人、マジュンガ、一六、五七〇人、デイエゴ・スワレス、八、六〇四人、ツレアール、七、七八〇人、マナンジャリー、一二、〇一三人、サン・マリー、八、一二七人、ノシ・ベ、一四、〇二二人であつた。港の主要なものとしては、東海岸のタマタヴ、北西海岸のマジュンガ、北海岸のデイエゴ・スワレス、南西海岸のツレアールがある。

デイエゴ・スワレス（一八八五年に佛國の殖民地となる）、西海岸のノシ・ベ島（面積一三〇平方哩）、東海岸のサン・マリー島（面積六四平方哩）の何れもは一八九六年に又コモロ島は一九一四年にマダガスカル島總督の管轄に屬する事となつた。尙同島の貨幣單位は本國フランスに同じく、銀行としては左の四行がある。

La Banque de Madagascar.
Le Comptoir National d'escompte de Paris.
Le Crédit Foncier de Madagascar.
La Banque de L'Ocean Indian.

第二章　産　業

フランスがマダガスカル島の占領を完成した一八九六年に土地保有に關するマラガシー・システムが定められ、外國人の土地取得が許可され、土地の登記が開始された。都市及市外の政府所有地は農、牧若くは鑛業の爲に個人又は會社に借し若くは賣却される事になつた。

第一節　農　業

同島の主産業は農業で、全島悉く肥沃だとは云ひ難いが、到る所可成の土質及其他の天惠に富み、生産が豊富であるばかりでなく、赤道に近い點から云へば熱帶に屬するが、海岸と內地とは非常に地高を異にし、氣候の變化が大きいので、地方により異つた種類の作物を耕作する事が出來る。一九二六年十二月三十一日現在の總栽培面積は土人に依るもの三、〇四八、三六七「エーカ」、歐洲人に依るもの二八五、六〇七「エーカ」であつた。主要農產物は米、砂糖、珈琲、マニオツク、棉花、カカオ、ヴアニラ、煙草、豆類、丁香、桑、護謨で、此等農產物の一九二七年度に於ける栽培面積を示すと米一、三九二、四二五「エーカ」、マニオツク六八二、九二五「エーカ」、玉蜀黍、二一三、五四〇「エーカ」、隱元豆、九一、〇九七「エーカ」、馬鈴薯、七七、二〇七「エーカ」、珈琲、一一三、五三七「エーカ」、ヴアニラ、五三、二六〇「エーカ」であつた。更に本島の農業を地方別に概要を說明すると次の通りである。

一　中央高原地方

此地方は土地の肥沃に就ては他の地方に比較して大に劣つて居る樣に見えるが、氣候は溫和で生活し易く、十一月から四月迄は此地方の夏季に當り、海岸の低地では炎熱燒くが如き酷暑の時であるが、此地方は海拔四千尺乃至五千尺の地高を有する爲溫帶地の夏季と等しく、溫帶植物の栽培に適して居る。殊に此季節は恰も雨期に當り、雨量は十分であるから耕作に好都合なばかりでなく、濕潤な低地に比較し風土病も遙に少く、比較的健康地であるから人口の密度も亦他に比較して非常に增加した。現に同島の中最も文化の進步し、耕作の行屆いて居るのは此地方で、首府タナナリヴは其中央の形勝地を占めて居

る。耕作物の主なものは米で、マニオク、玉蜀黍等が之に次いで居る。玆に特筆す可き事は此地方の氣候が桑の發育に適する事で、此地方の土人は早くから養蠶を行つて居た。

二　東部及西北部地方

此地方は高溫且濕潤で風土病が多く、不健康地と看做されるが、低地は勿論高地と雖も湖沼河川附近の地は概して土地肥沃で、熱帶植物の栽培に適し珈琲、丁香、ヴアニラ等が良く成育する。

三　西部地方

此地方は熱帶的な點で東部地方と大差は無いが、雨量少く、空氣は非常に乾燥して居る爲、豆、麻等の作物を栽培するに適して居る。

地勢は一般に海岸に向つて緩漫な傾斜をなし、東部地方の如きは急坂が少く比較的平野が多いが、山岳起伏して大平野なるものは無い。從つて大規模の農業に適する耕地を見出す事は困難だと云はれる。但し西南地方には可成り廣大な平野があり、土人は盛んに牧畜を行つて居るが土地の開墾は殆ど行はれない。此原因としては此地方の土人が農業的種族で無い事、交通不便の爲生産物の出市が困難な事等が擧げられて居る。

各土人の農業狀態は右の如くであるが、玆に特筆す可きことは此等諸地方の農業が珈琲其他一二の特殊耕作物の外は殆ど凡て土人の手に依つて行はれる事で、其規模は何れも家族の勞働力を標準とし僅な生產を以て滿足するばかりでなく、其耕作方法の如きは甚だ原始的である。近時政府の指導と共に幾分改良されつゝあるが、多少機械を使用し、比較的大規模の耕作に從事するものは僅かな佛人の栽培園に限られ、彼等は高原地方でマニオツク、東部地方で珈琲、ヴアニラ、ココアの生產に從事するが、西部地方では未だ其企業を見ない。

又土人は主として米作に從事し盛んに牧畜を行ふ外、高原地方ではマニオツク、小麥、麻、玉蜀黍、落花生を耕作し、東部ではヴアニラ、玉蜀黍、落花生、護謨等の生產に從事し、西部地方では落花生、豆等を栽培して居る。

尙主要農作物に就て說明すると次の通りである。

米　米は同島土人の常食で、既に久しい以前から耕作され、同島產物中の大宗である。フランスが占領する迄は、中部高原地方以外の地方では餘り其耕作に力を用ひず、例へば森林地帶では土人は草根若くは二三の農作物を以て生活の糧とした位であるから、占領當時に在つては同島は外國より米の輸入を仰がなければならなかつたが、其後米作は大に普及し、中央高原の谿谷及湖畔竝海岸附近の低地の多くは大抵水田となり盛んに米作を行ふことゝなつたが、其結果一九〇六年より外國米の輸入を仰がない事になつたばかりでなく、爾來年々若干の輸出を見るに至り、今日では其栽培面積一、三九二、四二五「エーカ」に達し、一九二七年度に一一、五一二「メートル」噸、一九二八年度に一一、六二九「メートル」噸を輸出した。

同島の米作は殆ど全部土人により行はれ、米の種類も極めて雜多であるばかりでなく、耕作法も甚だ幼稚である爲、種類を統一することは非常に困難である。從つて政府は近年米の品種の改良竝之を統一することに力を用ひ、農事試驗所を通じ必要な活動をして居る。

精米所の設備も亦近年に至つて可成り好く整頓し、一九二七年末の調査に依ると其數四十二で、何れも現代的機械を備へ付けて居る。但しディエゴ・スワレスでインド人の經營する精米所の外は凡て佛國人の所有である。

マニオツク　マニオツクは甘薯に酷似し、米に次ぐ土人の主要食料品で一、八〇〇米を超える高原地及西南部の砂漠地帶を除き同島到る處に栽培されて居る。耕作は主として土人に依り行はれ、歐洲人の耕作は極めて少く、一九二七年度の全栽培面積は六八二、九二五「エーカ」で、輸出額は一九二七年度三五、一九〇「メートル」噸、一九二八年度三九、九八四「メートル」噸であつた。

其輸出先は佛國で、同國では之をタピオカ若くは織物用糊に製造し、或はアルコールの原料として居る。

本品は又家畜の飼料として珍重され、營養分は玉蜀黍より多く、馬鈴薯に比較して其二倍に當るとの事である。

珈琲　本品は主として東部地方に於て佛國人の耕地で栽培されて居る。主産地は東海岸のマナンジヤリー港を中心とするマナンジヤリー州一帶の地方及タマタヴ港を中心とするタマタヴ一帶の地方で、同國輸出品中の大宗に屬して居るが、タマタヴ州地方は一九二七年三月の大サイクローンの爲非常な損害を被り、少くとも今後數年間は之を回復することは不可能だと云はれて居る。栽培の種類は從來主としてリベリア種を撰んだが、今日ではカニフオラ種に變更されて居る。輸出の仕向地は主として佛國である。

ヴアニラ　本品は濕潤で、熱氣の十分ある地方に栽培されるものでアンタラハとフアラフアンガナとの間の東海岸地方及西海岸のノシ・ベ島に於て盛んに栽培され、一九二七年度の栽培面積五三、二六〇「エーカ」で、世界總産額の約五割を産出して居る。主として土人に依り栽培せられ、歐洲人の耕作するものは極めて僅かである。本品は相場の高低が甚だしく、一九二四年に一斤四百法であつたが近最は二百法に下落して居る。其原因は主として米國からの註文が激減した事と、人工ヴアニラの强敵が現れた事である。

ヴアニラの主な消費國は米國、佛國、英國、獨逸及伊太利である。

丁香　本品は東海岸のタマタヴを中心とし、北はアンタラハから南はフアラフアンガナに到る低地竝サン・マリー島で生産されるもので、佛國人及土人が栽培に從事して居る。

世界に於ける丁香の主産地はザンヂバルであるが、マダガスカル島産のものは品質に於て遙に優等であるばかりでなく、樹齡が若い爲ザンヂバルにとつては將來恐る可き强敵と看做されて居る。

第二節　牧畜業

牧畜業は農業と共に同島土人の經營する二大産業の一である。一九二五年十二月三十一日現在に於て、家畜の數は牛七、一三九、九〇〇頭、馬二、八八四頭、羊一一六、一一四頭、山羊六二、八三三頭、駝鳥一、〇五七羽、豚三八六、三〇五頭、一九二八年度には牛六、九〇一、〇〇〇頭、豚三二八、〇〇〇頭、羊一四二、〇〇〇頭、山羊二〇八、〇〇〇頭、馬一、八〇〇頭であつた。今夫々に就て簡單に說明すると次の通りである。

牛　牧牛は同島土人の主産業で全島到處に於て盛んに行はれ、殊に農業の最も幼稚な西南部地方に多い。土人は昔から牧牛を好み、其數の多いのを誇る風習があり、今日の如く牛の商取引が行はれなかつた頃は、祝儀又は葬祭等の場合の外は牛を屠殺しなかつた。同島に於て土人の飼養する牛はゼブ種で、もと印度から輸入し、數百年來同島で飼養した結果良く其氣候風土及食物に慣れて居る。

背に肉瘤が隆起し、角は細長く突出し、皮は厚く、毛は甚だ硬い。概して体格は小さいが、良く肥大し肉質は良好である。土人は牧牛を好むにも拘らず飼育の方法に就ては極めて無頓着で、自然の儘に放置するに過ぎない。例へば繁殖の方法に就ても又品種改良の方法に就ても何等注意することがない。

牛は同島から生牛、牛皮、罐詰及冷肉として輸出される。

歐洲人の經營する大冷肉工場の所在地は、ボアナマリ（マジユンガ）、デイエゴ・スワレス、タマタヴ、タナナリヴ及アンチラーブである。

牛皮は輸出品中重要なもので、大部分は佛國に輸出し、獨及米にも可成り輸出されて居る。一九二七年度の牛皮の輸出額は八、五一六「メートル」噸、一九二八年度の輸出額は一〇、五六六「メートル」噸であつた。

羊　同島産の羊は太い尾を有する所から Fat tailed sheep と云はれ旱魃に對する抵抗力は强いが、毛少く肉は不味である。

山羊　山羊は羊と殆ど同地方に産する外、コモール群島にも飼養され、同地方に住むコモール人及印度人は殊に此肉を賞味する。一九二八年度には同島内に一四二、〇〇〇頭の羊が飼育されて居た。

馬　マダガスカル島に馬の移入を見たのは今から約百年前で、佛國が本島占領後エチオピア種、オーストリア種、バルブ産及タルブ産等の馬を輸入し、同島の氣候風土に適する様改良に努力すると共に、土人に馬の飼養を奬勵した結果、相當の効果を擧げた。一九二五年度末に一、八八四頭、一九二八年度には一、八〇〇頭の馬が同島に飼育されて居た。馬種もアングロ・アラブに接近しつゝある。

馬の飼育地はタナナリヴ、アムバトラムピー、アンチラブ、アムボシトラ、フイアナランツオアの高原地方で、タナナリヴ及フイアナランツオアの附近には種馬飼育所がある。馬の衛生狀態は良好である。

豚　同島の豚は亞細亞種に屬し、容易に肥大し色黒く毛は粗硬である。

尙同島海岸地方の回教徒の住する地方は、彼等が宗教上豚の飼育を忌む結果餘り行はれないが、中部高原地方では盛んに飼育されて居る。

大戰中歐洲の需要に當てる爲、亂殺された結果激減したが、一九一九年度には尙四十五萬頭を算し、一九二五年度末には三八六、三〇五頭、一九二八年度には三二八、〇〇〇頭であつた。

駝鳥　駝鳥の飼育は一九〇二年英人が五番を輸入し、チュレアル港に於て飼育したのに始まり、其後總督府は同港附近に飼養場を設けて奬勵した結果、一九二五年度末には一、〇五七羽に達した。近年羽毛の賣行不良の爲、飼養者は非常な打撃を受けて居る。

第三節　林業

同島の森林は約一千萬「ヘクタール」で其大部分は東部海岸の斜面にあつて、北はディエゴ・スワレスから南はフオール・ドウファンに及び、殆ど全島の南北に亘り鬱蒼たる大處女林をなして居る。但し中央部及西部の斜面地方には曾て大森林があつたが、土人の燒拂耕作法の慘害を受けた爲、今は殆ど森林を認めない。但し西部の海岸にはマングローヴ樹が密生して居る。

前述の如く東部には廣大な森林があるが、何れも皆雜木林で同一木に乏しく、且森林は何れも無數の深谷、激流に遮斷されて居るから採伐竝搬出は極めて困難である。唯だタナナリヴからマナンジャリー迄は自動車道路がある爲、之を利用し得られる。

材木の種類としては各種家具用材、建築用材があるが、此外工業用としてはマングローヴ樹皮を鞣皮製造材料に用ひ又椰子の纖維よりラフイア布を製し、ソボカと稱する樹皮からは染色材料を製出して居る。

第四節　鑛業

同島の鑛物は種類極めて多く、埋藏量は無盡藏と云はれて居るが、內地の探檢が未だ不十分の爲詳細は判明して居ない。尤も存在の確實なものでも、交通の不便及採掘法の幼稚な事等で、事業としては未だ見る可きものがない。

石墨　同島鑛物中最も豊富と認められるものは石墨で、其埋藏は殆ど全島に亘り計り知る事が出來ないとの事である。蓋し往昔より土人によつて其存在を知られ、彼等は之を黒色釉藥として用ひたが、之を工業的に採掘したのは一九〇四年以後の事で、同年佛人が首府の附近で初めて試掘し、一九〇七年に至り坩堝の原料として販路を發見し、爾來相當の成績を擧げるに至つたので一九〇九年より諸所に試掘する者を生じ、其結果今日では全島各方面、殊に中央高原及東海岸地方に於て、北はヴオヒマーから南はフオール・ドウファンに至る迄各處に大鑛脈を發見し、歐洲大戰の好況に乘じ一躍大規模の採掘を行ふに至つたが、戰後の不況により一時動搖をしたけれ共、最近に至り漸く安定し前途極めて有望と云はれて居る。

同島石墨の特色は純分率非常に高く、且鑛脈が地表上に存在することで、其或物は四〇—五〇米の高さに達する爲、何れも皆露天掘を應用し、採掘極めて容易と云はれて居る。最も有望な鑛脈の所在地として知られる地方は、中央高原では、タナナリヴ、ベタフオ、アンチラブ、アムボシトラ、フイアナランツオアの諸州、沿岸地方に於てはタマタヴ、モラマンガ、ワトマンドリー、マナンジヤリー及フアラフアンガナの諸州である。

一九二五年度の産額は一三、〇〇五噸、一九二六年度一五、九〇二噸、一九二八年度一三、八九七噸であつた。輸出先は英、米、佛、獨の諸國で一九二七年度には一四、三二九「メートル」噸、一九二八年度には一三、八九六「メートル」噸を輸出した。

石炭　今から十餘年前、西南部チュレアルの南方 セント・オーガスチン灣に流入するオニライ河の支流イアナベラ河の盆地に於て、極めて廣大な炭田を發見した。其炭質は略ナタル産と同質のもので、主要炭層は四箇の薄層から成り、其幅十三尺を超えると云はれて居る。此炭田採掘に關し最も重大な問題は、如何にして勞働者を得るかと云ふ事で、此地方の土人は極めて怠慢で地方的に共需要を滿すに足らないばかりでなく、他の地方から勞働者を得ることに就ても、一時に多數の土人を募集する場合には他の事業に障害を與へる事となり、從つて之を開發することは前途極めて遼遠である。

石油　西部地方にはセント・アンドレー岬及フトンヂーからマナンボロ河の南北に至る約二〇〇粁の南北に亘る大地方に石油の存在する徴候があるが、未だ試掘されたことはない。

燐礦　モザムビイク海峽の一孤島ジヤン・デュ・ノヴア等に廣大な燐礦床の存在することが數十年前から發見され、其埋藏量は數百萬噸に達すと云はれて居る。但し燐礦は既に數年前から盛んに發掘され（一九二六年度の産額六、一三五噸）海外に輸出されて居る。

金　金は砂金の形で存在するが、採集の方法は極めて幼稚である。

一九二五年度には四一九厓七、一九二六年度には三〇六厓六を産出した。

鐵　鐵は昔から土人に依り採掘され、鎗其他の刃物に製作されたが、其冶金法はアラビア人から傳へられたもので、幼稚な事は云ふ迄も無い。

寶石　マダガスカル島は各種の寶石に富み、其内同島の特色とする處は絲柱玉で、次は電氣石、柘榴石、オパール等頗る多く、一九二五年度には一二八厓五、一九二六年度には六、六四三厓を産出した。

第五節　製造工業

地方的製造工業の規模は比較的小さく、此中には精米工場、精糖工場、牛肉罐詰工場、麥稈帽製造、簡單な織物類、絨毯及レースがある。

第六節　産業統計表

A　主要農産物産額表

品目	栽培面積(千エーカ) 一九二六—二七	一九二七—二八	産額(特記しないものゝ外は千ブッシェル) 一九二六—二七	一九二七—二八
玉蜀黍	二、一一	二、〇〇一	四、〇三四	四、一六六
米	一、三九七	一、四八三	二九、三九四	五一、四四〇

B　主要鑛産物産額表

品目	單位	一九二二年	一九二四年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
金	「トロイ・オンス」	二八、五七二	二一、三八	六、七六二	六、二七五	—
雲母	「メートル」噸	九二	二八六	四四四	六四一	四二七
石墨	〃	六、六七五	二、五五六	一四、三二九	一三、八九六	一六、〇四七

馬鈴薯　千封度　五四、七七九　四、〇九八
煙草　一五　一三・X一九、一二四　一四、三三〇
珈琲　四〇　X七、六〇六　二、一三五
（X、單位千封度）

燐礦	〃	五、二一〇	七四九	六、四八〇	八、三〇〇	一二、五〇〇
銅玉	〃	一八六	一四七	一四五	一一五	—

第三章　外國貿易

同島の關稅報告に依ると一、九二九年度の輸入貿易額は八〇五、五五一、〇〇〇法、輸出貿易額は四二二、四五八、〇〇〇法であつた。總輸入貿易額の約八割はフランスからで、約四分がフランスの殖民地から輸入されて居る。一九二九年度のアメリカからの輸入貿易額は一、一四一、〇〇〇弗、アメリカへの輸出貿易額は二九九、五〇〇弗であつた。

一九二九年度のマダガスカル島外國貿易の商品別の輸出入價格は未詳であるが、數量の上から見ると、小麥粉、石炭、コークス、毛織物、麻織物、礦油の輸入額は非常に增加し、減少した商品の中主なものは綿織物及金屬類である。輸出に於ては米、丁香、タピオカ、カツサヴア、皮革は減少し、ヴアニラ、粗糖、採油用種子と共に石墨の輸出は增加した。

マダガスカル島輸出入貿易額（地金銀を含む）（單位千法）

年次	輸入	輸出
一九二五年	四九一、八五四	二三、四六一
一九二六年	五九二、六一二	一九、二〇一
一九二七年	五七九、八六〇	二二、七三一
一九二八年	六八八、五六一	二六、九九二
一九二九年	八〇五、五五一	三一、五七八

主要商品別輸入額表

品目	單位	一九二八年度輸入數量	輸入價額（千法）一九二七年	一九二八年
小麥粉	「バーレル」	三四、三六四	八、九二五	七、五四二・五
砂糖	千封度	七、九二一	一二、四九五	九、八九四
葡萄酒	千「ガロン」	九三八	一九、三五四・五	二二、三九四・五
强酒類	〃	二三八	一〇、二二五・五	七、〇一八
皮製靴類	千足	一二二	八、九一六	一〇、二〇〇
綿織物	千封度	一一、一一四	一六三、〇六九	一九四、三一〇
麻織物	〃	五、八三八	一三、二八五・五	一四、四三三
絹織物	〃	二八五	二五、三七二・五	四一、一八二・五
衣服類	〃	六八七	三四、〇六八	四〇、九二七
帽子	千箇	四四七	七、三六九・五	七、三六九・五
ゴムタイヤー	千封度	二四六	四、五一三・五	六、八〇八・五
石炭	噸	三九、五五八	一一、三二七・五	一二、一六一・五
ガソリン	「バーレル」	二二、六四〇	七、四三一	八、九五〇・五
ケロシン	〃	一七、〇五〇	六、八八七	六、三二六
セメント	千「バーレル」	一二四	一二、一一二・五	一六、八五五・五
ガラス及同製品	—	—	四、九七二・五	六、三七五
鐵及鋼鐵	噸	三二、〇五九	六七、三七一	八四、五五八
機械	〃	二、六二八	二〇、一九六	二六、四四三・五
自動車	臺	五一六	一〇、四八〇・五	一四、一〇一・五
藥品化學製品香水	—	—	九、六一三・五	一〇、七八六・五
ペイント、ワニス	千封度	一、一〇一	四、三七二・五	七、二二四
普通石鹼	〃	四、〇七六	一二、〇五一・五	一一、〇九二・五
其他の石鹼	—	—	一〇五、八七六	一二三、二三一・五
總輸入貿易高	—	—	五七九、八六〇	六八八、五六一

主要商品別輸出額表

品目	單位	一九二八年度輸出數量	輸入價額（千法）一九二七年	一九二八年
冷凍肉	千封度	一二、四八九	九、四〇九・五	一五、六八二・五
罐詰肉	〃	五、六九六	八、五九三・五	一〇、五三一・五
豚脂	〃	二、一四〇	三、四六八	七、〇三八
米	〃	二五、三八二	一一、六七九	一二、〇六一・五
隱元豆	〃	二六、九六九	二五、〇二三・五	一八、四一一
カツサバ（生又乾）	〃	八八、一五〇	一三、〇〇五	一四、三八二
タピオカ	〃	四、八七八	四、一八二	四、一〇七・五
珈琲	〃	八、八九一	三六、六一八	三二、九二〇・五
丁香	〃	三、〇六五	二、八五八	一一、一一八
ヴアニラ實	千封度	一、五〇二	三七、五一〇・五	四五、六一九・五
粗糖	〃	九、三一八	五、三八〇・五	七、五九九
葉煙草	〃	二、四七三	一、八八七	三、三六六
皮革	〃	二三、二九五	六一、二二五・五	一〇五、四九三・五
蜜蠟	〃	一、二九六	六、三二六	八、九二五
ラフイア（一種の棕櫚の纖維）	噸	九、七五一	三七、九四八	六一、四〇四
其他の纖維	〃	二、〇四一	四、五三九	四、八一九・五
ラバンナ	千封度	五〇八	七九〇・五	七、二四九・五
帽子	千箇	三、二〇一	四、四八八	九、〇九五・五
雲母	千封度	一、四〇〇	六、六五五・五	八、七二一
石墨	〃	三〇、六三八	二九、五〇三・五	二一、五二二
採油用種子	〃	一二、二〇四	七、九〇五	七、二九三
イラン・イラン油（一種の香油）	〃	六一	八、九七六	一一、四四九・五
其他の產物	—	—	三四、〇四二・五	四〇、八二五・五
再輸出貿易額	—	—	一三、五六六	一三、五六〇・五
總輸出貿易額	—	—	三七五、〇三六	四八三、五九七

主要國別輸出入貿易額（一九二六年度）（單位千法）

	輸入	輸出
フランス	四八九、一〇五	四一九、三六二
佛領各地		
アルジエリー	四一、七四六	五四
レユニオン	一七、六二三	四〇、二五五
佛領インド	七、八七九	一〇
ソマリーランド	九〇六	二九四
其他	四七	八
イギリス	一〇、三五七	四三、九五四
モーリシアス	四、九五七	九、六九〇
英領インド	八、四二〇	六二一
南阿聯邦	七、一四〇	六一八
ザンヂバル	五二三	五八三
ニュー・ジーランド	—	七七

其他	八五八	八〇〇
ドイツ	一、三〇四	九、三四七
オランダ	五、〇二三	一〇
ベルギー	二、二九六	七〇
スイス	一、二二三	九〇
イタリー	九五三	一、五二四
アメリカ	二三、四二九	六、三〇〇
スウエーデン	一、四三三	六〇
ノールウエー	一、二四一	七八
エヂプト	八二八	七八四
中華民國	二四〇	一六一
其他	五八	二五
合計	五九二、六二三	五五五、八五七

第四章　本邦輸出補償制度とマダガスカルの取引事情

（一）本邦商人の振出した本邦爲替銀行買取輸出爲替手形で、支拂人に對する引受及支拂請求手續上の一般慣習に關し、フランス商法は悉くマダガスカルに於て適用せられるから、同地に於ける銀行は何れも同國商法第八編第一章の諸規定を適用するものである。

（二）商業手形の支拂に對するグレース・デーはないが、手形の期日が一般休祭日又は法定祝祭日に相當する時は、同地殖民地に於てもフランス本國商法の明文に依り、手形期日の延期を行ふことが出來る。

（三）手形の引受又は支拂拒絶證書作製等の手續は、同商法第一七三條同條以降及一六〇條竝同條以降に指示されて居る。

（四）手形附屬貨物到著の際、荷送人は一般に貨物を稅關より引取り或は倉入に對する必要な手續を履行しない。銀行は唯單に荷受人が貨物の引渡を承諾しない場合に、荷送人の正式の指圖に從ひ、是等の手續を履行する爲に兩者間を調停するに過ぎない。

（五）荷送人は原則として貨物に對する商業手形の引受拒絶又は仕拂不能の場合には、右貨物を處分することが出來る。但し右拒絶が手形支拂人に依り申告され又拒絶證書の條項で認められた場合、即ち註文品と現品との相違した時の如き取引紛爭に原因する場合は、其等商品を處分する爲に荷送人は鑑定書の作成を待つことを要し又は裁判に付する必要がある。

（六）マダガスカルの習慣に從へば、一覽拂又は一覽後定期拂の荷爲替手形は、貨物が陸揚港に到着しない內は仕拂又は引受をしない。一覽後定期拂として振出された此種手形の期限に關しては、右手形振出の日より起算するのである。

此習慣は一方に於て積荷が右積荷に對する商業手形竝書類を回送する郵船に同時に積込まれることが極めて少いから、右書類が積荷よりも早く仕向地に到着する場合を生じ、又他方アフリカ大陸の諸港に積荷を仕向ける必要上積換を行ふことあるに反し、商業手形は直接陸路目的地に發送されることがあるに原因する。是等の理由でマダガスカルの商人は、積荷が荷揚港に到着する迄荷爲替手形の引受又は仕拂を希望しない。

左にマルセーユ、マダガスカル間を航海する郵船に依り、現に直接連絡されて居る諸港名を擧げれば、マヂュンガ、ノシ・ベ、ディエゴ・スワレス竝タマタヴの四港である。

（七）マダガスカルに於ける本邦輸出手形の取立依賴取扱銀行は四箇所であるが、右は何れもパリに本店がある。即ち左の通りである。

La Banque de Madagascar（一九二五年十二月二十二日の法令に依り特許されたもの）　本店事務所　88, Rue de

Le Comptoir National d'Escompte de Paris	本店事務所 14, Rue Bergère à Paris.
Le Crédit Foncier de Madagascar	本店事務所. 14, Rue d'Athènes à Paris.
La Banque de l'Océan Indien	本店事務所 10, Rue de Châteaudum à Paris.

(八)マダガスカル宛振出の手形の額面金額は普通フランス貨であるが、商法第一四三條に依り外國貨に依つても何等差支ない由である。

第五章　關　稅

一　外國品に對する規定

佛本國の關稅制度と同一である。卽ち佛本國で最低稅率を享受する外國品は同島でも同樣で、本國で一般稅率を課せられて居るものは同島でも一般稅率を課せられるのである。右の外總督は行政會議の諮詢を經た後、行政規則の形式で特殊課稅法を定めることが出來る。

右特殊稅は一般稅率竝最低稅率の補則と看做され、增加係數を課することはない。最低稅率は商品が原產地國から直接に積替をしないで同島に送付された場合に適用するのである。但し最低稅率待遇を享ける第三國經由の場合は例外である。夫故本邦から商品を同島に輸入する場合は、本邦と同島間には直通航路がないから、最低稅率の適用を享けるには本邦から一旦佛國マルセーユ又は佛領ヂブチに送り、同地で同島行佛國船エム・エム船に積替へるの不便がある。

二　佛國品に對する規定

佛國品若くは佛國關稅を仕拂つた爲佛國品化した外國品で、直接同島に輸送され、原產地證明書を添付するものは無稅である。又外國品で佛國保稅倉庫から取出されたもの若くは關稅未拂の佛國通過品は、輸出國から直接送付された場合と同樣所定の關稅を仕拂ふのである。一時輸出許可に依り佛國から再輸出された商品に就ては、同島に輸入の際は當該品の製造に使用された原料に課せられる關稅を課する。但し右の原料若くは既製品夫自體が無稅品の時は此限りでない。

三　本島品に對する規定

同島產品で佛國へ輸入される場合は輸入稅を免除する。但し直接輸送され、所定の原產地證明書（稅關通過證若くは送付地稅關の發給した原產地證明書）の條件を具有する場合に限る。

第六章　交　通

同島の交通機關は頗る不完全であるが、最も重要な通路として若干の鐵道がある。卽ち首府を中心とし幹線二、支線一がある。何れも單線狹軌で、速力遲く且每日運轉しないが、文化產業の幼稚な同島では貨物の運搬、旅客の旅行に資する所が少くない。又道路は從來雨期には或は河身となり、或は泥濘膠を沒し到底通行するに堪へない。從つて內地旅行は乾燥時期に限られて居るが、近來政府に於て首府を中心とし、主要都市間の道路開通に力を用ひて居る爲、年々改良されつゝある。主要道路に當る處は雨期にも自動車を通ずる事が出來る。

第一節　鐵　道

現今同島には次の如き三線がある。何れも總督府の經營に係るもので、燃料は薪を使用し、速力遲く設備も甚だ不完全である。

イ、タナナリヴ—タマタヴ線　三六九粁

本線は同島東海岸の要港タマタヴと首府タナナリヴとを連絡するもので、一九〇四年十一月に起工、一九〇五年十月に竣工した。運轉は一週に二回である。

ロ、タナナリヴ—アンチラブ線　一五九粁

本線は首府タナナリヴと其南方にあつて、最も健康地として知られるアンチラブとを接續するもので、一九二四年に竣工した。アンチラブは風光明媚に、總督府所有の高壯な大ホテルがあり、ホテル附屬の温泉場もある。

ハ、モラマンガ—アラオトラ湖線　一六六粁

タマタヴ—タナナリヴ線の中間驛モラマンガとアラオトラ湖とを接續するもので、同湖附近は同島中最も豊饒な地域で、米作の盛な所である。

ニ、フイアナランツオア—マナカラ線

マナカラはマナンジヤリーの南方の小港で、一九二七年から六箇年間で完成する豫定で、目下建築工事中である。

以上の諸線に依つて一九二九年度中輸送した旅客數は一、二五四、〇〇〇人、貨物量は二八二、〇〇〇「メートル」噸で、之より得た總收入は三四、一四八、〇〇〇法であつた。

第二節　道路

同島の道路が總督府の手に依り自動車道路に改築されつゝある事は前述の如くであるが、現在完成した道路としては次の諸線がある。

イ、南部道路、タナナリヴを起點とし、アムバトラムビー、アンチラブ、アムボシトラ、アムボヒマスー、フイアナランツオアを經てアムパラヴアオに至る延長四七二粁の道路である。

ロ、マナンジヤリー道路、アムボヒマスーからマナンジヤリーに至る延長一七八粁の道路で、本線はヴオヒパラでフイアナランツオアに至る線（延長五一粁）と連絡して居る。

ハ、西部道路、タナナリヴを起點としアンカゾーブ、アンチアフ、アムボシトラ、マエブアンタナナを經てマナニカに至る延長三七二粁の道路である。但し本線はベチボカ河によりマジユンガ港に接續して居る。

ニ、アムブル岬道路、同島北方でディエゴ・スワレスとアムブル岬とを接續するもので延長約二〇〇粁である。

右の諸道路は同島の幹線道路の一部で總督府の建設したものであるが、何れも幅十六尺の舗礫道路で、自動車の運轉に適して居る。總督府は郵便遞送竝旅客運搬の爲自動車を運轉して居るが、道路の關係で容積及重量の過大な貨物は未だ運搬するだけの能力を有たない。尤も道路の完全なアムボヒマスー、アンチラブ間ですら自動車一箇月の貨物運搬力は六〇乃至八〇噸に過ぎない。賃銀も高率で一粁三法の割合である。

第三節　河川

同島の河川は東部地方では多く急流で交通し難ひが、例外として東部の海岸に沿ひ其內方にパンガラン又はアムパラナと云はれる運河があり、船舶の航行に適し、低地方の運搬に利益する所が少くない。此延長一三五粁と云はれて居る。

第四節　海路

イ、同島の遠洋航海に從事する船舶會社は左の通りである。

佛國エム・エム汽船會社、本社線はマルセーユを起點とし、ヂブチ、モムバサ、ザンヂバル、ダレサラムを經て本島の沿岸でマジユンガから北方に廻りタマタヴに出てレユニオン、モリシアスに赴き、夫より逆航してマルセーユに歸るもので、毎月二回の定期船を通じて居る。

ハーブル・ペニンシュラ汽船會社、本社船はハーブルを起點としボルドー、マルセーユを經て同島の北部を廻り、マナンジャリーを終航地として前路を逆航し、毎月一回の定期船を通じて居る。

以上の外不定期船も尠くない。

ロ、近海航路はエム・エム汽船會社が經營するもので、其航路に三線ある。即ち第一線は同島西海岸と南阿を二箇月に一回航行し、第二線はディエゴ・スワレスーコモール島ーザンヂバル間を二箇月に一回航海し、第三線はディエゴ・スワレスとダーバン間を二箇月に一回航行する。

一九二八年度に於て、海洋及沿岸貿易に從事する船舶のマダガスカル島諸港に入港した數は合計六、一一九、總噸數三、一九〇、〇〇〇噸、積卸貨物量二一三、三七八「メートル」噸で、出港した船舶數は六、一八九、總噸數三、二一三、〇〇〇噸、積込貨物量二六六、六九五「メートル」噸であつた。尙入港船舶總噸數の中二、七四一、〇〇〇噸はフランス船、二四四、〇〇〇噸はイギリス船、一三七、〇〇〇噸はノルウエーの船舶であつた。

タマタヴ、デイエゴ・スワレス及マジュンガの三港に、一九二九年度中寄港した船舶の噸數合計は一、四一八、〇〇〇噸で、船荷としては貨物一一二、八二七「メートル」噸、石炭四五、二〇四噸を積んで居た。又前記の三港を出港した船舶の總噸數は一、三九八、〇〇〇噸、船荷としては貨物一二〇、〇三〇「メートル」噸、石炭三〇、七二七噸を積んで居た。

一〇 ニアサランド事情

第一章 概況

面積及人口竝商況其他

英國の保護領たるニアサランドの面積は三七、八九〇平方哩で、人口は概略左の通りである。

歐洲人	二、〇〇〇
アジア人	一、〇〇〇
土人及其他	一、三〇〇、〇〇〇

同領では一般に英貨が流通し、鐵道に依つて葡領東阿のベイラ港と連絡し、鐵道會社の中最も重要なものはニアサランド鐵道會社である。

一九三〇年度のニアサランドの商況は一般に不良であつたが、同地の商況は煙草市場に左右される事が多いので、此不況も既に豫想されて居た所である。夫故右の不況は同地居住外國人の消費に當てられる商品の輸入數量に影響を及ぼした。茶及サイザルの輸出量は可成に增加したが、其市價が世界的に下落して居る爲、右增加もニアサランドには何等の利益をも齎さなかつた。

斯くの如き狀態にあつて唯一つ埋合はせとなるのは、煙草及棉花の收穫より受ける土人の收入が增加した事である。

同地在住歐洲人の消費用商品の輸入額の割合を、總輸入貿易額の上から見ると、一九二九年度の五割七分から三〇年度には五割二分に減少した。然るに土人の消費に當てられる商品の輸入額は三割八分から四割三分四厘に增加して居る。

ニアサランドの富源は二つあつて、其中の一は輸出貿易他の一つである。

一九二九年度のニアサランド產物の產額は左の通りである。

品目	數量
珈琲	四噸
煙草	一〇、三四〇、三七封度
茶	一、七五五、四二九〃

而して一九三〇年度の推定額は左の通りである。

棉花	二、三四袋
サイザル	一、一〇〇噸
護謨	一三一、四〇五封度

珈琲	三、七五〇、〇〇〇封度	棉花	七、五〇〇袋
煙草	二、〇〇〇、〇〇〇〃	サイザル	一、二五〇噸
茶		護謨	一五〇、〇〇〇封度

ムランジユ及チヨロ地方に於ける茶栽培地、北ニアサ地方の棉花栽培地は絶えず擴張されて、同地の農作物植付面積に新たな地域を加へて行つた。

降雨はあつたが一月中（一九三〇年）の旱魃はムランジユ地方では茶の新芽に、中央部では煙草の植付に多少惡影響を與へた。

土人栽培棉花は將來有望で、現に一九三〇年度には各栽培地とも增收を告げ、品質も良好である。然し市價の下落は悲觀されて居る。

珈琲に對する一般の注目は多少增加した程度に過ぎない。

農作物は適度の收穫をあげたが、市況の沈滯と未濟借入金の爲、單に前年以來の市價の暴落を防ぐに役立つたに過ぎなかつた。鐵道がニアサ湖に向つて北に延長されゝば、同地は一層活況を呈するものと思はれる。常に仕入過剩の愚を繰返へして居るインド人商人は、平常の狀態にあつてすらも將來の貨幣の流入を見込んで相變らず必要以上の商品の仕入を行つて居る。一般に行はれて居る信用期限も之を防止するに役立たないのである。

鐵道の延長工事が着手されなかつた爲、雜貨市場は滯荷甚だしく、資金も手薄になり原價を割つて販賣するに至り、信用も濫用され、經濟界の障害となつた。斯くの如き事情は保稅倉庫への保管の要求が非常に多い事に依つても明瞭である。

一九三〇年は同地經濟界不況の第三年目で從つて相當重大な時であるが、農作物の收穫が良好で且既に底を突いた觀のある市況が好轉したならば、經濟界の回復も迅速に起るものと思はれる。

然し斯くの如き長期に亘る不況は一般商取引を一層困難ならしめるが、同地居住の歐洲人も、曾て戰時中經驗した樣な法外な金儲は全く容易でなく又栽培事業も商取引も過去に於て投じた總費用を償ふ事は今日不可能である。斯くして歐洲人の投資も餘儀なく差控へる事になつたのであるが、是に反し生活程度及一般的條件の相違した土人は漸次生計が豊かになる樣に見受けられる。

一九三一年度に豫想されて居る新鐵道合同計畫は、重大な影響を同地經濟界に及ぼすことは疑ひない。ザムベヂ河架橋計畫は一九三一年度に實行される筈であるが、政府は關係鐵道會社に多額の費用を貸付ける筈で、一九三一年度に必要とする支出額は未だ計算されてないが、概略左の通りである。

	金額	費目
一、	一、三二八、〇〇〇磅	架橋工事費
二、	三六一、〇〇〇磅	同上附屬工事費
三、	九八〇、〇〇〇磅	北部鐵道延長工事費
四、	一五九、一六九磅	中部アフリカ鐵道及シヤイア高地鐵道改良工事費
五、	三〇〇、〇〇〇磅	ザムベヂ橫斷鐵道改良工事費

第二章　外國貿易——一九二九年

第一節　概況

國內消費輸入額及輸出額及通過貿易額（但し、政府輸入品及正貨を除く）の合計を以て貿易全額とすれば、一九二九年ニアサランドの貿易全額は約百五十二萬六千磅で、前年に比し約二十四萬一千磅卽ち一割三分六厘の減退である。之に政府輸入額及正貨輸入額を加算すれば一九二九年は約百五十八萬八千五百磅、一九二八年は約百八十五萬四千磅となる。右減退の主な原因は(一)資本的性質を有する輸入品の減少、(二)煙草輸出量の減退、(三)輸出農產物の市價下落、(四)通過貿易の不振等である。

○貿易額の前年との比較は左の通りである。（單位千磅）

	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し增減	
輸入額	八〇六・〇	九三一・四	（一）	一二五・四
輸出額	六八〇・八	七三二・四	（一）	五一・六
計	一、六四三・八	一、八五四・三	（一）	二一〇・五

註　輸入額には正貨及金銀地金及政府用品輸入額を含む。輸出額には再輸出額を含む。

最近三箇年の同國輸出入額を輸入及輸出に分けて示せば左の通りである。（單位千磅）

年次	輸入	輸出
一九二七年	九三八	九六一
一九二八年	八六九	七六一
一九二九年	七四四	六三五

第二節　輸入

○輸入額（單位千磅）

	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し增減	
商品輸入額	七四三・五	八六九・五	（一）	一二六・〇
正貨及金銀塊	三五・二	二五・六	（+）	九・六

○商品輸入額（單位千磅）　品種別

品種	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し增減	
第一類、食物、飲料及煙草	六五・一	七〇・五	（一）	五・四
第二類、原料	一三・四	一七・七	（一）	四・三
第三類、製品	六一八・五	七三三・八	（一）	一二五・三
第四類、雜	四六・五	四七・五	（一）	一・〇
計	七四三・五	八六九・五	（一）	一二六・〇

第一類、食料、飲料及煙草　食料、飲料及煙草各別の輸入額は左の通りである。

品目	一九二九年（磅）	一九二八年（磅）	一九二八年に比し增（+）減（一）（磅）	
食料	四六、三五九	四六、〇七五	（+）	四五四

第二類、原料品　原料品の輸入は石炭、木材竝製品及茶種子の三種に過ぎない。一九二九年輸入額は次の通りである。

品目	一九二九年（磅）	一九二八年（磅）	一九二八年に比し增（+）減（一）	
石炭及コークス	三、〇九八	二、三〇三	（+）	五九六

第三類、製品　一九二九年に於ける製品（Manufactured Article）の國內消費輸入額は、各類國內消費輸入額合計の八割三分を占め、內輸入額の最も多いのは「被服、織物其他繊維製品」で、「金屬、同製品、機械及乘物類」が之に亞いで居る。

品目	輸入額	輸入總額に對する百分率
被服、織物其他繊維製品	三四四、九〇〇磅	四六％
金屬、同製品、機械及乘物	一四〇、六三三磅	一九〃
其他製品	一三二、九七七磅	一八〃
計（製品）	六一八、四九九磅	八三〃

輸入製品中一九二八年に比し輸入額の增加したのは、農業用機械器具、綿製品、自動車發動油及家具の四種に過ぎない、他の品目は何れも輸入額の減退を示した。

一九二九年製品輸入額の品種別內譯は左の通りである。

品目	一九二九年（磅）	一九二八年（磅）	一九二八年に比し增減（磅）	
陶磁器及セメント	四、二四	六、二三三	（一）	二、一〇九
硝子及硝子器	一、六二一	一、六二三	（一）	三六一
飲料	一五、一四九	一九、五〇三	（一）	四、三五四
煙草	五、四二一	四、八八四	（一）	一、四七三
計	六五、〇九〇	七〇、四六二	（一）	五、三七二
食料、飲料及煙草	六五、〇九〇磅			九〃
原料	一三、四六八磅			二〃
雜	四六、四九三磅			六〃
合計（國內消費輸入額）	七四三、五四〇磅			一〇〇〃
金屬、同製品機械及車輛				
鐵、鋼及金屬製品	三一、六三九	五七、八九一	（一）	二六、二五二

農業用機械器具	一五、〇〇五	二二、三二一	(+)	二、七八四	
機械、其他	二一、三五〇	二六、二二三	(一)	四、九六三	
乘物及部分品	六三、〇三二	八三、九七七	(一)	二〇、九四五	
鐵道材料及車輛	八、七九三	五八、二〇六	(一)	四九、四二三	
銑	八九三	一、六二一	(一)	七一八	
計	一四〇、六二三	二四〇、一二〇	(一)	九九、三〇八	
織物、其他繊維製品、被服					
綿製品	二六九、九八七	二六八、〇二六	(+)	一、九六二	
羊毛製品	一、二四一	二、三六八	(一)	一、三七	
絹製品	九七	二四六	(一)	一四九	
リンネル、ヂュート、ヘムプ製品	八、八六二	一七、六二五	(一)	八、五三	
被服及小間物	五一、九二五	五九、〇二一	(一)	七、〇九六	
其他繊維製品	二二、七九七	二三、三二一	(+)	二、七八四	
計	三四四、九〇〇	三二〇、四〇〇	(一)	四、九六三	
自動車發動油	四〇、三七〇	三五、〇四〇	(+)	五、三〇〇	
其他油類	一四、四九九	一四、七二一	(一)	二七三	
家具	七八一	五九九	(+)	一八一	
鞣皮及製品	三、六四一	三、九三〇	(一)	二五九	
石鹸	七、四九六	九、六二七	(一)	二、一三一	
紙類、文房具、インキ其他	一〇、九九八	一二、三六四	(一)	三六六	
醫藥、化學製品、肥料、染料、塗料	二三、三二七	一九、九三六	(+)	三、三六九	
其他雜	二六、二三一	二九、八〇三	(一)	三、三五三	
合計	六一八、四八九	七三三、七九九	(一)	一二五、三一〇	

商品の國別輸入額は左の通りである。

國名	一九二九年 金額(磅)	百分率	一九二八年 金額(磅)	百分率
英國	二六九、七〇三	三六・二八	三四三、三八三	三九・四九
英領				
南阿	四一、九三五	五・六三	三九、一九三	四・五一
印度	一〇〇、六八	一三・五三	一〇〇、一三三	一一・五一
南ローデシア	一四、八四四	一・九九	二九、七二七	三・四二
北ローデシア	一、〇八九	〇・一五	八四一	〇・一〇
濠洲	一、六三〇	〇・二三	一、五七一	〇・一八
加奈陀	三、八四四	〇・五二	二、三九四	〇・二八
其他英領	一、七八八	〇・二五	一、六九八	〇・一九
計	一六五、八〇八	二二・二九	一七五、五七七	二〇・一九
外國				
葡領東阿	一三〇、七六四	一六・二四	一二九、一〇八	一三・七一
佛蘭西	七、四二一	一・〇〇	五、八〇八	〇・六七
白耳義	四、三〇三	〇・六一	三八、五六六	四・四四
和蘭	一八、三〇一	二・四九	三三、八六一	二・六三
伊太利	二、八八〇	一・七三	一五、七四七	一・八一
其他外國	八、三七〇	一・一一	一二、二二六	一・二七
計	三〇八、〇三九	四一・四二	三五〇、五二三	四〇・三二
合計	七四三、五四〇	一〇〇・〇〇	八六九、四六五	一〇〇・〇〇

一九二九年ニアサランド保護領に對する主要供給國は英國、蘭領東阿、印度及獨逸で、是等四國よりの輸入額合計は商品輸入額總計の七割六分六厘即ち其四分の三以上を占めて居る。之に亞ぐのは南阿、米國、日本、和蘭、南ローデシア、伊太利及佛蘭西等である。

第三節　輸出

○輸出額（單位千磅）大別

	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し増減	
領内産物	五八九・二	六五五・七	(一)	六六・五
再輸出品	九一・六	五六・七	(+)	三四・九
計	六八〇・八	七三三・四	(一)	五二・六

○領内産物輸出額類別

品種	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し増減	
第一類、食料、飲料及煙草	四八三、〇四四	五七二、八五〇	(一)	八九、八〇六
第二類、原料	一〇六、六三三	九八、九五三	(+)	七、六八一
第三類、製品	—	—		—
第四類、雜	五〇六	四、八六六	(一)	四、三六〇
計（商品）	五九九、一八三	六七五、六六八	(一)	八六、四八五
正貨及金銀地金	—	—		—
合計	五九九、一八三	六七五、六六八	(一)	八六、四八五

○領内産物輸出額品目別

品目	一九二九年（磅）	一九二八年（磅）	一九二八年に比し増減（磅）	
煙草	四〇三、六七八	四九六、五六一	(一)	九二、八八三
茶	七四、三八三	七三、五九九	(+)	七八四
棉花	六二、六六一	五八、二六四	(+)	四、三九七

サイザル	三四、四六五	二九、八一四	(+)	四、六五一
護謨	三、三四五	二、四七六	(+)	八六九
珈琲	三、三九	一、五四三	(+)	一、六九七
皮革	一、三三	四四三	(+)	八九〇
象牙	一、二三	一、九三五	(一)	七二三
棉實	一、七二六	—	(+)	一、七二六
蜜蠟	一〇三四	二、三〇五	(一)	一、二〇八一
其他	二、一三八	八、五四〇	(一)	六、四〇三
計（商品）	五八九、一八三	六七五、六六八	(一)	八六、四八五

ニアサランド産物中主要な輸出品は煙草、茶、棉花及サイザルの四種で、是等四種の一九二九年輸出價額合計は領内産物輸出價額總計の九割七分を占めて居る。内煙草六割八分五厘、茶一割二分六厘、棉花一割零分六厘、サイザル五分三厘である。

領内産物輸出額國別　一九二九年中ニアサランド産物で英國に輸出された量は一千九百九萬封度（八千五百二十二噸）其價額五十八萬五千磅である。前者は輸出總量の九割九分三厘一毛に當つて居る。英國に次ぐニアサランド物産の輸入國は南阿及蘭領東阿で、一九二九年に於ける前者への輸出額約二千三百磅、後者への輸出額は約一千二百磅である。

第四節　再輸出

一九二九年の再輸出額は約九萬一千六百磅で、一九二八年に比し約三萬四千九百磅の増である。

再輸出額の類別的内譯は左の通りである。

類別	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し増減	
第一類、食料、飲料及煙草	—	—	—	
第二類、原料	—	—	—	
第三類、製品	—	—	—	
第四類、雜	三六、二七七	三一、〇八九	(+)	五、一八八
計（商品）	三六、二七七	三一、〇八九	(+)	五、一八八
第五類、正貨、金銀地金	五五、二九	二五、五七	(+)	二九、四三
合計	九一、九六六	五六、六八六	(+)	三四、九一〇

第五節　通過貿易額

一九二九年に於て本領接壤地域（蘭領東阿、北ローデシア及タンガニカ）に對する通過貨物として輸入せられた貨物は一千二十三噸、價額約七萬七千五百磅である。之は一九二八年に比し百七十四噸、價額約一萬五千八百磅の減である。

一九二九年に於て本領接壤地域の産物で通過貨物として輸出せられた貨物の量は一千二百四十五噸、價額七萬九千五百四磅であつて、一九二八年に比して二十九噸を増加したが、價額は約一萬七千七百磅減少した。

第六節　關稅

一九二九年四月改正關稅々率が施行せられ、一般従價稅率は一割七分に引上げられた。而して古衣類（Secondhand Clothing）及加香酒精（Perfumed Spirits）に對する輸入稅は従價二割五分に、飾玉（Beads）、飲料（Beverages）、寶石類、特許藥及家傳藥（Patent and Secret Medicines）、香水等に對する輸入稅は従價二割に夫々引上げられた。

従價一割を適用される品目は、従來建築材料として輸入される貨物に限られたが、新に保藏に耐へ得る樣加工した食料品（Provisions）タイヤ及チウブ、計量器等を増加した。

従量稅率表も増補追加せられ、或品目では増率を見た。新に追加せられたものは左の通りである。

ギイ	封度に付	一志	
燐寸	箱の「グロス」に付	三志	
鹽	「ハンドレッド・ウエイト」に付	一志	
石鹸、（普通）	同	七志	
茶	封度に付	六片	
珈琲	同	六片	

又ブランデイ、ウイスキイ、ラム及ヂンに對する輸入稅は「プルーフ・ガロン」に付二志を増率して三十二志に、又紙卷煙草に對する輸入稅は封度に付二志六片を増率して七志六片に夫々引上げられた。

自動車（貨物）、農業機械及器具竝開拓用として輸入される機械及其他の物品は無稅である。又乘用自動車で一五馬力九を超えないもの、旅行者携帶品（但し、價額百磅以内とす）、旅行者の乘用自動車、銃等は輸入稅を免除せられる。

輸入品(例外あり)及通過輸入品に對しては道路、河川及埠頭稅として從價の三分を、輸出品及通過輸出品に對しては同じく從價二分を課徵せられる。

從來、象牙、河馬齒及犀角に對し賦課した輸出稅は廢止せられた。

第七節　運　輸

一九二九年中ニアサランド保護領に發着した貨物の重量は三萬二千三百七十二噸で、內、二萬九千五百四十九噸はベイラ港經由即ち鐵道に依り、二千八百二十三噸は水路に依り輸送せられた。前年に比し一千六百五十三噸の減少である。

輸入貨物二萬七百四十一噸の內、一萬七千九百十八噸はベイラ港より鐵路に依り、又一千七百二十六噸(主として石炭及砂糖)はザムベヂ河諸港より河船便にて中央阿弗利加鐵道の始點たる チン・デイオに輸送せられ、それより鐵道便でニアサランド保護領に輸送された。又一千九十七噸(主として鹽)は河船に依り、直接ザムベヂ河の支流上に在るニアサランド保護領の輸入港、ポート・ヘラルドに輸送された。前年に比しベイラ經由輸入貨物は二千三百二十噸を、又ザムベヂ河諸港發チン・デイオ經由貨物は五百八十四噸を減じたが、河船便直接輸入貨物は十噸を增加し、差引二千八百九十四噸の減少である。

輸出貨物一萬二千三百四十三噸の內、ポート・ヘラルドより河船便で、トランス・ザムベヂア鐵道の終點ムルラサに輸送された七百十二噸の貨物を除き、殘餘一萬一千六百三十一噸は全部鐵路に依り出境した。此鐵路輸送量は前年よりも一千二百四十一噸の增加である。

シレ河可航期間、即ち一月より七月に至る期間に、ポート・ヘラルドを發着したもの、輸船三十七、ボート十三である。

ニアサ湖上運輸貨物は一千八十六噸、一九二八年に比し五十五噸の減少である。

第八節　對本邦貿易狀況

一九二九年にニアサランドに入境した本邦貨物の價額は總計二萬六千百七十八磅で、前年に比し一萬二千三百二十六磅の增加、增加率八割九分である。

右の貨物の內ニアサランドに輸入せられた貨物の價額は二萬五千百六十九磅、北ローデシアに輸入せられたもの一千四磅、蘭領東阿に輸入せられた額は五磅である。

ニアサランドの自國輸入に係る本邦品中、主要なものは綿反物及肌衣で、此兩品目の輸入額は合計二萬二千百五十六磅で本邦品輸入總額の八割八分を占め、特に綿反物の輸入額は嶄然頭角を拔出で其額一萬八千五百六十一磅に上り、本邦品輸入總額の七割二分を占めた。而して其數量は約九十二萬三千碼で、之は各國よりニアサランドに輸入せられた木綿反物總價額の九分八厘に當り、一九二八年に比すれば數量は約五十二萬六千六百碼、價額は一萬七百七十磅の增加である。增加率前者は十三割三分、後者は十三割八分である。

肌衣は輸入量一萬三千餘打、價額約三千六百磅、各國より輸入せられた本品輸入價額の約六割を占め、一九二八年に比し四千四百打の增加を示し、增加率は五割である。

ニアサランド經由、北ローデシアに輸入せられた唯一の本邦品は矢張木綿反物で其價額約九百五十磅である。

又一九二九年中ニアサランドに本邦より直接入境した本邦製綿反物の數量は九十七萬三千碼なるも、此外に蘭領東阿より再輸出せられた本邦品が相當あるものと考へられる。

一九二九年中ニアサランドより、又は同地域を通過して本邦に輸出せられた貨物は皆無である。

輸入(本邦より)　一九二九年本邦よりの輸入額は二萬五千百六十九磅、ニアサランド商品輸入總額の三分四厘に當る。輸入額順位は米國に亞ぎ第七位、一九二八年輸入額に比し一萬二千四十二磅の增。增加率約九割二分に當つて居る。

本邦よりの輸入品は「製品」に限られて居る。其品目及輸入額は左の通りである。

品目	單位	一九二九年 數量	一九二九年 磅	一九二八年 數量	一九二八年 磅
ホローウエア及炊事具	（ハンドレツド・ウエイト）	一九一	四二二	六六	一五六
ホローウエア以外の金物類	（同）	—	—	五	一三
陶磁器	（同）	—	—	七	一八
硝子器	（同）	—	—	七	一八
綿反物	（碼）	九二三、四二三	一八、五六一	三九六、八三〇	七、七九一
絹製品	（ハンドレツド・ウエイト）	二	六五	—	一七
織物其他	（同）	二五	二三九	二七	二五八
肌衣	（打）	一三、〇三七	三、五九五	八、九四六	三、二六四
被服、雜	（ハンドレツド・ウエイト）	—	—	一四	二二〇
文房具	（同）	二	二五	—	—
燐寸	（同）	四八	一三二	四三	九六
製品、雜	（同）	一二四	二、一三〇	七一	一、二八四
合計		—	二五、一六九	—	一三、一二六

通過輸入額（本邦より）　一九二九年中北ローデシア及葡領東阿への通過貨物としてニアサランドに入港した本邦貨物の價格は一千九磅で、一九二八年に比し二百八十三磅の増である。内北ローデシア向貨物の價額は千四磅で、葡領東阿向は僅に五磅である。一九二八年に於ける本邦品通過貨物は全部北ローデシア向のもので、葡領東阿行のものは皆無であつた。

本邦品通過貨物の大宗は綿反物で、一九二九年には九百四十六磅、一九二八年には六百七十一磅に上つた。綿反物以外の品目は殆ど謂ふに足らない。本邦品の通過額は左の通りである。

仕向先及品目	單位	一九二九年 數量	一九二九年 磅	一九二八年 數量	一九二八年 磅
北ローデシア					
ホーローウエア	（ハンドレツド・ウエイト）	二	一三	四	一六
綿反物	（碼）	四九、六八〇	九四六	三三、四六五	六七一
絹製品		—	—	—	二六
製品、雜	（ハンドレツド・ウエイト）	二	四五	—	一三
計		—	一、〇〇四	—	七二六
葡領東阿					
燐寸	（ハンドレツド・ウエイト）	二	五	—	—
合計		—	一、〇〇九	—	七二六

一九二九年中ニアサランドを經由して北ローデシアに輸入せられた本邦製木綿反物は約四萬九千七百碼、價額九百四十六磅で、一九二八年に比し碼數は約一萬六千二百碼、價額は二百七十五磅の増加である。増加率前者は四割八分五厘、後者は四割一分である。

第三章　商取引方法と信用狀態

ニアサランド輸入貿易國中首位を占めるものはイギリスで、一九一四―一五年度には總輸入貿易額の七割七分一厘を占めた。然し其後諸外國の活動に壓せられて一九二八年には三割九分、一九二九年には三割六分、一九三〇年には三割二分七厘と漸次減少した。右の様に同領に對するイギリスの輸出額が減少したのは、イギリスに於ける高い生活程度と從つて生産費も割高な爲、他國の商品と比較して一般に高價である事が一原因である。夫故價格に就て十分研究する事が必要であるのは勿論、見本の展覽を計つて取引見積を容易にし、他方地方的の要求を直接知る事に努めねばならない。一般の需要喚起に必要な巡回宣傳も屢々する必要がある

同地に於ける直接宣傳の効果は測り知れないものがある。

同領で現在行はれて居る信用期間は左の通りである。

イギリス	到着後一二〇日拂の外各種の方法が行はれて居るが、此一二〇日拂は極めて稀で多くは九〇日拂が實行されて居る。
アメリカ合衆國	主として九〇乃至一二〇日拂
オランダ	一般に九〇日及一二〇日拂
ドイツ	一般に一二〇日拂
日本	一二〇日拂
南ローデシアに於ける大商店	一二〇日乃至二四〇日拂

右の様な長期の信用期間は多量の商品を引受け、差當り需要の無い商品をも仕入れさせると共に、他方小賣業者をして適當な値段で過剩の商品を處分し得せしめて居る。

手形の支拂延期も相當頻繁に行はれて居るが、之は運搬、作物及市場に關する諸條件が安定を缺いて居る結果投機的仕入が行はれ、從つて手形の支拂延期も問屋にとつて絶對的に必要となつてしまつたのである。永久的な信用及供給關係を結んで居る商店間を除いては、此支拂延期數も一層多い樣に思はれる。

現在の所右の樣な長期の信用期間を制限しやうと努力して居る傾向も見當らない。寧ろ或種の場合には此信用期間の長さが取引を成立せしめるか否かの最大條件となつて居る。國の如何を問はず合理的な信用期間が必要であるが、市場割込み及び維持の爲の競爭の一手段として發生した右の方法は、商取引組織を阻害することが甚だ多い。

第四章　鐵道狀況

新たにブランタイア、ベイラ間に開始された一週二回の旅客列車の運轉は、今迄三十六時間の所要時間を約二十四時間に短縮し、寢臺車は今の所ザムベヂ橫斷鐵道にのみ設けられて居る。ブランタイア、ポート・ヘラルド間には一週一回宛土人輸送列車を運轉して居る。

一九三〇年度中サイザル、落花生、玉蜀黍の鐵道運賃は引下げられたが、右の樣な低運賃は生産を刺戟するものと思はれる。積換地點に於ける河川の條件は常に甚だしい不安の種となつて居るが、ザムベヂ河に沿ふ多數の貨物積込地は時に應じて利用されて居る。

シヤイア高地鐵道は既に約三五哩に亘つて從來の四一封度二五の軌道と六〇封度のものと置換へた。ブランタイア、チン・デイオ間には新たに電信線が架設された。既に一等車二臺及土人用客車三臺が購入され、機關車六臺、無蓋の鋼鐵ボギー車二〇臺を購入中である。今日鐵道全體に亘つて一般に石炭が使用されて居る。ニアサ湖に向つて北に延長する工事は局部的に各鐵道會社に依り實施される事になつて居る。各區域毎の詳細な調査は既に行はれて居る。

シヤイア高地鐵道と中央アフリカ鐵道との合併に關しては政府と交渉中であるが、新會社はシヤイア高地鐵道の事業及中

第三編　南部地方

一　南阿聯邦

第一章　一般概況

南阿聯邦の總面積は四七一、九一七平方哩で、此内譯を示すと、ケープ・オブ・グツドホープ州二七六、五三六平方哩、ナタール州三五、二八四平方哩、トランスヴアール州一一〇、四五〇平方哩、オレンヂ・フリー・ステート四九、六四七平方哩である。

以上四州に於て同時に人口調査の行はれたのは一九〇四年が最初で、次表は其以後に行はれた調査の結果を比較したものである。

年次	總合計	歐洲人數	其他	歐洲人 男	歐洲人 女	歐洲人以外の人種 男	歐洲人以外の人種 女
一九〇四年	五、一七五、八二四	一、一一六、八〇六	四、〇五九、〇一八	六三五、一一七	四八一、六八九	二、〇四七、一一八	二、〇一一、九〇〇
一九一一年	五、九七三、三九四	一、二七六、二四二	四、六九七、一五二	六八五、一六四	五九一、〇七八	二、三八四、二二八	二、三二二、九二四
一九一八年	—	一、四二一、七八一	—	七二八、八六六	六九二、九一五	—	—
一九二一年	六、九二八、五八〇	一、五一九、四八八	五、四〇九、〇九二	七八二、〇三五	七三七、四五三	二、七五四、九五七	二、六五四、一三五
一九二六年	—	一、六七六、六六〇	—	八五六、九一八	八一九、七四二	—	—

一九二一年度の非歐洲人人口の中四、六九七、八一三人はバンツ族、一六五、七三一人はアジア人、五四五、五四八人が以上の外の種族であつた。

一九一一―二一年の總人口增加の割合は、南阿聯邦全体から見ると約一割六分、各州別に見ると、ケープ州約八分五厘、ナタール州一割九分七厘、トランスヴアール州二割三分八厘、オレンヂ州一割九分であつた。

同期の南阿聯邦全体から見た歐洲人の增加率は一割九分餘、非歐洲人の增加率は一割五分餘であつた。一九二一年度に於ける總人口對歐洲人の割合は二割一分九厘であつた。

一九二九年南阿聯邦には相矛盾する經濟現象が起り、同年度末には惡影響を殘す事となつた。即ち農產物は豐作であつたが、此中輸出向けの產物の世界の相場が安い爲豫期した程の收入が得られず、從つて一九二九年下半期には農村の信用狀態は益々不良となるに至つた。

鑛業界は依然として活況を呈し、金產額は一の記錄を作り、此外の鑛產物の產額は可成に增加し、殊にアスベストの產額が增加した。ダイアモンドの市場は前記年度の後半になると甚だしく狹められるに至つた。

工業界は家具の生產を除き何れも良好な狀態を維持し、建築界も新記錄を作る程であつた。多額の輸入貿易の爲銀行の貸出金は非常に增加し、輕便な船舶に依る貨物輸送設備及自動車による輸送の增加は鐵道收入を著しく減少せしめた。

第二章　經濟概況――一九三〇年

一九三〇年は農、工、商業全般を通じ南アフリカ聯邦では從前にない難澁な年であつた。天候關係は比較的良好で農產物は增收を見たが、農產物價格の世界的下落は輸出量の增加にも拘らず、却つて輸出價格の低減を見るに至つた。一九三一年二月十一日大藏大臣の議會に於ける說明から見ると、一九二四年の羊毛輸出量は一億七千四百萬封度、一封度の平均相場一志九片として、總額千五百七十萬磅であつたものが、一九三〇年には輸出量二億七千五百萬封度、一封度平均相場七片半、總額八百五十萬磅、即ち輸出量に於ては一億封度を增加したが、收入は約半減となつた。又一九二四年皮革類の輸出量は六

千八百萬封度、價格三百十五萬磅であつたものが、一九三〇年には輸出量七千七百萬封度、價格二百十一萬四千磅、玉蜀黍粉の如きも一九二四年輸出量十一萬四千封度(五萬七千袋)、價格三十八萬七千磅であつたものが、一九三〇年の輸出量は七十萬袋價格三十萬磅、何れも價格の大減退を示して居る。

一九三〇年南アフリカ重要輸出物産である羊毛、モヘア、玉蜀黍、皮革、砂糖、ワットル・バーク等の輸出總額は千七百萬磅と見積られ、前年の二千三百七十六萬磅、一九二八年の二千九百四十萬磅に比すれば著大な減退である。右輸出額の減縮に伴ふ農家の困窮は想像以上で、現下の農産物相場では農家の大多數は缺損をして生産を持續しつゝある有樣である。只同國は世界主要の金産國なる點で強味を有すと謂ふべきである。ダイアモンド工業も亦甚だしい不況を示し、前年に比し六百五十萬磅の輸出減を見るべしと想像される。其他の鑛業、石炭、銅、錫、アスベスト等に付て見るも價格及生産高共に減退した。マンガニース工業は未だ創業期に在るも、南阿鑛業界では依然重要な地位を占め、一九三〇年六箇月間の輸出高は六萬四千六百四十八磅に達し、其鑛石は品質優良な點で消費者に滿足を與へて居る。要するに工業生産物は一九二九年のレベルを維持することは不可能であつたが、農家の購買力を賴みとする商業よりは良好であつたと謂ひ得る。

一九三〇年度の輸入大減退の結果、輸入業者の在荷品薄となり、近い將來に景氣の回復を期待することは不可能であるが、漸進的買氣の擡頭に伴ひ、輸入業者筋よりの需要の喚起を見るに至るべきは想像に難くない。要するに南アフリカの狀況は他國の如き甚だしい不況に在るものとは言ふべきでない。

一九三〇年の外國貿易はバークレー銀行の調査に依れば輸入六四、〇八九、八四二磅、輸出七四、五三〇、六九六磅で、前年に比し夫々一九、三六五、六一二磅、六、五四八、二六五磅の減少と見積られる。即ち輸出に於て約六百五十萬磅の減退を見たが、輸入では約二千萬磅の大減退を示すから、貿易バランスは前年より好結果を齎らすこゝなるであらふ。然し乍ら之に伴ふ輸入稅の減收より生ずる國庫の窮乏は看過出來ないことである。

第三章　外國貿易狀況——一九二九年

第一節　貿易額

一九二九年南阿聯邦の貿易額は左の通りである。(單位千磅)

	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し增減
輸入額	八三、四七三	七九、一二四	(+) 四、三五九
輸出額	九五、八三〇	九四、五六〇	(+) 一、二七一
貿易額	一七九、三〇三	一七三、六八四	(+) 五、六一〇

註　(イ)輸入額には政府輸入額及正貨輸入額を含む。
(ロ)輸出額には再輸出額及正貨輸出額を含む。
但し船舶用品價額(二、〇二一、〇〇〇磅)を含まない。

一九二九年に輸入の爲に南阿聯邦が海外に支拂つた諸費用(保險料、運賃其他)は約六、六五五、〇〇〇磅である。南阿聯邦が海外借入金に對する利子、海外資本に對する配當金、輸入に要する船賃、保險料等として年々海外に支拂ふ金額即ち無形輸入額は大體二千四百萬磅と推定される。今此內より前記輸入の爲に支拂つた船賃、保險料其他の諸費用六百六十五萬五千磅を差引き、殘額千七百三十四萬五千磅は有形的輸出入貿易額のバランス及海外借入金等に依つて決濟されねばならない。然るに一九二九年の出超額は一千二百三十五萬七千磅であるから差引約五百萬磅は海外借入金に依つて決濟されるべき譯だが、一九二九年は約五百萬磅見當の輸入超過となつた。

右輸入超過は一九二九年下半期の輸出農牧産物(羊毛、モヘヤ、皮革、玉蜀黍、生果、砂糖、ワットル・バーク)の値下と相俟ち、一九二九年末期に於て金融梗塞となつて現はれ不況來を憂懼されたが、政府は之を緩和する目的で一九三〇年三月倫敦で六百萬磅の起債を試み成功したから、一九二九年度の海外拂殘額は兎に角之に依り決濟される譯である。

前記金融梗塞と農家の財政不如意の爲、一九三〇年前半期の輸入減退は必然の勢だと觀測されて居る。

第二節　輸　入

一、輸入額大別（單位千磅）

	一九二九年	比率	一九二八年	比率	增(＋)減(－)	
海外商品輸入額	七六、一二七	九一・九	七二、三二九	九一・八	(＋)	三、八九八
南北ローデシア及南西アフリカより輸入額	二、九四一	三・五二	三、八五二	四・二五	(－)	三四二
計（消費の爲の商品輸入額）	七九、〇三八	九四・七一	七五、一八一	九五・四三	(＋)	三、五五六
南阿諸政府輸入額	四、四〇九	五・二八	三、五八六	四・五三	(＋)	八二三
正貨輸入額	六	〇・〇一	二六	〇・〇四	(－)	二〇
輸入總額	八三、四七三	一〇〇・〇〇	七九、二四四	一〇〇・〇〇	(＋)	四、二九九

一九二九年の輸入增加は過去數箇年に亘り繼續する好景氣の結果である。政府の輸入額が多額に上る點は、政府が輸入消費者として重要な地位を占めて居ることを示すもので、其輸入品目は主として機關車、客貨車、軌條、枕木等の鐵道材料及針金、鐵柱等の電信、電話材料で、其供給國は英、獨、白、佛等である。

二、海外商品輸入額（通過貨物及再輸出を除く）經由港別

經由港	一九二九年 輸入額（千磅）	比率	一九二八年 輸入額（千磅）	比率	增(＋)減(－)（千磅）	比率
ケープ・タウン港	一六、五五七	二一・七五	一五、七九	二一・二九	(＋) 一、七八	三〇
同港經由小包郵便	三、一三〇	四・一一	三、〇七九	四・二六	(＋) 五一	一
ポート・エリザベス港	一九、〇〇八	二四・九七	一七、六二四	二四・四二	(＋) 一、三八四	二三
イースト・ロンドン港	六、九二四	九・一〇	六、三七二	八・八二	(＋) 五五二	一四
ダーバン港	二三、二八四	三〇・五九	二三、〇一八	三一・八九	(＋) 二六六	七

三、海外商品輸入額（品種別）

品目	一九二九年 數量 單位	價額 千磅	一九二八年 數量 單位	價額 千磅	一九二八年に比し增減 數量	價額 千磅
(一)動物及生産物	—	二六四				
(二)農産物（食料品を除く）	—	一二三				
(三)食料品						
小麥	千封度 五七、一〇九	一、五二六				
珈琲	同 二八、三四一	九三三				
茶	同 一三、〇八五	八七三				
米	同 九一、八二三	五六九				
小麥粉	同 六五、二四四	三四三				
砂糖	同 三九、六四二	二三八				
其他	—	三、〇六六				
計	—	七、五六七				
(四)酒類	—	五二六				
(五)非飲料酒精	—	九				
(六)煙草	—	一〇四				
(七)織物、被服、絲類及纖維類						
被服	—	三、三五九				
外衣	—	三、三五九				
デラゴア・ベイ	六、六七三	八・七七				
其他諸港及諸路	五四一	〇・七一				
合計（海外商品輸入額）	七六、一二七	一〇〇・〇〇				

	一九二八年 數量	價額 千磅	一九二八年に比し增減 數量	價額 千磅
小麥	三九	四八	(＋)	四八
珈琲			(－)	五九八
茶			(＋)	一九
米			(＋)	三三
小麥粉			(＋)	四三
砂糖			(＋)	二四
其他			(＋)	七三
計			(－)	四七七
類			(－)	二四
非飲料酒精			(－)	三
煙草			(＋)	二
被服			(＋)	三三
外衣			(＋)	三三

| | | |

其他	—	—	四〇五	—	—	—
計	—	—	三、八三五	—	—	—
其他（オイル以外のもの）	—	—	一、五五五	—	—	—
合計	—	—	五、三九〇	—	—	—
（十一）藥品、化學製品、肥料						
化學製品	—	—	一、三一六	—	—	—
肥料	千封度	四三七、三七七	五八三	四四四、一七九	—	—
其他	—	—	九一八	—	—	—
計	—	—	二、八一七	—	—	—
（十二）皮革及製品						
履物（靴の類）	千足	四、五二七	一、一二九	三、三二五	—	—
其他	—	—	五九六	—	—	—
計	—	—	一、七二五	—	—	—
（十三）護謨及製品						
タイヤ及チューブ	千封度	二、六六一	一、〇六一	一、〇九〇	（十）	一、八五五
其他	—	—	二七〇	—	（十）	二六〇
計	—	—	一、三三一	—	（十）	一、三一七
（十四）材木、籐、柳枝及製品						
材木（未加工）	千立方呎	一四、七九	一、九〇三	一、三五二	（一）	三〇
同（一部加工）	同	三、九三三	三八三	三、五九八	（十）	五五
同（計）	同	一八、七二二	一、八八六	一、九二一	（一）	二五
其他	—	—	一、〇三八	九二三	（十）	一六
合計	—	—	二、九二四	二、八二三	（十）	九一
（十五）書籍、紙類、文具類	—	—	二、六五七	—	（十）	三三

	—	—	二六七	—	（十）	二六
	—	—	二、八六六	—	（十）	九六九
	—	—	一、四〇六	—	（十）	一四九
	—	—	四、二五三	—	（十）	一、一二八
	—	—	一、四五八	—	（一）	一四三
四四四、一七九	—	—	五四五	（一）一六、八〇三	（十）	三八
	—	—	八六七		（十）	五一
	—	—	二、八七〇	—	（一）	五三
	—	—	一、五二五	一、〇九〇	（十）	三九
三、三二五	—	—	五七九	—	（十）	一七
	—	—	一、六六九	—	（十）	五六
九、七六六	—	—	一、〇五七	一、八五五	（十）	四
	—	—	二六〇	—	（十）	一〇
	—	—	一、三一七	—	（十）	一四
一五、一〇三	—	—	一、三五三	（一）	三〇	
三、五九八	—	—	三七八	（十）	五五	
一八、七〇一	—	—	一、九二一	（十）	二五	
	—	—	九二三	（十）	一六	
	—	—	二、八二三	（十）	九一	
	—	—	二、四五五	（十）	三三	

（十六）寶石類、時計、飾玩具、樂器等 — — 一、九七八

（十七）雜 — — 一、七八一

海外商品輸入額總計 — — 七六、一二七

（一）南阿聯邦が一九二九年に海外諸國より輸入したものゝ內、輸入價額の比較的大きいものは左の通り。（單位千磅）

品目	價額
機械類	七、八八二
食料品	七、五六七
被服	六、二四三
綿製品（被服を除く）	四、七二四
鐵及鋼製品	四、六四二
乘用自動車	三、六七〇
鐵及鋼	二、八八〇
石油（自動車用）	二、〇五一
乘用自動車（未組立）	一、九八九

（二）南阿聯邦が農牧國であるにも拘らず、一九二九年に於ける食料品の輸入額が七百五十六萬七千磅に上り、海外商品輸入額總計の九分九厘に當り、機械類に亞で第二位を占め、且同年の食料品輸出額（六百三十六萬八千磅）よりも約百二十萬磅も超過して居る點は注意すべく、製造工業の幼稚な點と共に國民經濟上に於ける大缺陷として識者の憂ふる所である。

（三）纖維紡績類（被服、袋類、ブランケット及ラッグ、綿製品、織物製家具類、絹製品、羊毛製品、小間物類等）の輸入額が二千萬磅以上に上り、海外商品輸入額總計の二割六分四厘を占め、又金屬及同製品、機械類、車輛の輸入額が二千五百萬磅以上に達し海外商品輸入額總計の三割三分を占め、何れも他の輸入品種に比し嶄然頭角を拔き、兩者の輸入額を合すれ

	—	—	一、六五三	—	（十）	一九五
	—	—	一、三五六	—	（十）	一五一
	—	—	一、三一六	—	（十）	三、八八八
	—	—	一、三〇三			
	—	—	一、三〇三			
	—	—	一、三一六			
	—	—	一、三〇〇			
	—	—	一、二二一			
	—	—	一、一九五			
	—	—	一、一三九			
	—	—	一、〇六一			
	—	—	一、〇〇一			

ば輸入總額の五割九分四厘に達する點は注目すべく、右は南阿に(一)繊維紡績事業の甚だ幼稚未發達なこと(二)南阿産業界の二大分野たる鑛業界及農業界で機械の需要及使用の旺盛なこと及(三)自動車需要の増大を物語るもので、東阿、中阿の各地域でも、多少の差こそあれ、一般的に認められる現象である。思ふに繊維紡績類は殆ど全部之を海外に仰ぐの止むを得ない各種の條件が備はり、且土人の文明開化と共に被服の需要急増の趨勢に在る阿弗利加の廣大な大陸に對し、注意を怠らず研究を倍加して新市場開拓に備へることは本邦業者の急務である。

(四)自動車關係品の輸入額は大體左の通りである。(單位千磅)

品目	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し増
モーター使用車輛	六、八七六	五、八〇〇	一、〇七六
石油(自動車用)	二、〇五一	一、四六〇	五九一
タイヤ及チューブ	一、〇六一	一、〇五七	四
計	九、九八八	八、三一七	一、六七一

(五)一九二八年に比し主なる増減は左の通りである。(單位千磅)

品目	
増	
機械類	一、〇八六
乘用自動車(未組立を含む)	九一一
石油(自動車用)	五九一
金屬製品、雜	四九四
貨物自動車(未組立)	二三四
被服	一九九
鐵及鋼	一九四
織物製家具	一七四
石油(燃用及燈用)	一六三
其他オイル	一一六
減	
小麥	五九八
ブランケット及ラッグ	四一四
鐵及綱製品	三三四
化學製品	一四二

四、主要海外輸入品

食料品　一九二九年に於ける食料品の輸入額が前年に比し減少したのは、全く小麥及小麥粉の輸入減少(六十四萬磅の減)に依る。其他の重要輸入食料品(珈琲、茶、米、砂糖)は何れも輸入額が増加した。

右小麥の輸入量減少は、一九二八年に於ける輸入過多と一九二九年に於ける聯邦内小麥の豊作とが原因である。

珈琲は一九二八年に比し量及價額共に増加した。右は茶と共に南阿に於ける二大飲料品であるが、南阿には産出しないからブラジル、ケニヤ殖民地等より輸入されて居る。

茶の輸入額は一九二八年に比し量、價額共に増加した。茶はナタール州で栽培されるが年産額は百萬封度に過ぎない。消費量の大部分は印度、錫蘭等より輸入して居る。ナタール州の茶生産業は廉價な錫蘭茶との競爭に妨げられ將來發達の見込はない。品質も亦錫蘭茶に及ばない。

米の輸入額は一九二八年に比し量、價額共に増加した。米に對する嗜好は同國人特に蘭系農民、所謂ボーア人間に相當強いものがある。右は昔ケープ州が和蘭東印度會社の領有であつた時、同會社の貿易船に依つて舶載された南洋産米を珍重した結果に由ると謂ふ。南阿には米を産することが殆ど稀である。消費の全部は南洋米(蘭貢米、西貢米、印度米)である。砂糖の輸入は一九二八年に比し量、價額共に増加した。

砂糖は南阿ナタール州でも栽培生産される。政府の保護政策と英本國の特惠關税とに依り其發達を助長され、産額年に増加し、一九二八―二九年には約三十萬噸の産額を豫想された。然るに一九二九年の南阿の砂糖消費量は約二十萬噸と推算されるから、ナタール製糖業は生産過剰の狀態に在る。而して一九二九年中、安價なチエツコ・スロヴアキア糖及キューバ糖、獨逸、和蘭、米國等の方面より南阿聯邦で盛んにダムピングをしたので、ナタール糖業は甚だしい脅威を受けたから、聯邦政府は是等諸國より輸入される砂糖に對しダムピング税を課し、之が輸入防遏に努めたが輸入量は前年よりも一千八百餘噸の増加を見た。

因に一九二九年に於ける南阿産砂糖の輸出量は十一萬八千三百三十二噸であつた。

被服　一九二九年の輸入額は機械類及食料品に亞て第三位を占めた。被服中外衣（既製服及古着）の輸入額が自動車（乘用）輸入額と匹敵する勢に在るのは注意すべき現象で、右輸入が如何に同國の仕立屋及製衣工場を壓迫しつゝあるかを窺知し得る。一九二九年下半期頃より南阿經濟界も不景氣となつたので、其壓迫が益々甚だしく、彼等の生活を脅威するので、仕立屋同業組合中には既製服の輸入稅を引上げ、古着類の輸入を禁止せよと主張するものが多い。

袋類　一九二九年の輸入額は一九二八年に比し、箇數は增加したが價額は減少を示した。袋類は同國重要產物たる石炭玉蜀黍、小麥、砂糖、羊毛、モヘヤ等の容器として需要が相當にある。麻袋の種別輸入額は左の通りである。

（イ）石炭、穀類、砂糖用

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	二三、三四三	八二六
一九二八年	二八、二二七	一、〇四五
一九二九年	三二、三〇二	九六七

（ロ）羊毛用

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	九三二	一五八
一九二八年	一、〇〇二	一八二
一九二九年	一、二五〇	一七一

穀粉用袋（リンネル、木綿其他）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	一六、六八八	一九〇
一九二八年	一八、〇二四	二〇九
一九二九年	一六、三六二	一三二

袋類の主要供給國は印度及英國である。

小間物　本品目には、手巾、レース及刺繡、女子用髮具、ネクタイ、カラーの類、リボン及細帶の類、洋傘及日傘、ボタン及スタツドの類を含む。一九二九年の輸入額百六十萬二千磅、一九二八年に比し八萬三千磅の增であつた。

綿製品（被服を除く）　一九二九年の輸入額は機械類、食料品、被服に亞いで第四位を占めた。

內、綿反物の輸入額は左の通りである。（單位千磅）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	三、六九四	一九二八年
一九二八年	四、三五八	一九二九年
一九二九年	四、三九二	一九二八年

內、木綿絲（縫絲及編絲）の輸入額は左の通り。（單位千磅）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	二三二	一九二八年
一九二八年	二四〇	一九二九年
一九二九年	二七〇	一九二九年

反物、絲以外の綿製品輸入額は左の通り。

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	二五八	一九二八年
一九二八年	一四〇	一九二九年
一九二九年	五八	一九二九年

絹製品　本品目中絹反物の輸入額は左の通り。（單位千磅）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	一、〇九八	一九二八年
一九二八年	一、二六九	一九二九年
一九二九年	一、二五六	一九二九年

絹反物の輸入關稅は一九二九年八月より從價一割五分より同一割に低下された。

羊毛製品　羊毛製品中反物の輸入額は左の通り。（單位千磅）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	一、三一八	一九二八年
一九二八年	一、五五五	一九二九年
一九二九年	一、五九〇	一九二九年

編絲及カガリ絲の輸入額は左の通り。（單位同前）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	七一	一九二八年
一九二八年	七二	一九二九年
一九二九年	七一	一九二九年

織絲の輸入額は左の通り。（單位同前）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	二三	一九二八年
一九二八年	二九	一九二九年
一九二九年	三五	一九二九年

ブランケツト及ラツグ　木綿製ブランケツト及ラツグの輸入額は左の通り。（單位千磅）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	六五〇	一九二八年
一九二八年	五八七	一九二九年
一九二九年	三五四	一九二九年

本品は土民の間に需要が多い。

羊毛製及綿毛交織製の輸入額は左の通り。（單位同前）

年次	數量（千箇）	價格（千磅）
一九二七年	五八四	一九二八年
一九二八年	六四五	一九二九年
一九二九年	四六一	一九二九年

家具(織物製)　本品目中にはカーペット及フロア・ラツグ、カーテン及同生地、模造皮、リノリウム及フロア・クロス、マツト、油布等を含む。内譯は左の通り。(單位千磅)

品目	一九二九年	一九二八年	品目	一九二九年	一九二八年
カーペット及フロア・ラツグ	二七六	二四二	リノリウム、及フロア・クロス	一四一	一五〇
カーテン及生地	四二	五五	マツト及マテイング	一九	二〇
模造皮、家具用	七二	六八	油布	一五	一三
			其他	三六〇	二〇三
			計	九二五	七五一

機械類　各品目中、輸入額で第一位を占めて居る。

機械類中、輸入額の最も多いのは例年の通り農業用機械で、電氣機械之に次ぎ、鑛石採掘機械、工業機械順次之に次で居る。

鐵及鋼　輸入額は第八位を占めて居る。

本品目に含まれる主要輸入品及其輸入額は左の通りである。

品目	一九二九年 數量(千「センタル」)	一九二九年 價額(千磅)	一九二八年 數量(千「センタル」)	一九二八年 價額(千磅)
ビツグ、インゴツト、スラブ、ブルーム	一三九	三五	一〇七	二一
アングル及チヤンネル	二三八	八〇	二三一	七二
バー、ボート及ロツド	六七五	三〇八	六四〇	二九五
鐵箍	四九	二九	五二	三〇
管、鑄鐵製	一六一	六二	一二九	五二
管、鍛鐵及鋼製	六七四	四九〇	七五九	五六〇
管繼手、鑄鐵製	九	一四	九	一八
管繼手、鍛鐵及鋼製	八六	二〇三	七四	一九二
プレート及シート裸及錫引	七三〇	四二三	七四二	三八一
シート亞鉛引、波形	一、四一七	八五六	一、二四四	七四九
同同平板	二〇七	一四四	一七六	一一八
錐及工具、鋼製	一三七	二三一	一二八	一九八

然るに鐵鑛は殆ど南阿聯邦内到る所に埋藏されて居る、其埋藏量は左の通り。(單位百萬噸)

良質鐵鑛	一三一	劣質鐵鑛	二、二八六、〇〇〇
並質鐵鑛	五、九〇〇	計	二、二九四、一六二
タイタン含有鐵鑛	二、一二〇		

右の通り鐵鑛の埋藏量は約二兆三千億噸に上り、特にトランスヴアル州プレトリア附近には良質鐵鑛と石炭とを並産し製鐵に理想的條件を備へて居るから、鐵鋼の輸入を幾分でも輕減する爲、南阿聯邦政府は官營獨占的製鐵事業を計畫し、一九二八年四月「製鐵及之に關聯する事業」を南阿に發達させる爲 South African Iron and Steel Corporation Limited, を設立する法律案を議會に提出し之が通過に成功した。右法律の定めた所に依り、同年プレトリアで資本金三百五十萬磅の製鐵會社が設立された。目下(一九三〇年五月)工場設計を了り近く歐洲企業家の入札に附する豫定である。

右會社の製鐵着手期は目下の處不明だが、工場完成の曉には年額十五萬乃至二十萬噸を製出し、聯邦内需要の約三分の一、特にトランスヴアル産金地域の需要を一手に引受ける豫定である。

鐵及鋼製品　輸入額は第五位を占めて居る。

本品目に含まれる主要輸入品及輸入額は左の通りである。

品目	數量 單位	一九二九年 數量	一九二九年 價額 千磅	一九二八年 數量	一九二八年 價額 千磅
ボールト、ナット及リベット	一、〇〇〇「センタル」	一九七	一七二	二二一	一七一
刄物（鍍金しないもの）		—	二六八	—	二五一
エナメル塗鐵器		—	一五二	—	一五四
垣檣材料（針金を除く）		—	二七五	—	二八二
炮銃		—	七九	—	六五
鋼鐵製家具		—	六七	—	六一
道具類		—	一九七	—	一七五
釘、螺旋、ワッシャー	一、〇〇〇「センタル」	一二六	一六二	一三五	一五九
鐵道材料					
レール	一、〇〇〇「センタル」	二二四	七〇	二四八	七七
鐵枕木	一、〇〇〇「センタル」	四一	一四	四〇	一四
機關車	臺	三八	七八	三八	二一六
客貨物		—	九二	—	三四六
其他		—	二〇一	—	二九七
計		—	四五五	—	九五〇
ストーヴ及附屬品		—	一七九	—	一七八
組立鋼材	一、〇〇〇「センタル」	二二二	一五五	二四四	九二
職工道具		—	三四九	—	二九二
鋼製窓框	一、〇〇〇「センタル」	五八	一二八	三八	九三
針金各種		一、二二七	八六〇	一、五〇一	一、〇五七
ホローウエア、其他		—	七四	—	七二
其他		—	一、〇九〇	—	九二六
合計		—	四、六四二	—	四、九七六

電氣關係材料　本品目に屬する輸入品中重要なものはケーブル及ワイヤー、電熱器及電氣炊事器である。（單位數量千センタル、價格千磅）

品目	一九二九年 數量	一九二九年 價額	一九二八年 數量	一九二八年 價額
ワイヤー及ケーブル電氣用	二九四	七七一	一六三	五六九
電熱器及電氣炊事器	—	一三三	—	一二八
其他	—	九八	—	一〇四
計	—	一、〇〇二	—	七九一

自動車　一九二九年自動車の輸入額は六百五十三萬六千磅で、一九二八年に比し百十三萬六千磅の增である。

乘用自動車既製品の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（臺）	價額（千磅）
一九二七年	一七、〇二五	三、〇六五
一九二八年	一八、二九八	三、一九九
一九二九年	二一、四七五	三、六七〇

一九二九年の輸入額が前四箇年の平均額よりも數量で三千五百臺、價額で約五十五萬磅の增加を示した點は注意すべく、之は一九二九年輸入過多の一實例で、一九三〇年に於ける自動車の輸入は大に減退するものと觀測されて居る。

乘用自動車（未組立）の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（臺）	價額（千磅）
一九二七年	四、七七九	八三一
一九二八年	八、二四七	一、二四九
一九二九年	一〇、〇〇八	一、六八九

一九二六年以來逐年急激な增加を示しつゝある。右は聯邦內に於ける自動車組立工業の發達狀況を指示するものである。

貨物自動車（未組立）殆ど全部未組立で輸入される。其輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（臺）	價額（千磅）
一九二七年	三、九〇三	六五三
一九二八年	五、〇八一	九〇五
一九二九年	七、三五八	一、一三九

未組立自動車の輸入額が逐年增加の趨勢に在ることは前述の通りだが、特に一九二九年には乘用、貨物を合し一萬七千餘臺に上つた。一九二五年の數字に比較すれば正に其十五倍である。右は聯邦政府が國內に自動車組立工業を創設助長する見地から、自動車部分品に對し、既製品よりも低廉な關稅を課徵する爲、英米の主要自動車製造會社が聯邦內に組立工場を設置した結果である。

石油　自動車用石油の(ガソリン、ペトロル其他)輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量(千「ガロン」)	價額(千磅)		
一九二七年	三七、七八七	一、三四〇	一九二八年	四九、一〇七
			一九二九年	六九、六四三
				一、四六〇
				二、〇五一

一九二九年の輸入數量は一九二五年に比し約三倍半に增加した。

燃用及燈用の過去五箇年間の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量(千「ガロン」)	價額(千磅)		
一九二五年	一〇、九七〇	四六五	一九二七年	一一、一二六
一九二六年	一〇、九五三	五二八	一九二八年	一四、二二一
			一九二九年	一九、九二一
				五〇〇
				五六〇
				七二三

催滑料として使用される石油の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量(千「ガロン」)	價額(千磅)		
一九二七年	四、四九四	四四〇	一九二八年	四、八八一
			一九二九年	六、一四一
				四五六
				五六七

燃料石油は船舶等で燃料として使用されるものを謂ふ。最近五箇年間の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量(千「ガロン」)	價額(千磅)		
一九二五年	一、四三九	一五	一九二七年	六、六七三
一九二六年	四、五八五	四二	一九二八年	一一、四八一
			一九二九年	一三、〇四五
				六九
				七九
				六七

最近南阿諸港に來航する新造船舶の殆ど大部分は所謂モーターボートで、舊造船中にもモーター船に改造されるものが多い。是等モーター船の需要に應ずる爲の ケープ・タウン港及ダーバン港には石油貯藏タンクの設備がある。モーター船來航漸增と共に南阿諸港に於ける南阿產石炭の需要は漸減し、輸入石油の需要は反對に增進するであらふ。是は南阿に取つては經濟上の一大問題である。夫故何とかして南阿で石油或は之が代用品を發見する必要ありとは久しい間の官民の輿論で、或はナタール州に產する砂糖蔗より自動車ガソリンの代用品を製造し (natalite と稱す)、或はナタール州及トランスヴアル州に豐富に埋藏されるオイル・シエールより石油を經濟的に抽出する方法を研究する等、官民協力して之が實現に努力しつゝある。最近聯邦政府では燃料研究所を設立し、石炭より石油を經濟的に抽出する方法を組織的に研究せしめる計畫を立て、之に關する法律及經費要求を議會に提出したが、無事通過したから遠からず右の研究は政府の手で開始されることゝなつた。因に南阿では石油は未だ發見されない。

植物性油　オイル中石油を除き、輸入額の比較的大きいものは植物性油で、輸入額の內譯は左の通りである。(單位數量千ガロン、價額千磅)

品目	一九二九年 數量	一九二九年 價額	一九二八年 數量	一九二八年 價額
カスタア・オイル	八八	一七	八六	一八
ココナツト・オイル	五一四	八一	五九四	八四
棉實油	六五	一〇	三四	五
滑料油(カスタア)	九〇	一八	五七	一〇
亞麻仁油(煮沸したるもの)	二六二	四一	二七八	四四
同(原)	二九五	四二	二八五	四三
パーム・オイル	一〇五	一六	五九	一〇
其他植物性油	五二二	九七	一〇二	五二
計	一、九四一	三二二	一、四九五	二六六

ペンキ其他塗料　輸入趨勢は左の通りである。

年次	(單位千磅)
一九二七年	三七一
一九二八年	三八二
一九二九年	四五三

石鹸　一九二九年及一九二八年輸入額の内譯は左の通り。（單位數量千封度、價額千磅）

品目	一九二九年 數量	價額	一九二八年 數量	價額
石鹸、普通、洗濯	一、三九六	三一	一、三九一	三一
石鹸、化粧	六四三	六〇	八九五	六八
石鹸其他	一、〇三五	三一	九三五	三〇
計	三、〇五四	一〇二	三、三三一	一〇九

石鹸は南阿で多量に製造される。但し其大部分は普通石鹸、洗濯石鹸及羊毛洗用石鹸で、化粧石鹸特に高級のものは海外特に英米より輸入される。

タロー（脂）　タローの輸入は殆ど全部動物性で、輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（千封度）	價額（千磅）
一九二八年	七、五三七	二七
一九二九年	七、四九二	二六

パラフイン蠟の輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（千封度）	價額（千磅）
一九二八年	三一、三八	三九
一九二九年	二五、八一〇	三五一

セメント　一九二九年の輸入額は二億一千九十二萬一千封度（九萬四千百五十噸）價額十八萬一千磅で、一九二八年に比し八千四百八十四萬封度（三萬七千八百七十噸）價額六萬三千磅の增を示し、其大部分は建築用である。因に建築用セメントの輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（千封度）	價額（千磅）
一九二八年	二二五、一四六	二二
一九二九年	二九、〇四八	二九

而して一九二九年輸入額の九割二分即ち一億九千三百三十四萬二千封度（八萬六千三百十噸）は白耳義よりの輸入である。斯く多量に輸入された爲、一九二九年中南阿のセメント製造會社は何れも難境に陷り、中には工場を閉鎖したものもある。

元來南阿に於ける建築用セメントの需要年額は三十五、六萬噸で、從來は三十萬噸內外を國內工場で製造供給し、四、五萬噸を海外輸入に仰いで居たが、政府が國內セメント製造業保護の爲に課しつゝある四百封度に付一志三片の高率關稅と、白耳義、加奈陀、丁抹、エストニア、獨逸、英國、伊太利、モザムビイク、諸威、瑞典、ユーゴースラヴイアの諸國より輸入されるセメントに對し課しつゝあるダムピング稅とに拘らず、セメントの輸入は近年却つて增加を示しつゝある。

陶磁器及土器、石器　一九二三年の輸入額は四十四萬四千磅で、一九二八年に比し約八萬二千磅の增である。輸入趨勢は左の通りである。

年次	（單位千磅）
一九二八年	一八七
一九二九年	二六九

瀨戶物の主要供給國は英國を最とし獨逸、チエツコ・スロヴアキア、日本が之に亞いで居る。南阿には煉瓦、タイル等の製造業は相當見るべきものがあるが、瀨戶物の製造は未だ發達して居ない。

硝子及製品　一九二九年の輸入額は五十八萬一千磅。一九二八年に比し五萬八千磅の增。內譯は左の通りである。（單位千磅）

品目	一九二九年	一九二八年
瓶及ジアー	二三五	二三一
板	二三	一〇八
其他	一五三	二一三
計	五八一	五三四

南阿には硝子製造工場はない。

アスファルト及瀝青　輸入趨勢は左の通りである。

年次	數量（千封度）	價額（千磅）
一九二八年	三八、五二九	八九
一九二九年	四五、一八一	一〇六

主な供給國は米國及メキシコである。

化學製品　輸入內譯は左の通りである。（單位數量千封度　價額千磅）

品目	一九二九年 數量	價額	一九二八年 數量	價額
酸類	一、三四五	四七	一、四一三	四四
アムモニア化合物	一、〇四三	三	一、三五三	三一
ポツタシウム化合物	一、七〇九	三一	一、九一三	三五
ソヂウム化合物	三七、九二〇	三九	三一、三五一	三七八

ソヂウム化合物中の主なものゝ一九二九年の輸入額は左の通り。

品目	數量(千封度)	價額(千磅)
ソヂウム・シアナイド	二一、一〇五	二九三

ソヂウム・シアナイドは金を鑛石より抽出する爲め缺くべからざる藥品で、ジョハネスバーグ市を中心とする金坑地域で最も需要が多い。最近の輸入趨勢は左の通り。

年次	(千封度)	
一九二八年	一〇、三二〇	二五六
一九二九年	二一、一〇五	二九三

硝石(硝酸ナトリウム)は南阿の最大産業たる鑛業界で需要の多い火藥の原料として使用される。窒素化合物の一九二九年輸入額は左の通り。

品目	數量(千封度)	價額(千磅)
硝石	六九、七三一	三八
窒素化合物其他	一五三	二
窒素化合物 計	六九、八八四	三四〇

硝石は全部智利國より輸入される。

年次	數量(千封度)	價額(千磅)
一九二八年	七四、六五九	二六五
一九二九年	六九、七七三	三八

硝石は農業界でも肥料としての需要が漸增の形勢に在る。數年前南西阿弗利加で廣汎な地域に亘る硝石の埋藏が發見されたが、品質及埋藏情況が不良で且地域遠隔等の爲未だ採掘しない。同國に於ける硝石の需要供給狀況は前述の通りであるから、世界に於ける一大化學製品製造會社たる英國の Imperial Chemicals Ltd. は南阿に於て空氣より窒素を抽出する工場及石炭よりガソリンを抽出する工場を設立することを計畫し、社長メルチエット卿は一九三〇年初頭態々來阿し、實地調査の上歸英した。右計畫は遠からず實現されるであらふ。

醫藥及藥劑用具　內譯は左の通り。

品目	一九二九年	一九二八年	一九二八年に比し增(+)減(−)
醫藥	四五三	四三一	(+) 三
藥劑用品	六八	八〇	(−) 一三
計	五二一	五一一	(+) 一〇

聯邦內需要の醫藥及藥劑用品は大部分海外より供給される。

肥料名	(千封度)	(千磅)
鐵滓肥料	二四、七四八	三〇
骨肥料	一八、二五〇	四八
燐酸鹽(原)	一〇二、三七〇	六六
過燐酸鹽	三一八、八六八	二七九

肥料一九二九年輸入の內容は左の通りである。

炭酸加里肥料	一三、一九四	三三
硫酸アムモニア	六、一三三	二九
其他	三三、八四四	七九
計	四七、三七七	一五二

鐵滓肥料は大部分白耳義より輸入される。

骨肥料の主な供給國は獨逸、和蘭で、白耳義、佛蘭西、マダガスカル島が之に亞いで居る。

燐酸鹽(原)即ち所謂燐礦は、最近では殆ど全部モロツコより輸入される。

輸入過燐酸鹽は大部分和蘭より供給され、殆ど和蘭の掌中に在りと謂つても良い。南阿に於ける過燐酸製造工場は今尙二三に過ぎない。從つて産額も亦謂ふに足らない。

炭酸加里肥料は大部分獨逸より輸入される。

硫酸アムモニアは最近では大部分英國より輸入される。

履物　輸入内容は左の通りである。

品目	數量(千足)	價額(千磅)
皮製靴男子用	三四七	二〇九
皮製靴女子用	一、二八四	三三四
同同小兒用	二七九	五五
同同嬰兒用	五五	五一
皮製スリツパア	四五一	六三
キヤムバス製靴、運動及散歩用	一、一三一	一四七
同護謨製(オーバーシューズを含む)	四〇七	四七
其他履物	一〇一	二四
計	四、五一七	一、二九

聯邦内靴類の需要量は年約六百萬足と推算される。而して製靴業は聯邦内主要工業の一で、其生産額は海外輸入品と殆ど匹敵する勢に在る。然し乍ら一九二九年には海外より約四百萬足の靴類が輸入されたから一九二九―三〇年の聯邦製靴業は外國品に壓迫されることが甚だしい。

鞣皮　主な供給國は英及獨で、主として製靴材料に使用される。輸入趨勢は左の通りである。(單位數量千封度、價額千磅)

年次	數量	價額
一九二七年	一、四四九	三六一
一九二九年	一、三六九	四七四

護謨製タイヤ及チューブ　一九二九年輸入の内容は左の通り。

	數量(千封度)	價額(千磅)
タイヤ		
自動車用	九、三三五	八二四
モータアサイクル用	一三三	一五
自轉車用	四六六	五〇
其他	四三〇	二四
計	一〇、三六	九三
チューブ		
自動車用	一、三三一	一三五
モータアサイクル用	二五五	三
自轉車用	一四六	二一
其他	四	一
計	一、四〇六	一四八
合計	二、六六一	一七〇六一

輸入趨勢は左の通り。

年次	數量(千封度)	價額(千磅)
一九二八年	一、四四五	一七〇五七
一九二九年	二、六六一	一七〇六一

木材　一九二九年輸入材木中主なものは左の通りである。

品目	數量(千立方呎)	價額(千磅)
オーク材	七〇一	一三五
チーク材	六二八	一三六

床板、天井板等の如き一部加工品の輸入内容は左の通り。

品目	數量(千立方呎)	價額(千磅)
床板及天井板	三、八七〇	三七八

南阿の地域は大部分カルーと稱する準砂漠的高原で、幸にして、降雨不足勝であるから、辛じて羊を牧するに足る位の牧草或は雜草或は棘叢の生ずるに過ぎない有樣で、本邦に在る樣な森林は甚だ稀で、僅に南海岸に沿つた山脈の海に面した山腹又は谷間等水分の比較的豊富な所に發見されるに過ぎない。而も是等でも連續した大森林は南海岸モツセル・ベイ附近に幅約十哩長さ約百十哩の地域に多少連續した自然林のあるのを除けば、

他は嶮角たる裸山の谷間に孤立的に散在發見される小森林に過ぎない。是等も歐洲人が同國に來住以來木材稀少の爲濫伐され、大部分は其跡を絶ち僅に殘つたものも遠からず絶滅に瀕したから、聯邦成立と同時に同國政府は自然林の大部分を森林省の管理と爲し、一方銳意植林を行つた結果、最近では材木の産出額は少量乍ら增加の勢を示した。一九二六年に於ける南阿聯邦の森林面積は左の通りである。(最近の調査)(單位「モルゲン」—約二「エーカー」)

		ケープ州	ナタール州	トランスヴァール州	オレンヂ・フリー・ステート州	南阿聯邦
植林	松	二、四三二	三、一八四	五、七二七	二、八二五	一四、六四八
	ポプラ	五、七二三	七六七	二、二五五	二、八八〇	一二、五三五
	ワットル	八、〇三三	一〇五、三九三	三三、九五七	九二六	一三七、二九九
	其他	一五、一一一	一〇、七二一	四〇、二七〇	三五、六二九	九五、九九一
	計	一五、一一一	一一〇、一二五	四六、三三八	三一、七九九	二六九、一四五
自然林		一〇五、〇六一	二五、九七七	三六、三二八	四、二七五	二五一、二四一
合計		一二〇、二七二	一三五、八九二	四三、三二七	三六、〇四四	七九〇、三八四

而して一九二六年に於ける是等森林よりの材木産出高は左の通りである。

品目	數量單位	植林	自然林	計
鐵道枕木	挺	一六、一四二	五九、三〇四	七五、四四六
鑛坑支柱	噸	二四三、二三一	六、七八六	二五〇、〇一七

最近五箇年間に於ける官有林よりの材木産出高は左の通り。因に官有林材木産額は南阿材木産額の大部分を占め、私有林よりの材木産額は不詳だが殆ど謂ふに足らない。

年次	産額
一九二四—二五年	一、五六一、九〇〇 立方呎
一九二五—二六年	二、一〇五、九〇〇 同
一九二六—二七年	二、〇一三、一〇〇 同
一九二七—二八年	一
一九二八—二九年	二、三一〇、一〇〇 同

右の樣に逐年增加の趨勢に在るが、其産額は南阿需要額の約一割を充すに過ぎない。

前述の如く南阿林業の一班を略述した所以は、材木が本邦の對南阿輸出品中重要な地位を占めて居るからである。

木箱　木製品中最も輸入額の大きいものは梱包用空箱で、一九二九年輸入額は約三十四萬五千磅に上つた。一九二八年に比し約二萬二千磅の增である。輸入品の大半は同國重要輸出品の一たる生果梱包用として使用され、輸入量の約九割は瑞典より供給されて居る。

南阿に於ける果實栽培業及養鷄業は最近數箇年間に飛躍的な發展を示し、其生産品の海外輸出も今後益々增加する形勢に在るから、木箱輸入は今後も引續き增加するものと觀測される。

紙類　一九二九年の輸入額は百四十八萬九千磅で、一九二八年に比し十五萬四千磅の增を示したが、一九二九年輸入の內容は左の通りである。

品目	數量單位	數量	價額(千磅)
印刷用、新聞用	千「センタル」	三九一	二三六
其他同		三五〇	四七四
包紙同		二五〇	二七二

新聞用紙は大半加奈陀より供給されて居る。

新聞紙以外の印刷用紙輸入額の約半分は英國の供給品であるが、包紙は主として加奈陀、瑞典、諾威より供給される。

輸入壁紙の九割五分は英國より供給されて居る。

壁紙	千卷(マキ)	一、二九八	四七
其他		—	四四〇
計			一、四八九

南阿には紙類の產出が殆ど無く、その消費する紙類は殆ど全部海外よりの輸入品である。而して輸入額は大體に於て逐年增加しつゝある。卽ち左の通り。

年次	(單位千磅)	年次	(單位千磅)
一九二七年	一、二八一	一九二八年	一、三三五
		一九二九年	一、四八九

玩飾具（フアンシーグツズ）過去五箇年間の輸入額は左の通り。

年次	(單位千磅)	年次	(單位千磅)
一九二五年	一一四	一九二七年	一七〇
一九二六年	一五五	一九二八年	二二五
		一九二九年	二五三

寶玉類　過去五箇年間の輸入趨勢は左の通り。

年次	(單位千磅)	年次	(單位千磅)
一九二五年	一一九	一九二七年	一一〇
一九二六年	九五	一九二八年	一二三
		一九二九年	一四一

樂器類　一九二九年輸入額七十三萬六千磅、一九二八年に比し十一萬六千磅の增。輸入內容は左の通り。（單位千磅）

品目	價額	其他樂器	一一六
蓄音機及レコード	四六九	計	七三六
ピアノ（ピアノラを含む）	一五一		

蓄音機及レコードの約八割は英國より、ピアノの約七割五分は獨逸より供給されて居る。

時計　一九二九年の輸入額は十九萬九千磅で、一九二八年に比し一萬一千磅の增を示したが、輸入價額の四分の三は懷中時計である。柱時計は主として獨逸、懷中時計は瑞西より供給される。

運動具及戲具　一九二九年輸入額十八萬五千磅、一九二八年に比し約六千磅の增、約九割は英國よりの供給である。

玩具　一九二九年の輸入額は約十八萬磅で、一九二八年に比し一萬四千磅の增を示し、輸入額の約四割五分は獨逸、四割は英國が供給して居る。

信管　信管はジョハネスバーグ市を中心とする金坑地域で需要が多い。一九二九年の輸入額は四百七十一萬一千封度、價額約二十五萬三千磅で、一九二八年に比し九千封度價額約六百磅の增を示し、主として英國より供給される。

活動フイルム　一九二九年の輸入額は七百八十六萬八千呎、價額十九萬五千磅で、一九二八年に比し十六萬七千呎の減少であるが、價額は七千磅增加した。主要供給國は米、英で米七割二、三分、英二割五分を供給して居る。

第三節　輸出

一、輸出額大別（單位千磅）

	一九二九年	比率	一九二八年	比率	增(+)	減(−)
南阿生產及製造						
海外へ輸出（再輸出を含まず）						
農牧產物	二六、五一八	二七・六七	三一、九七八	三三・八一	(−)	五、四六〇
鑛產物	五〇、五七八	五二・七七	三七、一八一	三九・三二	(+)	一三、三九七
其他產物	八八一	〇・九二	九三一	〇・九八	(−)	五〇
正貨	一〇、三八五	一〇・八四	一八、二一九	一九・二七	(−)	七、八三四
計	八八、三六二	九二・二〇	八八、三〇九	九三・三八	(+)	五三
南西阿弗利加及南北ローデシアへ輸出（正貨を含む）	三、〇六〇	三・一九	二、五七六	二・七二	(+)	四八四
計	九一、四一二	九五・三九	九〇、八八五	九六・一〇	(+)	五三七
再輸出（正貨を含む）	四、四〇八	四・六一	三、六八四	三・九〇	(+)	七二四
輸出額總計	九五、八三〇	一〇〇・〇〇	九四、五六九	一〇〇・〇〇	(+)	一、二六一

船舶へ供給		
石炭（バンカーコール）	一、八二三	—
其他	二一〇	—
計	二、〇三三	—

南阿で生産又は製造され海外に輸出される物品は之を四大別することを得る。即ち(イ)農牧産物、(ロ)鑛産物、(ハ)其他の産物、(ニ)正貨である。内、重要なものは(イ)、(ロ)及(ニ)で(ハ)即ち、工業製造品、林産物、海産物等の輸出は殆ど謂ふに足らない。(ニ)の正貨は全部金貨で、聯邦内及ローデシアに於ける諸金坑より産出した金を聯邦首府プレトリアの造幣廠で金貨に鑄造し海外に輸出したものである。若し正貨を鑛産物と看做すならば、南阿の生産又は製造に係る海外輸出品は農牧産物及鑛産物の二種に過ぎないのである。一九二九年の輸出額及輸出額總計に對する率は左の通りである。

一九二九年輸出類（單位千磅）		輸出額總計に對する百分率
農牧産物	二六、三二八	二七・六七
鑛産物（正貨を含む）	六〇、九六三	六三・六一
計	八七、四八一	九一・二八
其他	八、三五一	〇・九二
海外輸出額	九五、八三二	九二・二〇

尙又海外輸出額の見地よりすれば其九割九分は農牧産物及鑛産物で占め、前者三後者七の割合である。

農牧産物の輸出額は一九二八年に比し五百四十六萬磅の大減少である、輸出品中主要なものは羊毛、玉蜀黍及製品、皮革、砂糖、果物、ワットル・バーク、モヘヤである。右輸出額減少は主として羊毛、玉蜀黍、皮革類の輸出價額減退に基因する。而して是等農牧産物の輸出價額減退は、世界的生産過剩に依る値段暴落が原因だと稱せられて居る。

鑛産物（金貨を除く）の輸出額は一九二八年に比し一千三百三十九萬七千磅の增で、主な輸出品は金塊、ダイアモンド、銅、石綿（原）、石炭で就中、金及ダイアモンドの輸出增加は顯著で、增加額の大部分を占めて居る。卽ち左の通りである。

品目	一九二九年輸出價額（千磅）	一九二八年に比し增（千磅）	減（千磅）
金塊	三五、八九〇	一〇、〇九四	—
ダイアモンド	一三、〇七四	三、一八六	—
銅	四八五	一〇九	—
石綿（原）	一八四	八	—
石炭	九四〇	五〇	—
其他	一、〇〇五	五〇	—
計	五〇、五七八	一三、四四七	—
差引			一三、三九七

金及ダイアモンドは南阿鑛産物中の双璧で、輸出額總計に對し金の輸出額は三割七分四厘六毛、ダイアモンドは一割二分六厘を占め、兩者を合せれば、その五割六毛に相當する。即ち一九二九年南阿聯邦輸出價額總計の半は金及ダイアモンドで占めた。即ち左の通りである。

一九二九年南阿聯邦輸出額（單位千磅）

南阿産物	輸出價格	輸出價格總計に對する百分率
金塊	三五、八九〇	三七・四六
ダイアモンド	一三、〇七四	一三・六〇
其他物産	三四、九七九	三四・四一
計	八〇、九四三	八四・四七
再輸出	四、三〇六	四・四九
正貨輸出	一〇、五八一	一一・〇四
輸出價額總計	九五、八三〇	一〇〇・〇〇

南阿で鑄造された金貨で一九二九年中海外及隣接地域に輸出された價額は一千四十三萬九千磅で（內、約百三十萬磅はローデシア産金を聯邦プレトリア造幣廠で鑄造したものである）、一九二八年に比し七百八十萬磅の減である。一九二九年の金貨輸出額に前表の金塊輸出額を加算すれば、南阿聯邦の産出及製造に係る金塊及金貨の一九二九年の輸出額は四千六百三十三萬磅の巨額に上り、輸出額總計の四割八分を占める。之にダイアモンドの輸出額を加算すれば五千八百四十萬四千磅となり、卽ち南阿聯邦輸出額總計の六割强は（金塊及金貨）及ダイアモンドで占めた。

品目	一九二九年輸出額（單位千磅）	輸出額總計に對する百分率
金 金貨	一〇、四四〇	—
金 金塊	三五、八九〇	—
計	四六、三三〇	四八・〇九
ダイアモンド 原石	一〇、七五一	—
ダイアモンド カット	一、三二四	—
計	一二、〇七四	一二・六〇
合計	五八、四〇四	六〇・六九

一九二九年半頃より農牧產物市價の世界的暴落の爲、世界各國特に農牧產物輸出國は殆ど何れも甚大な打擊を蒙つたが、南阿も其例に洩れず、農業界の購買力減退の爲、一九三〇年輸入の減退は一般に豫期される所である。然し乍ら南阿輸出額の約五割は金が占め且金の値段は一般物價と反比例する事實から見て、農牧產物市價暴落に依る打擊は南阿經濟界の一部に止まり、その基礎に迄及ぶことは絕對になからふと思はれる。

農牧鑛產物以外で輸出上重要なものは鯨油及魚類であるが、鯨油の一九二九年の輸出額は三十五萬磅、一九二八年に比し十一萬二千磅の增で、又魚類の一九二九年の輸出額は二十九萬八千磅で、一九二八年に比し增減がない。

二、南阿產物海外輸出額（再輸出を除く）港別　（單位千磅）

輸出港	一九二九年 輸出價額	一九二九年 比率	一九二八年 輸出價額	一九二八年 比率	一九二八年に比し增(十)減(一)
ケープ・タウン	一〇、二七三	一三・一九	八、八八八	一二・六八	(+) 一、三八五
ダイアモンド	三三、三八八	四二・八二	二二、五四一	三〇・七三	(+) 一二、八四七
金塊	六、四五三	八・二七	五、四〇〇	七・七一	(+) 一、〇五三
其他南阿產物	五〇、一一四	六四・二八	三五、八二九	五一・一二	(+) 一四、二八五
計	七、〇五〇	九・〇四	八、一五九	一一・六四	(−) 一、一〇九
ポート・エリザベス	五、五九一	七・一七	七、〇九六	一〇・一三	(−) 一、五〇五
イースト・ロンドン					
ダーバン	二、四九六	三・二〇	四、二五九	六・〇八	(−) 一、七六三
金塊	一一、二四五	一四・四二	一三、四一九	一九・一四	(−) 二、一七四
其他南阿產物	一三、七四一	一七・六二	一七、六七八	二五・二二	(−) 三、九三七
計	一、〇六一	一・三六	八九二	一・二七	(+) 一六九
デラゴア・ベー（ロレンソ・マルケス）	八六	〇・一〇	一一八	〇・一七	(−) 三二
モッセル・ベイ	三三三	〇・四三	三一八	〇・四五	(+) 一五
其他					
合計（南阿產物海外輸出額）	七七、九七六	一〇〇・〇〇	七〇、〇九〇	一〇〇・〇〇	(+) 七、八八六

一九二八年と比較すると、主要港中、輸出額の增加したのはケープ・タウン及デラゴア・ベイの二港で、ポート・エリザベス、イースト・ロンドン及ダーバンは何れも減退した。

ケープ・タウン港の輸出價額の八割は金及ダイアモンドで、他は南阿產物（主として羊毛、玉蜀黍、生果、石炭、皮革）の輸出額（南阿產物海外輸出總額の八分强）に過ぎない。

因にケープ・タウン輸出金塊は英國及南米向だが、一九二九年には全部英國へ輸出された。

第二位はダーバン港で、特殊輸出品たるダイアモンド及金を除いた「其他」の南阿產物の輸出額では南阿聯邦物產輸出港中の第一位を占めて居る。因にダーバン港輸出の金は印度、東阿、海峽殖民地又は蘭領東印度向のものであるが、一九二九年には殆ど全部印度に輸出された。

第三位はポート・エリザベス港で、輸出品の主なものは、羊毛・皮革である。

第四位はイースト・ロンドン港で一九二九年の主な輸出品は羊毛、皮革、第五位はデラゴア・ベイ（葡領東阿の海港、ロレンソ・マルケスとも云ふ。南阿聯邦トランスヴアル州物產の輸出港）で主な聯邦產輸出品は石炭、玉蜀黍である。

三、南阿産物海外輸出額（品種別）

品種及品名	數量單位	一九二九年 數量	一九二九年 價額（千磅）	一九二八年 數量	一九二八年 價額（千磅）	一九二八年に比し增減 數量	一九二八年に比し增減 價額（千磅）
農牧産物							
皮革類							
革類（牛）	千封度	三三、六二九	一、一三四	三四、三八九	一、一三四	(一) 七六〇	(一) 一、三
皮類（羊、山羊）	同	四一、九二三	一、九三九	四四、七八八	二、三四四	(一) 二、八六五	(一) 四〇五
其他	同	—	五〇	—	七	(一) —	(一) 二七
計	同	七四、五六二	三、一三五	八八、一七七	四、六五七	(一) 一三、六一五	(一) 一、五四四
羊毛							
洗上	同	六、七三一	七四〇	六、六三〇	八七五	(十) 一〇一	(一) 一三五
脂付	同	二八〇、一四七	一三、八一一	二四六、八七六	二三、五二七	(十) 三三、二七〇	(一) 二、九五
計	同	二八六、八七八	一四、五五一	二五三、五〇七	二四、四〇二	(十) 三三、二七一	(一) 二、三五〇
モヘヤ	同	二〇〇、三八	六四三	一七七、〇二四	七二四	(十) 二二、三四四	(一) 八一
ワットル・バーク及同越幾斯							
ワットル・バーク	同	一四六、六五七	三、一四二	一七一、〇一七	二、一四一	(一) 二四、三六〇	(一) 二八一
同越幾斯	同	二八〇、〇四七	五、七四三	二一一、三〇七	二、四三一	(十) 六八、七四〇	(十) 三六一
計	同	一七四、七〇四	三、五五七	一九二、三二四	二、七五五	(一) 一七、六六〇	(一) 三二〇
バタ及チーズ							
バタ	同	二、一八七	一、九七三	一、八七	一、六九	(十) 一、九七三	(十) 二三七
チーズ	同	一、八七	一、四〇	八一	九	(十) 六〇	(十) 三一
計	同	二、二七四	一、九七三	一、九五五	一、六八	(十) 二〇七	(十) 二五四
鷄卵	千箇	三〇、三〇四	二六八	二二、〇三〇	二六八	(十) 八、二七四	(十) 四四
獸肉							

鮮及凍	千封度	三五、一九六	二九一	三三〇	(十) 八〇六	(十) 六一	(十) 一〇
其他ハム、ベーコン、ラード等	同	六三	四	四	(一) 一八	(一) 一	(一) 一
計	同	二五、二五九	二九五	三三四	(十) 八〇三	(十) 六一	(十) 九
玉蜀黍及製品							
玉蜀黍（穀）	同	七二八、〇〇一	三、五二一	三、五二一	(一) 四二、九一九	(一) 一、三〇九	(一) 四一
ホミニー・チョップ及メーズ・グリツツ	同	三三、七九八	七四八	一四、七九	(一) 三六、六三八	(一) 七三一	(一) 一、三五
メーズ・ミール	同	一、〇〇、一八三	一、一八、九八一	一四一、八三九	(十) 四三、三四三	(十) 八六二	(十) 一、八六二
計	同	一、一八、九八一	一、一四九、九三〇	一、一四九、九三〇	(一) 四二、九一九	(一) 一、三〇九	(一) 四一
果物							
鮮	千箱	二、八一七	一、一五二	一、七九〇	(十) 一、三四五	(十) 一二七	(十) 一五
乾	千封度	七、四四五	一、一五一	八、七九〇	(一) 一、三四五	(一) 一、一四四	(一) 一五
計		—	一、一四四	—	(十) 一、〇〇三	(十) 一一一	(十) 一一
砂糖	同	二三六、六四四	一、一九八	一二六、二五二	(十) 九〇、四〇一	(十) 二〇五	(十) 二
棉花	同	三、八九八	一六〇	四、四四四	(一) 五五六	(一) 四四	(一) 四
其他農牧産物	—	—	七二	—	(十) 六六一	(十) 九九	(十) 一
合計（農牧産物）	—	—	二六、五一八	—	(一) 一、九八一	(一) 五、四六〇	(一) 五
各種煙草	千封度	一、一〇五	七四	一、〇八五	(十) 九一	(一) 二〇	(一) 二
酒類							
葡萄酒	千「ガロン」	五七五	七八	三五七	(十) 二八	(十) 三	(十) 三
其他（ブランデイ、ジン、ラム、ウイスキー）	同	—	三四	—	(十) 三	(十) 二	(十) 二
計	—	—	一二三	—	(十) 八五	(一) 二	(一) 二
鑛産物							
金	瓩	千「フアイン・オンス」八、四四九	三五、八九〇	二五、七九六	(十) 二、三五六	(十) 一〇、〇九四	(十) 四九、八五